

# 科目等履修生・聴講生 講義一覧

## 【授業時間】

①限 8:50～10:20 ②限 10:30～12:00 ③限 12:50～14:20 ④限 14:30～16:00 ⑤限 16:10～17:40

## 【科目一覧】

No.	開講期	2020開講科目名称	教員名	曜日時限	受講可否	
					科目等履修生	聴講生
1	前学期	歴史学	西村 正芳	火・2限	○	○
3	前学期	倫理学	岩井 謙太郎	木・3限	○	○
5	前学期	多文化共生論	大谷 杏	月・3限	○	○
7	前学期	心理学	伊藤 直美	月・3限	○	○
9	前学期	教育学	江上 直樹	火・2限	○	○
11	前学期	日本国憲法	桜沢 隆哉	金・4限	○	○
13	前学期	民法	桜沢 隆哉	金・5限	○	○
15	前学期	政治学	藤島 光雄	水・2限	○	○
17	前学期	数学基礎I	前田 一貴	月・5限	○	○
19	前学期	「持続可能な社会」論	倉田 良樹	水・1限	○	○
21	前学期	簿記論I	井上 直樹	金・3限	○	○
23	前学期	工業簿記	井上 直樹	金・4限	○	○
25	前学期	社会調査論	佐藤 充	金・3限	○	○
27	前学期	統計学	倉本 到	金・4限	○	○
29	前学期	統計学	倉本 到	水・3限	○	○
31	前学期	経営学入門	加藤 好雄	月・2限	○	○
33	前学期	地域資源論	谷口 知弘	木・1限	○	○
35	前学期	マーケティング	加藤 好雄	月・4限	○	○
37	前学期	経営組織論	鄭 年皓	月・4限	○	○
39	前学期	人的資源管理論	鄭 年皓	木・2限	○	○
41	前学期	経営情報システム論	神谷 達夫	火・1限	○	○
43	前学期	プログラミングI	神谷 達夫	金・3限	○	○
45	前学期	社会福祉論	川島 典子	金・1限	○	○
47	前学期	グローバル特別講義I(北近畿の地域創生I)	杉岡 秀紀	水・3限	○	○
49	前学期	財務諸表論	井上 直樹	金・2限	○	○
51	前学期	流通システム論	佐藤 充	水・4限	○	○
53	前学期	地域農業システム論	山本 公平	火・2限	○	○
55	前学期	地方自治論	杉岡 秀紀	火・2限	○	○
57	前学期	非営利組織論	杉岡 秀紀	水・2限	○	○
59	前学期	コミュニティビジネス	塩見 直紀	木・3限	○	○
61	前学期	税務会計	飯田 哲也	水・4限	○	○
63	前学期	中小企業論	佐藤 充	金・2限	○	○
65	前学期	観光総論	中尾 誠二	月・5限	○	○
67	前学期	農業経営論	山本 公平	火・3限	○	○
69	前学期	医療事務総論	岡本 悅司	火・4限	○	○

# 科目等履修生・聴講生 講義一覧

## 【授業時間】

①限 8:50~10:20 ②限 10:30~12:00 ③限 12:50~14:20 ④限14:30~16:00 ⑤限 16:10~17:40

## 【科目一覧】

No.	開講期	2020開講科目名称	教員名	曜日時限	受講可否	
					科目等履修生	聴講生
71	前学期	地域医療福祉論	川島 典子	金・2限	○	○
73	前学期	文化人類学	渋谷 節子	水・4限	○	○
75	前学期	線形代数基礎	渡邊 扇之介	月・5限	○	○
77	前学期	微分積分基礎	渡邊 扇之介	木・3限	○	○
79	前学期	地域情報学I	西田 豊明	火・5限	○	○
81	前学期	データサイエンス入門	畠中 利治	水・3限	○	○
83	前学期	数学応用	神谷 達夫	木・2限	○	○
85	前学期	情報学入門	山田 篤	月・3限	○	○
87	前学期	インターネット	河合 宏紀	火・1限	○	○
89	前学期	サービスエンジニアリング	山本 吉伸	木・1限	○	○
91	前学期	データ理解	崔 童殷	月・4限	○	○
93	前学期	計算機アーキテクチャ	畠中 理英	水・4限	○	○
95	前学期	人工知能	西田 豊明	火・3限	○	○
97	前学期	エンタテインメント情報学	倉本 到	金・1限	○	○

# 科目等履修生・聴講生 講義一覧

【授業時間】

①限 8:50~10:20 ②限 10:30~12:00 ③限 12:50~14:20 ④限 14:30~16:00 ⑤限 16:10~17:40

【科目一覧】

No.	開講期	2020開講科目名称	教員名	曜日時限	受講可否	
					科目等履修生	聴講生
99	後学期	哲学	倉田 良樹	火・1限	○	○
101	後学期	環境学	倉田 良樹	木・1限	○	○
103	後学期	地理学	松本 学博	木・2限	○	○
105	後学期	論理学	佐藤 恵	木・2限	○	○
107	後学期	法学概論	桜沢 隆哉	金・5限	○	○
109	後学期	数学基礎II	前田 一貴	月・5限	○	○
111	後学期	簿記論II	井上 直樹	金・3限	○	○
113	後学期	公共経営入門	藤島 光雄	火・2限	○	○
115	後学期	地域協働論	杉岡 秀紀	水・1限	○	○
117	後学期	地域産業論	佐藤 充	水・4限	○	○
119	後学期	原価計算論	井上 直樹	火・2限	○	○
121	後学期	経営管理論	篠原 正人	月・4限	○	○
123	後学期	情報処理論II	山田 篤	火・1限	○	○
125	後学期	経営工学概論	鄭 年皓	木・2限	○	○
127	後学期	プログラミングII	神谷 達夫	金・3限	○	○
129	後学期	社会保障論	川島 典子	火・3限	○	○
131	後学期	介護福祉論	川島 典子	金・1限	○	○
133	後学期	自治体政策法務	藤島 光雄	水・2限	○	○
135	後学期	ロジスティクス論	篠原 正人	月・3限	○	○
137	後学期	ソーシャルデザイン	谷口 知弘	火・2限	○	○
139	後学期	地方公会計	関下 弘樹	月・5限	○	○
141	後学期	観光まちづくり論	谷口 知弘	水・3限	○	○
143	後学期	交流観光政策論	中尾 誠二	月・2限	○	○
145	後学期	グリーンツーリズム論	中尾 誠二	火・3限	○	○
147	後学期	交流居住論	塙見 直紀	木・3限	○	○
149	後学期	グローカル特別講義IV(北近畿の地域創生II)	杉岡 秀紀	木・2限	○	○
151	後学期	診療情報管理特論	星 雅丈	月・4限	×	○※
153	後学期	診断技術論	芦田 信之	月・3限	×	○
155	後学期	国際関係論	大谷 杏	月・2限	○	○
157	後学期	行政学入門	藤島 光雄	月・5限	○	○

# 科目等履修生・聴講生 講義一覧

## 【授業時間】

①限 8:50～10:20 ②限 10:30～12:00 ③限 12:50～14:20 ④限 14:30～16:00 ⑤限 16:10～17:40

## 【科目一覧】

No.	開講期	2020開講科目名称	教員名	曜日時限	受講可否	
					科目等履修生	聴講生
159	後学期	地域情報学II	西田 豊明	月・4限	○	○
161	後学期	情報リテラシー	衣川 昌宏	月・3限	○	○
163	後学期	オープンデータ技術	田中 克己	火・3限	○	○
165	後学期	データマーケティング	鄭 年皓	水・3限	○	○
167	後学期	情報ネットワーク	衣川 昌宏	木・1限	○	○
169	後学期	データベースシステム	衣川 昌宏	水・4限	○	○
171	後学期	オペレーティングシステム	藤井 叙人	月・1限	○	○
173	後学期	IoT	畠中 理英	金・4限	○	○
175	後学期	メディア情報学	橋田 光代	木・2限	○	○
177	後学期	ゲーム情報学	藤井 叙人	木・3限	○	○

※診療情報管理士認定試験の受験を目指すのみ

## シラバス確認

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	歴史学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	なし	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 西村 正芳

授業概要	歴史学は過去に起こった事象を解説することに貢献し、解説したことによって、今後起こりうるリスクを回避するために活用することができる学問である。歴史学の分野は多様であるが、ふるさとの歴史を解説する学問として郷土史がある。その後、地方史・地域史と称されている。福知山には歴史学の手法を用いて解説されてきた、さらに今後解説することができるであろう文献資料が伝えられている。 この授業では歴史史料、古文書や古記録、記録資料をもとに、丹波国（律令制による国制で成立）と福知山の江戸時代から主たるテーマをピックアップし授業する。
到達目標	地域の歴史の重要性について理解を深めること。 暗記する歴史ではない、自ら「調べる」ことで新たな歴史事象の発見が味わえる歴史として捉えられること。 福知山の歴史を知り、語ることができること。

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、地域史の方法～福知山の歴史を学ぶあたって
第2回	明智光秀とその生涯 光秀の出自から山崎の合戦後まで光秀の生涯を概観する
第3回	明智光秀の丹波攻略 天正3年にはじまる光秀の丹波攻略戦の概要
第4回	明智光秀と福知山 「明智光秀ゆかりの城下町 福知山」に伝わる光秀伝承を考える
第5回	福知山光秀ミュージアム展示特別資料 美術館で開催中の光秀ミュージアムで展示する特別資料について解説する
第6回	福知山城の歴代城主 明智光秀以降の歴代城主を概観する
第7回	江戸時代の丹波の所領配置と藩 関ヶ原合戦以降の丹波に置かれた諸藩と福知山周辺の所領配置を概説しその特徴を探る
第8回	福知山藩朽木家歴代藩主と朽木家文書 寛文9年福知山へ入部し幕末まで13代にわたった朽木家の歴代藩主について概観する
第9回	江戸時代の丹波と村 江戸時代の村の様子について福知山周辺の村を事例に解説する
第10回	江戸時代の村の事件簿 藩日記や庄屋日記から江戸時代の村でおきた事件を説明し、当時の村社会の実態を考える
第11回	伊能忠敬の丹波測量 「日本沿海輿地全図」を作製した伊能忠敬の足跡と地域との関係を考える
第12回	江戸時代の治水と水害 福知山を中心に江戸時代の治水対策と周辺地域を含めた水害の状況、さらに明治に至っての治水と水害の実態を考える
第13回	綾部藩の経済政策 商品作物の栽培や出稼ぎ等、金融経済に巻き込まれていく村の様子と綾部藩の対応を説明
第14回	幕末の福知山藩 福知山藩士平田八郎の記録をもとに、幕末藩士の生活の様子や社会情勢を考える

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 予備知識として高校の日本史教科書の該当部分から時代背景を調べておくこと。特に高校在籍時に日本史の授業を履修しなかった者は日本史の一般教養書等により戦国時代から江戸時代の歴史を一読されたい。授業ではできるだけ元号・西暦両並記で行うが、元号の時間感覚を養っておくこと。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 授業では毎回出席カードに授業に関する疑問・質問を書いて提出すること。 授業で学んだことを整理して、各自でフィールドワークをされるとより理解が深まる。</p> <p>※授業で配付するレジュメは、次回に使用する場合がある。ファイリングして必ず持参すること。</p> <p>（その他） 授業時間外や休日に福知山市立図書館の郷土資料コーナーで授業該当部分の著作や史料の検索をしてみれば、より理解が深まる。</p>
評価方法（割合）	<p>毎回提出カード記載内容(20%) 最終レポート(70%) 授業態度(10%)</p>

## 評価基準

	列1
秀	課題に適切に答えている。
優	課題に答えている。
良	課題に答えていない箇所がある。
可	課題に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	課題に答えていない。
放棄	2/3以上の出席がない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業終了時に提出されるカードの記載内容について、フィードバックすべき内容があれば、次回授業で説明する。
テキスト	なし。授業で資料を配付する。
参考書・参考資料等	講義時に適宜資料を配付する。

## 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

	関連性
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	

メッセージ	福知山公立大学では「地域」をテーマに、地域に出向く授業も多く、その中で福知山市民のみなさんとの関係も深くなる。地域史をその際の予備知識、また地域経営研究にあたっての基礎知識となれば幸いである。  地域の歴史を深く知るために、講義では古文書や記録の解説文を使用する。高校在籍時に日本史や古典を履修しなかった者には特に難解な部分もあると思うが、できるだけ丁寧な説明を心がけたいと思う。
教員との連絡方法	nisi24682012@gmail.com
備考	講義中、特段の理由がない限り、遅刻、無断退室、私語、飲食、着帽、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	倫理学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	なし	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 岩井 謙太郎

授業概要	倫理学とは広い意味における哲学（道徳哲学）の一部であり、倫理的な判断基準（善と悪、正と不正など）等を学問的に探究する学問である。現代社会においては、生命を取り巻く医療倫理、地球環境問題を巡る環境倫理、格差社会の問題を巡る経済倫理、AI問題と共に展開しうるロボット倫理（情報倫理を含む）等、喫緊の解決課題を抱えている。それらの解決の糸口を探求すべく、本講義においては、倫理学においてどのようなことが問題になるのかについて幾つかの基礎理論を取り上げ、それらをふまえて、主要な哲学者の倫理思想について講義する。その際、できる限り身近な具体的な事例を示しながら授業を展開する。
到達目標	<p>1) 倫理学の基礎的な理論を理解し、説明することができる。</p> <p>2) 主要な哲学者の倫理思想について理解し、説明することができる。</p> <p>3) 現代社会が抱える様々な解決課題に対して自らの意見を述べ、判断能力を養うことができる。</p>

授業計画	
回	授業内容
第1回	ガイダンス 倫理学とはどのような学問なのか①（規範倫理学）
第2回	倫理学とはどのような学問なのか②（応用倫理学）
第3回	倫理学とはどのような学問なのか③（メタ倫理学）
第4回	倫理学の問題①（事実判断と価値判断）
第5回	倫理学の問題②（倫理的相対主義）
第6回	倫理学の問題③（倫理学と隣接分野との関係性）
第7回	倫理学の問題④（倫理学における感情の役割）
第8回	ホップズの社会契約論の思想
第9回	ロックの社会契約論の倫理思想
第10回	ベンサムの倫理思想①（功利主義の基本的思想）
第11回	ベンサムの倫理思想②（幸福は計量可能なのか）
第12回	ロールズの倫理思想（正義論）
第13回	徳倫理学の倫理思想

第14回	カントの倫理思想①（義務論）
第15回	カントの倫理思想②（人格論） 全体のまとめとフィードバック

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 授業についての参考文献を各テーマごとに随時紹介するので、各回の授業で取り上げる内容について、当該箇所を事前に目を通し、理解に役立てて欲しい。
	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で説明した部分について、授業中に紹介した参考文献などで調べ、自分のノートを作るといった発展的な学習が望まれる。
評価方法（割合）	定期試験 (70%) 授業内課題（ミニツッペーパー）(30%)

#### 評価基準

秀	講義内容について極めて十分に理解した論述ができている。
優	講義内容について十分に理解した論述ができている。
良	講義内容について概ね理解した論述ができている。
可	講義内容の理解について最低限の水準の論述ができている。
不可	上記の基準に達していない。
放棄	定期試験を受験していない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義内課題（ミニツッペーパー）等を通じて、フィードバックをおこない、受講者個人の疑問や主体的関心にも配慮して授業を進める。
テキスト	【書名】使用しない 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	佐藤康邦・溝口宏平編『モラル・アポリア 道徳のディレンマ』（ISBN：9784888483933） その他、適宜授業中に紹介していく。

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

##### ◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	

メッセージ	倫理学の基本的課題とその歴史的展開について主体的な関心をもって授業に出席することを期待します。
教員との連絡方法	質問および要望がある場合には、授業終了後に回収するミニツッペーパーなどを質問用紙として利用するか、もしくは口頭にて質問を受け付ける。
備考	授業中には、私語、無断退室を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	多文化共生論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 大谷 智

授業概要	日本に住む、日本を訪れる外国人は年々増加傾向にあり、現在、多文化共生は多くの人びとにとって身近な問題となりつつあります。この講座では、多文化社会についての概要を学び、国内外の様々な社会教育施設の事例から共生への糸口を模索します。授業では、実際に多文化共生への取り組みをされているゲストスピーカーの先生にも来校いただき、自分たちにも身近にできることについても考えていく予定です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の多文化的状況を把握する。</li> <li>・国内外の社会教育施設の多文化への対応に関する理解を深める。</li> <li>・メディアが多文化共生問題をどのようにとりあげているのかを知る。</li> <li>・自分自身も多文化共生社会を形成する1人であることを自覚し、できることう考える。</li> </ul>

授業計画	
回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日本の多文化の状況
第3回	第1章 協働・共創を支える「安心の居場所」 —内発的社会統合政策を拓く
第4回	第2章 地方都市部の社会教育ならびに施設における多文化共生活動 —静岡県磐田市南御厨地区を事例として
第5回	第3章 多文化社会における公民館の役割 難民申請者と地域住民の交流 —埼玉県川口市の住民の取り組みを事例に
第6回	第4章 二つの法体系が支える韓国の地域学習施設 —光州広域市における「教育」と「支援」の連携事例を中心に
第7回	第5章 成人移民へフィンランド語教育を提供する公共施設 —地域社会とのかかわりと学習以外の機能にも着目して
第8回	私たちにもできる多文化共生（ゲストスピーカーの先生）
第9回	私たちにもできる多文化共生（ゲストスピーカーの先生）
第10回	第6章 日本の多文化都市における図書館の取り組み —「多文化サービス」のあゆみと「安心の居場所」であるための提言
第11回	第7章 多民族国家シンガポールを支える図書館 —国民統合と多民族共生
第12回	

	第8回 移民・難民のくらしに寄り添う公共図書館 -デンマークにおける取り組みに着目して
第13回	第9章 学校と博物館の連携の可能性 -先住民族について学ぶ「国立アイヌ民族博物館」
第14回	第10章 文化的由来を知る -「順益台湾原住民博物館」が担う社会的包摂機能
第15回	第11章 ニュージーランドにおける太平洋諸島移民の文化的学習 -博物館を中心に 授業のまとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	特に予習、復習は必要ありませんが、多文化共生に関係のあるテレビ番組、新聞記事などには積極的に触れるようにしてください。
評価方法（割合）	期末レポート 55% 出席状況 15% (6回以上の欠席は基本認められない) 感想用紙 30%
評価基準	
秀	授業に大変積極的に参加し、授業内の感想用紙や期末レポートへの取り組み方も極めて優れている。
優	授業に積極的に参加し、授業内の感想用紙や期末レポートへの取り組み方も優れている。
良	授業にきちんと参加し、授業内の感想用紙や期末レポートへの取り組み方も良い。
可	授業への参加、授業内の感想用紙や期末レポートへの取り組み方が単位認定基準を満たしている。
不可	授業への参加、授業内の感想用紙や期末レポートへの取り組み方が単位認定基準を満たしていない。
放棄	出席状況が基準に達していない、若しくはレポート等の提出がない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	皆さんに書いていただいたものは、できる限り授業内で返却します。
テキスト	【書名】多文化社会の社会教育－公民館・図書館・博物館がつくる「安心の居場所」 【編著者】渡辺幸倫 【出版社】明石書店 【出版年】2019年 【ISBNコード】978-4-7503-4809-4
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>
メッセージ	普段の生活中ではあまり感じないかもしれません、日本の社会は多様性に満ちています。 国内外の様々な地域の事例を通して、日本の社会にも多様性が存在することを知ってください。 また、自分がそれに対して何ができるのかを考えてみましょう。
教員との連絡方法	メール、Campus Planを用いて連絡してください。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	心理学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 伊藤 直美

授業概要	<p>科学として発展してきた心理学の「人間の心理と行動」の法則や原理について詳しく解説し、身近な学問として理解することを目標とする。人間の心理を理解する上で必要となる以下のような基礎的な領域を中心に講義を進める。</p> <p>1) 人間の発達の仕組みと変化 2) 心と脳との関係 3) 欲求と適応行動 4) ライフステージの課題</p> <p>90分の講義の進め方だが、はじめに前回の講義で課題とした内容の復習を中心に行なう。後半はパワーポイントと資料を用いてイントロダクションを行い、その後グループワークでの発表、個人的見解を提出してもらう。そのため受け身の講義ではなく協働学習を展開する。復習、実践、レポートの提出は講義時間内で完結させる。講義時間外ではただちに日常生活に役立つがあるので取り入れて次回の講義で効果を順番に発表する。</p>
到達目標	<p>1) 人間の心理や行動の特徴を理解し、そのポイントを説明することができる（知識 理解）。</p> <p>2) 講義における課題に前向きに取り組むことができる（技能）。</p> <p>3) 人間の心理や行動事例について、大学生としての問題意識を持って検討することができる（態度）。</p>

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・胎児期の発達（生命の芽生えから誕生まで）
第2回	五感（見て、触って、感じる赤ちゃんがとらえる世界）
第3回	自己認識（自分を知り自分らしさに築く）
第4回	思考の深まり
第5回	青年期の発達（子どもからの卒業）
第6回	成人期のアイデンティティ
第7回	関わりの中で成熟する
第8回	人生を振り返る
第9回	心理テストの演習
第10回	コミュニケーション

第11回	ボランティア活動
第12回	キャリア発達 産後クライシス
第13回	こころの病気
第14回	災害時の心理状況
第15回	総括

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	講義終了後、次の講義のときまでに自分のこととして想起してみてください。そして、人間の心理や行動事例に対し、今後の自分の取り組み方法をまとめておいてください。順番に発表していただきます。
評価方法（割合）	毎回の講義終了時の理解度レポートやグループワーク参加度（計50点） 期末に試験を実施（50点） 合計100点

#### 評価基準

秀	人間の心理や行動事例について、適切に問題点を指摘し、論理的かつ現実的な特筆すべき水準の解決策を提示できている。
優	人間の心理や行動事例について、指摘した問題点に対しすぐれた解決策を提示できている。
良	人間の心理や行動事例について、指摘した問題点に対し一応の解決策を提示できている。
可	人間の心理や行動事例について、問題点の指摘と解決策の提示がいずれも最低限の水準を満たしている。
不可	人間の心理や行動事例について、問題点の指摘や解決策の提示ができていない。あるいは3分の1を超えて講義を欠席した。
放棄	講義に3分の2以上は出席していない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義時間内に応答できるメール先を提示する。
テキスト	オリジナルテキストを最初の講義で配布する。

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input checked="" type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input checked="" type="radio"/>

メッセージ	10年後の会社生存率「6.3%」に就職される予定の皆さんには社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくキャリア発達という考え方が必要です。大学生活は社会への移行過程のため、自ら考え方選択する力、人とのつながりの充実を図ることが大切となります。自分の過去、現在、未来を想起し「自己認識」を深めることで自律心が高まり時代の流れに身を任せていくことができるようになるでしょう。人とのつながりの充実を図るために相手は変えることができないので「人間の心理と行動」を理解し自分がどう立ち回れば上手く人生が過ごせるか考える講義にしていきたい。
教員との連絡方法	講義時間内の専用メールを公開しますので、それで連絡をください。
担当教員の実務経験	1992～1995年 関西医科大学附属病院総合周産期センター助産師として就職 1995～1998年 尼崎医療生協病院 1998～現在 済生会兵庫県病院地域周産期センター  1995～1997年 尼崎医療健康・医療事業財団看護専門学校母性看護学講義担当 2003～2007年 神戸大学医学部保健学科母性看護学臨床講師 2012～2014年 神戸女子大学文学部教育学科幼児教育コース 子どもの保健担当 非常勤講師 2018～ 神戸大学医学部保健学科母性看護学 高度周産期技術学特講 非常勤講師 2018～ 福知山公立大学地域経営学部 心理学担当 非常勤講師

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	教育学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 江上 直樹

授業概要	<p>ひとえに「教育学」といっても、そこには教育哲学・教育史・教育方法学・教育心理学・教育社会学・教育法学・教育行政学・比較教育学等の様々な學問領域が存在する。本講義では、それら教育学の各種領域について入門的な内容を紹介するとともに、現在の教育に関する論点について具体的な事例を取り上げて各テーマについて検討する。</p> <p>教育という営みは、現代社会で生活するうえで誰しもが経験するものであり、教育問題について思索する際に、自身の経験のみをその根拠として議論を行う者も少なくない。しかしながら、その教育問題の背景には、人間個々の問題から法制度等の社会的な背景まで様々な論点が存在する。そこで本講義では、教育学の各種領域についての基礎的な知識を習得することともに、現代的な教育問題について主体的に思索する機会を提供し、教育について多面的な観点から考察を進めることができるようになることをその目的とする。</p>
到達目標	<p>①教育学の各種領域について、その概要を簡単に説明することができるようになる。</p> <p>②教育に関する問題について、多面的に問い合わせ立てることができるようになる。</p>

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（講義の進め方、評価方法）、教育学の各種領域について
第2回	教育の意義と目的
第3回	教育思想①（ソクラテスの產婆術、コメニウスの大教授学、ルソーの子ども観）
第4回	教育思想②（ペスタロッテの開発教授、ヘルバートの教授法、デューイの児童中心主義）
第5回	教育史①（古代ギリシア～古代ローマ～中世ヨーロッパ～産業革命期の近代公教育へ）
第6回	教育史②（日本の教育史：古代の学校～中世の学校～学制による近代公教育制度の確立）
第7回	教育制度①（教育制度の基本原理、教育における法律主義）
第8回	教育制度②（日本の教育行政組織）
第9回	教育制度③（教員の養成・採用・研修）
第10回	教育課程①（学習指導要領の変遷）
第11回	教育課程②（学校で身につける能力とは）
第12回	教育方法①（授業の歴史、授業のデザイン）

第13回	教育方法②（教育の評価）
第14回	その他の教育上の論点
第15回	まとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	予習については、各講義において配布した資料のうち、授業中に指示したものを次回の講義までに読み備えておくこと。 復習については、各講義において特に関心を持った点を自分なりに整理し、自身のレポートテーマになり得る領域の資料を探してまとめておくこと。
評価方法（割合）	ミニ課題 (30%) 期末レポート (70%)  ※ミニ課題については、各授業ごとに提示し、その授業内で記述し提出をもとめる。内容に応じて各回0~2点で採点し、合計30点とする。  ※期末レポートについては、「自身の関心のある教育問題についてテーマを設定し、先行研究・先行事例の内容をふまえつつ、自身の考えを論じよ」という課題についての記述を求め、その内容を70点満点換算で採点する。主に「レポートの目的が明確か」「なぜそのテーマを設定したのか、社会的な意義という点から記述しているか」「先行研究等を適切に引用しているか」「根拠にもとづき考察を行っているか」という点を採点のポイントとする。

#### 評価基準

秀	評価方法に記載してある基準で90点以上を獲得した者。 (ミニ課題にて、問題点を整理し、根拠をもって考察している。レポートにて、問題設定、先行研究の引用が適切で、根拠をもとに考察している)
優	評価方法に記載してある基準で80~89点を獲得した者。 (ミニ課題にて、自分なりの意見を述べている。レポートにて、先行研究をまとめ、それらを参考に推論し、自分なりの意見を主張できている)
良	評価方法に記載している基準で70~79点を獲得した者。 (各授業のミニ課題において、問い合わせて一定の回答をしている。レポートにおいて、一定の推論にもとづき自分なりの意見を主張している)
可	評価方法に記載している基準で60~69点を獲得した者。 (各授業のミニ課題について、一定の回答を行っている。レポートについて、自分なりの意見を主張している)
不可	評価方法に記載している基準で60点を下回った者。
放棄	出席回数が足りないもの（10回に満たないもの）。もしくは、期末レポートを提出していないもの。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の授業の最初に、前回のミニ課題についての講評を行う。 期末レポートのフィードバックについては、希望者がいる場合、その希望者と時間を合わせて直接講評を行う。
テキスト	特になし。 毎講義でレジュメを配布する。
参考書・参考資料等	講義で配布するレジュメで指示する。

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

##### ◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>

メッセージ	「教育学」について広く浅く取り扱う入門的な授業です。この授業で関心をもった部分について、期末レポートにて受講生それぞれがより深く学んでもらえればと思います。
教員との連絡方法	

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	日本国憲法	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 桜沢 隆哉

授業概要	憲法の規定のうち、基本的人権を中心に講義を進めます。 講義では、単に知識を教えるということだけではなく(ただし、憲法の規定を理解する上で必要な知識として、個々の条文の意味やその歴史的背景などについては説明します)、裁判で実際に問題となった事案や社会で議論されている問題を素材として、受講者の皆さんと一緒に議論しながら憲法的な考え方を身につけることができるような講義にしたいと考えています。そのためには、現実の問題を皆さんのが自ら考え、議論することが必要です。授業は、一方的に講義を行うだけではなく、できるかぎり担当教員と受講者との間の質問と回答、議論を通じた対話的な形式(双方向形式)で進めていきたいと考えています。ただし、受講者の人数が多数になる場合には、双方授業等の形式をとることは難しいため、皆さんの積極的な授業への参加を促すよう工夫していきます。
到達目標	実際の事件を手がかりに憲法の基本的な考え方を身につけることを目標とします。憲法というと、堅苦しいイメージがあり、自分とは無関係だと思っている方も少なくありません。しかし、実際には、日常生活の様々な出来事が憲法と関わっています。そこで、この講義を通じて、少しでも憲法を身近なものとして感じてもらい、世の中の政治的・社会的問題と憲法との関わりを知り、憲法の基礎的な知識と視点の修得を目指します。

授業計画	
回	授業内容
第1回	ガイダンス、基本的人権総論：憲法における人権保障の基本的な考え方を学ぶ。
第2回	幸福追求権①：幸福追求権から導き出される人権のうち、肖像権について学ぶ。
第3回	幸福追求権②：幸福追求権から導き出される人権のうち、自己決定権について学ぶ。
第4回	法の下の平等①：法の下の平等の問題のうち、全ての人に共通の不平等問題を学ぶ。
第5回	法の下の平等②：法の下の平等に関する問題のうち、特に男女の不平等問題を学ぶ。
第6回	信教の自由①：信教の自由の基礎的理解から、カルト宗教、宗教事故の問題点を探る。
第7回	信教の自由②：政教分離の原則について学ぶ。
第8回	表現の自由①：名誉権、プライバシー権等の表現の自由の中心的権利について学ぶ。
第9回	表現の自由②：「知る権利」やメディア等に関連する表現の自由を学ぶ。
第10回	生存権：社会権のうちわれわれが受ける公的サービスがどのような権利なのかを学ぶ。
第11回	教育を受ける権利：社会権のうち教育権について学ぶ。
第12回	参政権：選挙制度や選挙権・被選挙権の意味や重要性について学ぶ。
第13回	国・地方公共団体の統治機構①：わが国の統治機構（国会・内閣）について学ぶ。

第14回	国・地方公共団体の統治機構②：わが国の統治機構（裁判所）について学ぶ。
第15回	天皇制、平和主義：現在のわが国における重要な問題を探り上げてその背景を探る。

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習)  毎回の授業において、その次の回で使用する新聞記事等の資料およびレジュメを配布しますので、次の回にどのような授業を行うのかなど、問題意識をもって授業に望んで下さい。
	(毎回の授業終了後に行うべき復習)  資料等およびレジュメを読みながら授業の内容を振り返って、自分自身の考え方や問題点を把握するよう努めてください。
	(その他)

評価方法（割合）	期末試験 (60%) 課題 (30%) 上記以外の平常点評価 (10%)
----------	--

評価基準

秀	
優	
良	
可	
不可	
放棄	

テキスト	【書名】「いちばんやさしい憲法入門〔第5版〕」 【著者】初宿正典ほか 【出版社】有斐閣 【出版年】2017年 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	各回のテーマにあわせて新聞記事等の資料を適宜配布する。

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>

教員との連絡方法	授業の前後における質問および緊急の場合等のメールアドレスは授業内でお知らせする。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	民法	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 桜沢 隆哉

授業概要	民法は、講学上、一般的に「財産法」と「家族法」とに分けられ、前者は、民法の全体に関する通則である「総則」、人の物に対する支配関係を規定する「物権」、物の交換価値を支配関係を規定する「担保物権」と、特定の人に対する権利である債権の性質、発生・消滅原因についてのプロセスを規定する「債権総論」、「債権各論」、「不法行為・事務管理・不当利得」からなり、後者は人の家族関係について規定する「親族」、「相続」からなる大法典である。このような大法典を15回の講義の中ですべて網羅することは困難であるので、民法の全体像（どのようなルールがあるのか）ということと、民法の基本的な考え方（どのような法律関係なのか）を学び、具体的なわれわれの社会生活とのつながりを意識することができるよう努めたい。
到達目標	この講義は、民法の法律関係に対するイメージを補い、広げ、深めるために役立つものとしていくことを目標とします。具体的には、①民法の基本的な考え方についての基礎知識を身につけ、②授業内容について、自分の言葉で説明できるようになること、③社会に生じている／生じ得る様々な問題について、民法が社会で果たす／果たすことのできる役割を理解し、民法とのつながりを理解できることを目指します。

授業計画	
回	授業内容
第1回	ガイダンス、民事法と民法：民法典の構成、基本的考え方、および全体像を概観する。
第2回	民法総則①：意思表示と法律行為、制限行為能力者等の基本概念について学ぶ。
第3回	民法総則②：代理、法律関係の無効と取消、時効などの問題について学ぶ。
第4回	物権法①：物権の種類、所有権等の各種物権および物権の侵害に対する問題を学ぶ。
第5回	物権法②：物権の取得や喪失（物権変動）と対抗問題について学ぶ。
第6回	債権法①：債権法のうち、「契約」に共通する基礎的なルールについて学ぶ。
第7回	債権法②：債権法のうち、「契約」についての具体的なルールについて学ぶ。
第8回	債権法③：債権法のうち、「不法行為」「事務管理」「不当利得」のルールについて学ぶ。
第9回	債権法④：債権法のうち、債権の種類、性質、債権の発生原因について学ぶ。
第10回	債権法⑤：債権法のうち、ルール違反が起きた場合や財産を保全するためのルールを学ぶ。
第11回	債権法⑥：保証等の多数当事者間の債権関係、債権譲渡のほか債権の消滅原因について学ぶ。
第12回	物権法③：物権の中でも第10・11回と関連の深い、担保物権法のルールを学ぶ。
第13回	親族法：われわれの家族関係についてのルール（婚姻・離婚・成年後見制度）について学ぶ。

第14回	相続法：われわれの家族関係の承継についてのルール（相続・遺言等）について学ぶ。
第15回	まとめと全体のふりかえり：これまでの内容を振り返って、民法と生活関係をつなげる。

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習)  毎回の授業において、その次の回で使用する新聞記事等の資料およびレジュメを配布しますので、次の回にどのような授業を行うのかなど、問題意識をもって授業に望んで下さい。
	(毎回の授業終了後に行うべき復習)  資料等およびレジュメを読みながら授業の内容を振り返って、自分自身の考え方や問題点を把握するよう努めてください。
	(その他)

評価方法（割合）	期末試験 (60%) 課題 (30%) 上記以外の平常点評価 (10%)
----------	--

#### 評価基準

秀	
優	
良	
可	
不可	
放棄	

テキスト	【書名】『民事法入門〔第7版〕』 【著者】野村豊弘 【出版社】有斐閣 【出版年】2017年 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	各回のテーマにあわせて新聞記事等の資料を適宜配布する。

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>

教員との連絡方法	授業の前後ににおける質問および緊急の場合等のメールアドレスは授業内でお知らせする。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	政治学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
------

氏名
◎ 藤島 光雄

授業概要	政治とは何か、政治学とは何か。現実の政治を政治学的に考える視座を提供し、現代社会における政治学の役割を考える。
到達目標	政治学の基礎を理解する。 国内政治の動向等に关心を持ち、現状と課題に関して、自分なりの意見を持つ。

授業計画
------

回	授業内容
第1回	ガイダンス（授業計画・概要、成績評価等）
第2回	政治とは何か、政治学とは何か。
第3回	国家と社会
第4回	自由主義とは何か
第5回	民主主義とは何か
第6回	権威主義と全体主義
第7回	政治経済と福祉国家
第8回	議会
第9回	政党・利益集団
第10回	選挙、選挙制度
第11回	行政府と官僚組織
第12回	地方分権と地方自治
第13回	地方分権と地域統合
第14回	まとめと総括

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習)            ・事前に配布する資料及び参考資料等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。            (毎回の授業終了後に行うべき復習)            ・講義で配布された資料及び参考書等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理しておくこと。</p>
評価方法（割合）	

授業への貢献度・発表等 (25%)
中間試験 (25%)
期末試験 (50%)
合計100点 (100%)

評価基準

秀	設問について十分な理解をしており、適切に答えている。
優	設問について理解し、概ね必要な答えをしている。
良	設問について、一部答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	定期試験を受験していない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回配布する授業アンケートに記載された質問事項や疑問等については、次回の授業の冒頭で解説する。
テキスト	【書名】特になし。適宜参考書を紹介するとともに、レジメ・資料等を配布する。 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	加茂 利男ほか 現代政治学 第4版（有斐閣アルマ）2012年ほか テーマごとに適宜紹介する。

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	新聞、ニュース等を毎日読んでおくこと。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けているので、事前にメール等で予約すること。
担当教員の実務経験	長く自治体に勤務した経験を有する。
備考	講義中、私語、飲食、無断退室、携帯電話の操作等を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	数学基礎I	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	科目等履修・聘講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
------

氏名
◎ 前田 一貴

授業概要	<p>数学は現代社会のあらゆる分野で現象の分析・推測のための技術的な基盤となっており、経営学、情報学も例外ではない。若い頃に不要と判断して真面目に学ばず、その後はじめて必要性に遭遇しても、学んだ経験がなければ限られた時間で学び直すことは困難となる。これは先人が（数学に限らず）口を揃えて言うことであり、無視してはならない忠告である。中学校・高等学校や大学教養課程で様々なことを学ぶ意義の1つは、このような時に備えてあらかじめ学ぶ経験をしておくことにある。また、必要性を感じずとも、過去に学んでおいたことが不意に役に立つということもあるものである。</p> <p>この講義では、高等学校で学んだ数学の理解度を確認しながら、大学での学びに必要となる基礎的な数学を、経済学を題材として学ぶ。具体的には、1次関数、2次関数、指數・対数関数、数列、1変数関数の微分法を扱う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校まで学んだ数学を具体的な問題に応用することができる。</li> <li>・大学での今後の学びの基礎となる数学的思考力、論理的思考力を身につけ、運用することができる。</li> </ul>

授業計画
------

回	授業内容
第1回	導入：税金・社会保険料の計算
第2回	1次関数：需要曲線と供給曲線
第3回	連立1次方程式：均衡点・損益分岐点
第4回	2次関数(1)：独占市場における利潤の最大化
第5回	2次関数(2)：寡占市場とゲーム理論
第6回	指數関数：複利計算(1)
第7回	対数関数：複利計算(2)
第8回	数列(1)：単利と複利
第9回	数列(2)：総和法と積立貯金
第10回	数列(3)：ローンの返済計算（元利均等返済）
第11回	数列(4)：ローンの返済計算（元金均等返済）
第12回	微分法(1)：定義
第13回	微分法(2)：公式

第14回	微分法(3) : 関数の増減
第15回	微分法(4) : 一般の関数と利潤の最大化
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 次回の内容の資料を配布するので、読んでおくこと（初回を除く）。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 授業で解いた演習問題を復習すること。</p> <p>(その他) 学んだことが身の周りでも活用できないか、考える習慣を身につけること。 具体的に様々な事例の計算をするには手計算では大変で、コンピュータの助けを借りる必要がある。今後のためにもコンピュータを用いた計算法にも興味をもってほしい。</p>
評価方法（割合）	授業中の演習課題 (30%) 期末試験 (70%)
評価基準	
秀	授業で扱った数学を具体的な問題に適用し、解決することができる。
優	授業で扱った数学と具体的な問題の関係を理解している。
良	授業で扱った数学の内容を理解している。
可	授業で扱った数学の内容をある程度は理解している。
不可	授業で扱った数学の内容を理解していない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中の演習課題により理解度を確認のうえ、次の授業でコメントし、授業内容に反映させる。
テキスト	資料を配付する。
参考書・参考資料等	尾山大輔、安田洋祐、改訂版 経済学で出る数学——高校数学からきちんと攻める、日本評論社、2013
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域経営学部	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
情報学部	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
メッセージ	高等学校の数学はもしかしたら無味乾燥に感じられたかもしれません、実際の数学は社会で多彩な応用を持っています。こうした切り口から数学の楽しさが伝われば幸いです。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	「持続可能な社会」論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 倉田 良樹

授業概要	この授業では、まず初めに「持続可能な社会」という理念が、現代社会の諸問題を解決するための実践の指針として、広く共有されるようになっていった歴史的経緯について、深く理解してもらいたいと思います。21世紀に入った現代社会は、様々な物質的・社会的な制約要因とリスク要因のなかで営まれています。「持続可能な社会」 sustainable societyとは、人々が様々な制約やリスクから目を背けることなく、それらに立ち向かい、健全に生き続けることのできる社会のことです。授業では具体的な課題として、「開発」、「労働」、「貧困」という三つのテーマを取り上げます。受講者には、これらの課題に関連して社会の持続可能性を高めていくために自分にとって何ができるのか、主体的に考えてもらいたいと思います。問題解決には、グローバルな視点、ナショナルな視点、ローカルな視点、という三つの視点が必要であることについても理解してもらいたいと思います。
到達目標	活力ある「持続可能な社会」を構築する担い手を育てることは、本学の教育の中心的な目標です。この授業はこのような目標を意識しつつ、次の三点を具体的な到達目標として設定しています。 (1) 持続可能な社会という考え方について、具体的な事象に言及しながら自分の言葉で説明できるようになる。(2) 社会の持続性が脅かされている具体的な事象について、何を調べてどう行動すれば良いか、論じられるようになる。(3) リスク状況にある他者がいるとき、彼ら・彼らが経験している困難や苦境について、当事者の視点に立って共感的に理解できるようになる。

授業計画	
回	授業内容
第1回	オリエンテーション（持続可能な社会というコンセプトを説明し、授業計画を示す）
第2回	持続可能な社会という目標：①工業化社会と成長の限界（1970年代・1980年代）
第3回	持続可能な社会という目標：②情報化社会の新たな課題（1990年代から現在まで）
第4回	小テストと解説
第5回	開発のジレンマ：①人類にとって開発とは何か
第6回	開発のジレンマ：②工業化社会と開発
第7回	開発のジレンマ：③情報化社会の開発
第8回	小テストと解説
第9回	現代日本の労働：①働き過ぎる人と働けない人
第10回	現代日本の労働：②女性の就労と社会の持続可能性について

第11回	現代日本の労働：③外国人労働者は地域社会の持続可能性を高めるか
第12回	小テストと解説
第13回	現代日本の貧困：①不安定雇用層の蓄積
第14回	現代日本の貧困：②地域社会はハンディを負う人たちにどのような機会を提供できるか
第15回	現代日本の貧困：③子供の貧困と地域社会にできること
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	毎回、次回授業のテーマを予告し、関連資料を配付したり、関連資料があるウェブサイトを紹介したりします。それら資料に目を通したうえで授業に出席して下さい。各回の授業で配布するハンドアウトを授業終了後読み直して下さい。読み直して疑問のある点については、次回の授業で質問して下さい。
評価方法（割合）	小テストを三回と学期末試験を実施します。小テスト各回10点、学期末テスト70点で、合計100点として評価します。授業中の的確な質問を行うなど、積極的な貢献がある場合は加点します。
評価基準	
秀	設問に的確に答えており、問題解決についても優れた着想が示されている。
優	設問に的確に答えており、問題解決についても言及している。
良	設問に的確に答えている。
可	設問の題意は理解できているが、答えは的確でない。
不可	設問の題意が理解できていない。
放棄	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストによって学生の理解度を確認し、必要な場合は補足説明を行う。小テストの答案内容を題材として取り上げ、個々の学生を指名するなどして、対話型授業の時間帯を設ける。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	授業全体の参考書は、矢口芳生『持続可能な社会論』農林統計出版。各回授業の参考書については配布するハンドアウトの中でも示す。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input checked="" type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>
メッセージ	「持続可能な社会」という考え方とは、本学の様々な授業の中でも登場する重要な概念です。しっかりと学んで下さい。
教員との連絡方法	4月から赴任する予定の新任教員です。研究室の場所などは、開講までに確定しますので、開講時にお知らせします。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	簿記論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンパリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 井上 直樹

授業概要	<p>簿記は、企業等が行う様々な取引活動を効率的かつ体系的に記録し、ある時点での財政状態や一定期間の経営成績を明らかにするために必要とされるものである。</p> <p>本講義では、複式簿記についての基礎的な知識や技術を修得し、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学んでいく。</p> <p>本講義では、小規模株式会社を主な対象としているが、複式簿記にもとづく発生主義会計の考え方を理解することで、営利・非営利を問わず、各主体における会計上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、適切かつ的確な会計情報の収集・分析に必要とされる基礎的技能の学修を目指す。</p>
到達目標	<p>小規模株式会社を前提として、簿記論の前提となる貸借原理・帳簿組織の基礎知識を修得し、簿記一巡の流れを理解することができる。また、仕訳による基本的な個々の会計処理を修得し、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを理解し、業務に活用することができる。</p> <p>授業終了後、日商簿記検定初級程度の水準に到達することを目標とする。簿記の技術は自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、多くの問題を解く必要がある。</p>

回	授業内容
第1回	ガイダンスと簿記の全体像
第2回	貸借対照表と損益計算書
第3回	商品売買
第4回	現金・預金
第5回	手形と電子記録債権(債務)
第6回	その他の債権と債務(1)：貸付金・借入金、未払金・未収金など
第7回	その他の債権と債務(2)：前払金・前受金、仮払金・仮受金など
第8回	固定資産
第9回	租税公課と消費税・資本金
第10回	帳簿への記入
第11回	試算表
第12回	伝票と仕訳日計表
第13回	総合問題演習と解説(1)：前半の講義について

第14回	総合問題演習と解説(2)：後半の講義について
第15回	これまでの内容のまとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 毎回、授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。</p> <p>(その他) 授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。</p>
評価方法（割合）	期末試験(70%) 授業中の小テスト(30%)

#### 評価基準

秀	【秀：100点 - 90点】適切に簿記一巡の流れを把握し、日商簿記検定初級程度の基本用語や複式簿記の仕組みをほぼ完全に理解できている
優	【優：89点 - 80点】日商簿記検定初級程度の基本用語や複式簿記の仕組みをよく理解している。
良	【良：79点 - 70点】日商簿記検定初級程度の基本用語や複式簿記の仕組みを一応理解している。
可	【可：69点 - 60点】日商簿記検定初級程度の基本用語や複式簿記の仕組みの理解が、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	【不可：59点 - 0点】日商簿記検定初級程度の基本用語や複式簿記の仕組みを理解できていない。
放棄	【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次回の授業などで解説を行う。
テキスト	<p>【書名】スッキリわかる 日商簿記初級 第3版      【著者】滝澤ななみ・TAC出版開発グループ      【出版社】TAC出版      【出版年】2019年（※2019年以降に最新版が発行された場合は、最新版を使用する）      【ISBNコード】9784813287360</p>
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で配布するレジュメなどを使用する。

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	○
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	

メッセージ	<p>なるべく少人数の学生に対し、効果の高い授業を目指しています。 簿記論は必修科目ではないため、関心や意欲の無い者は履修しないでください。 履修者は、日商簿記検定3級合格を目指してください。</p> <p>なお、入学後に日商簿記検定を受験し、合格した者については資格取得奨</p>
-------	---

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	工業簿記	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 井上 直樹

授業概要	工業簿記は、製造業の経営活動を複式簿記により記録・計算し、その結果を明らかにすることが中心となる。会社の資産、負債、純資産の増加・減少を記録・計算し、それらを財務諸表へ表示することが主目的である点は商業簿記と同じであるが、工業簿記は、経営内部活動としての製造活動から生じる様々な取引の記録・計算が含まれる点に特徴がある。 本講義では、製造業における工業簿記を主な対象としているが、営利・非営利、業種などを問わず、各主体における主に製造活動上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、製造原価情報を適切かつ的確に収集・分析することを目指す。
到達目標	工業簿記の特徴を理解し、基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算ができる。 工業簿記の理解や分析は、自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、特に、日商簿記検定試験を受験する学生は、講義外において、できるだけ多くの問題を解く必要がある。

授業計画	
回	授業内容
第1回	ガイダンスと工業簿記の全体像
第2回	工業簿記のしくみ
第3回	材料費計算
第4回	労務費計算
第5回	経費計算
第6回	製造間接費計算
第7回	個別原価計算
第8回	部門別個別原価計算
第9回	総合原価計算(1) : 総合原価計算の特徴と計算
第10回	総合原価計算(2) : 減損と仕損
第11回	総合原価計算(3) : 総合原価計算の種類
第12回	標準原価計算
第13回	直接原価計算
第14回	総合問題演習と解説
第15回	これまでの内容のまとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 毎回、授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。  (その他) 授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。
評価方法（割合）	期末試験(70%) 授業中の小テスト(30%)
評価基準	
秀	【秀：100点 - 90点】適切に工業簿記の理論を把握し、基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算ができる。
優	【優：89点 - 80点】基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算をよく理解している。
良	【良：79点 - 70点】基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算を一応理解している。
可	【可：69点 - 60点】基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算の理解が、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	【不可：59点 - 0点】基礎的な工業簿記の仕訳と原価計算を理解できていない。
放棄	【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次回の授業などで解説を行う。
テキスト	【書名】スッキリわかる日商簿記2級工業簿記 【著者】流澤 ななみ 【出版社】TAC出版 【出版年】2019年 【ISBNコード】9784813277774
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で配布するレジュメで指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	なるべく少人数の学生に対し、効果の高い授業を目指しています。 関心や意欲の無い者は履修しないでください。 理論だけではなく、電卓をたたき、問題を繰り返し解かなければ工業簿記の理解を深めることができません。
教員との連絡方法	私の大学のメールアドレス宛に連絡してください。面談希望者は、なるべく面談希望日時を事前にメールで連絡するようにしてください。
備考	講義中、时段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。また、授業の進捗等を判断し、授業計画を変更する場合がある。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	社会調査論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 佐藤 充

授業概要	<p>社会調査は、日々変化する社会がどのような状況にあるのかを明らかにし、また社会が直面する問題がいかなる要因によって生じているのかを検討するための有力なツールである。現代社会では、幅広い目的のもとで、大学のみならず行政や企業等により、さまざまな社会調査が実施されている。</p> <p>本講義は、社会調査の基本的事項（社会調査の目的、歴史、方法論、調査倫理、各種調査の手法、収集データの分析など）を学習して、自らで調査を企画・実施し、収集したデータの分析を行うための基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p>
到達目標	<p>① 社会調査の基本的な考え方を理解して、的確な方法で適切に調査を企画・実施し、収集したデータを分析するまでの手法を用いることができる。</p> <p>② 社会調査を実際に行うために必要となる調査倫理を身につける。</p>

授業計画	
回	授業内容
第1回	イントロダクション 現代社会と社会調査
第2回	社会調査とは何か
第3回	社会調査の歴史
第4回	社会調査における倫理
第5回	社会調査の対象と方法
第6回	既存の資料・データ収集と活用
第7回	調査票調査の方法（1） 調査のプロセスと方法
第8回	調査票調査の方法（2） 調査票の設計
第9回	調査票調査の方法（3） サンプリングの理論
第10回	調査票調査の方法（4） 調査票調査のデータ化作業
第11回	調査票調査の方法（5） 調査結果の分析
第12回	質的調査の方法（1） 調査のタイプと考え方
第13回	質的調査の方法（2） インタビュー調査とフィールドワークの技法
第14回	質的調査の方法（3） 調査結果の分析
第15回	全体のまとめ より良い調査を行うために

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>【毎回の授業前に行うべき予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各講義の最後に、次回までの小課題と予習の範囲を指示する。</li> <li>講義前には、小課題に取り組むとともに、教科書の指定された範囲を読むこと。</li> </ul> <p>【毎回の授業終了後に行うべき復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>配布資料とノートを読んで復習すること。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ニュースや新聞記事等に目を通し、社会調査データの結果や解釈に注目しておくこと。</li> </ul>						
評価方法（割合）	<table> <tr> <td>期末レポート</td> <td>(60%)</td> </tr> <tr> <td>小課題</td> <td>(30%)</td> </tr> <tr> <td>講義での発言</td> <td>(10%)</td> </tr> </table>	期末レポート	(60%)	小課題	(30%)	講義での発言	(10%)
期末レポート	(60%)						
小課題	(30%)						
講義での発言	(10%)						
評価基準							
秀	社会調査の基本的な考え方やデータ分析までのプロセスを理解し、自らの問題意識と学術的な議論を踏まえて、社会調査を的確な方法で適切に調査を企画できる。						
優	社会調査の基本的な考え方やデータ分析までのプロセスを理解し、自らの問題意識のみに基づいて、社会調査を的確な方法で適切に調査を企画できる。						
良	社会調査の基本的な考え方やデータ分析までのプロセスを理解し、自らの問題意識を示しているが、社会調査を十分に企画できない。						
可	社会調査の基本的な考え方やデータ分析までのプロセスを理解しているが、自らの問題意識に基づく社会調査を十分に企画できない。						
不可	社会調査の基本的な考え方やデータ分析までのプロセスを理解せず、自らの問題意識に基づく社会調査も企画できない。						
放棄	上記の基準を満たさない者。 例）出席回数が満たない者。期末レポートを提出しなかった者など						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の小課題に対しては、講義内でコメント・補足を行います。						
テキスト	<p>【書名】新・社会調査へのアプローチ 論理と方法  【著者】大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編  【出版社】ミネルヴァ書房  【出版年】2013年  【ISBNコード】978-4623066544</p>						
卒業認定・学位授与方針との関連							
◎特に関係性が深い、○関係性が深い							
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input type="radio"/>						
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input checked="" type="radio"/>						
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>						
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>						
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>						
メッセージ	講義内容の予習・復習をしてください。						
教員との連絡方法	メールで連絡してください。						

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	統計学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2020年度以降シラバス・1年次, 2019年度以前シラバス・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 倉本 到

授業概要	現代社会において、人は数字に取り巻かれて生活している。数量をより分かりやすく理解し、説得力のある説明をするための手段の一つが統計学である。本講義では、身の回りの数字を読み取り、意思決定に結びつける基礎的方法を学ぶ。数値データのまとめ方や客観的な活用技術は、これから学ぶ専門科目の理解、さらに社会に出てから必要なものとなる。また、不確実性を含むデータを一定の確実さをもつ情報に加工し、目的に応じて適切に扱う方法を説明する。本講義は大学初学者のための統計学入門として位置づけており、単に手法を覚えるだけでなく、その背景となる考え方を中心に学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述統計と推測統計の違いを理解し、必要に応じて適切にデータを処理することができます。</li> <li>・代表値・平均値と分散などの数値の表現方法を理解し、その適切な取り扱いができる。</li> <li>・離散的・連続的確率分布を理解し、その関係を説明することができる。</li> <li>・仮説検定の考え方を説明するとともに、コンピュータを利用して運用することができる。</li> <li>・相関係数と回帰式を求めることができる。</li> </ul>

授業計画	
回	授業内容
第1回	オリエンテーション：データの性格を知る
第2回	データの要約：平均と分散、代表値と散らばり
第3回	度数分布表の活用
第4回	確率と集合
第5回	確率分布（1）：二項分布 ポアソン分布
第6回	確率分布（2）：正規分布 一様分布
第7回	標本分布
第8回	中間まとめ・中間テスト
第9回	統計的推測（1）：点推定
第10回	統計的推測（2）：区間推定
第11回	仮説検定（1）：検定の考え方・母平均の検定
第12回	仮説検定（2）：2つの母平均の差の検定
第13回	多変量データの分析

第14回	コンピュータを使った分析の実際	
第15回	総まとめと今後の展望	
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間		(毎回の授業前に行うべき予習) 前回学習した部分をよく復習しておくこと。 (毎回の授業終了後に使うべき復習) 新しい用語・考え方が毎回多数出てくる。理解の積み重ねが必要なので、不明な点は次回の授業までなくしておくこと。授業時間外質問を歓迎する。 (その他) できる限り数式に頼らずに解説する予定であるが、より深い理解のために、特に数学II・Bの未受講者は、複雑な数式（特にシグマ記法）および積分の基礎について事前に学んでおくことが望ましい。
評価方法（割合）		中間テスト (40%) 期末テスト (50%) 授業毎の確認テスト (10%) 評価は3種類のテストの単純合計による。
評価基準		
秀	講義内容を適切に把握し、実環境を含む応用問題に適用できる。	
優	講義内容を適切に把握し、応用問題への適用方法を示されれば実施できる。	
良	講義内容を適切に把握している。	
可	講義内容を必要最低限把握できている。	
不可	上記のいずれも満足しない。	
放棄	出席回数が10回に満たない。	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法		授業毎の確認テストおよび中間テストは、次回講義にてその解説を行う。 期末テストは試験終了後に模範解答を示し、希望者には得点を開示する。
テキスト		日本経営数学会編、統計学への招待、税務経理協会、2018
参考書・参考資料等		やさしく学べる心理統計法入門、鈴木公啓、ナカニシヤ出版、2018 他、必要に応じて講義時に指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連		
◎特に関係性が深い、○関係性が深い		
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財		○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		◎
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財		
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財		
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財		
メッセージ		統計学が様々な分野で使われていることを日常生活で確認してください。 文系理系にかかわらず統計学の基礎知識は今後の人生に必須の技能です。 悪人に騙されないためにも是非履修してください。
教員との連絡方法		オフィスアワーを設ける。面談希望者は教員居室前に掲示した連絡先へ連絡して面談予約を取ること。電子メール・SNSでの連絡は随時対応。
備考		講義中の私語は慎むこと（疑問質問は歓迎。ひそひそ隣に聞かずに教員まで）。常識的な範囲で飲料の持ち込み可。携帯端末等は自己の責任において利用すること。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	統計学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2020年度以降シラバス・1年次, 2019年度以前シラバス・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 倉本 到

授業概要	現代社会において、人は数字に取り巻かれて生活している。数量をより分かりやすく理解し、説得力のある説明をするための手段の一つが統計学である。本講義では、身の回りの数字を読み取り、意思決定に結びつける基礎的方法を学ぶ。数値データのまとめ方や客観的な活用技術は、これから学ぶ専門科目の理解、さらに社会に出てから必要なものとなる。また、不確実性を含むデータを一定の確実さをもつ情報に加工し、目的に応じて適切に扱う方法を説明する。本講義は大学初学者のための統計学入門として位置づけており、単に手法を覚えるだけでなく、その背景となる考え方を中心に学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述統計と推測統計の違いを理解し、必要に応じて適切にデータを処理することができる。</li> <li>・代表値・平均値と分散などの数値の表現方法を理解し、その適切な取り扱いができる。</li> <li>・離散的・連続的確率分布を理解し、その関係を説明することができる。</li> <li>・仮説検定の考え方を説明するとともに、コンピュータを利用して運用することができる。</li> <li>・相関係数と回帰式を求めることができる。</li> </ul>

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：データの性格を知る
第2回	データの要約：平均と分散、代表値と散らばり
第3回	度数分布表の活用
第4回	確率と集合
第5回	確率分布（1）：二項分布 ポアソン分布
第6回	確率分布（2）：正規分布 一様分布
第7回	標本分布
第8回	中間まとめ・中間テスト
第9回	統計的推測（1）：点推定
第10回	統計的推測（2）：区間推定
第11回	仮説検定（1）：検定の考え方・母平均の検定
第12回	仮説検定（2）：2つの母平均の差の検定
第13回	多変量データの分析

第14回	コンピュータを使った分析の実際			
第15回	総まとめと今後の展望			
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間		（毎回の授業前に行うべき予習） 前回学習した部分をよく復習しておくこと。 （毎回の授業終了後に行うべき復習） 新しい用語・考え方が毎回多数出てくる。理解の積み重ねが必要なので、不明な点は次回の授業までなくしておくこと。授業時間外質問を歓迎する。 （その他） できる限り数式に頼らずに解説する予定であるが、より深い理解のために、特に数学II・Bの未受講者は、複雑な数式（特にシグマ記法）および積分の基礎について事前に学んでおくことが望ましい。		
評価方法（割合）		中間テスト (40%) 期末テスト (50%) 授業毎の確認テスト (10%) 評価は3種類のテストの単純合計による。		
評価基準				
秀	講義内容を適切に把握し、実環境を含む応用問題に適用できる。			
優	講義内容を適切に把握し、応用問題への適用方法を示されれば実施できる。			
良	講義内容を適切に把握している。			
可	講義内容を必要最低限把握できている。			
不可	上記のいずれも満足しない。			
放棄	出席回数が10回に満たない。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業毎の確認テストおよび中間テストは、次回講義にてその解説を行う。 期末テストは試験終了後に模範解答を示し、希望者には得点を開示する。			
テキスト	日本経営数学会編、統計学への招待、税務経理協会、2018			
参考書・参考資料等	やさしく学べる心理統計法入門、鈴木公啓、ナカニシヤ出版、2018 他、必要に応じて講義時に指示する。			
卒業認定・学位授与方針との関連				
◎特に関係性が深い、○関係性が深い				
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input type="radio"/>			
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input checked="" type="radio"/>			
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input checked="" type="radio"/>			
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input checked="" type="radio"/>			
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input checked="" type="radio"/>			
メッセージ	統計学が様々な分野で使われていることを日常生活で確認してください。 文系理系にかかわらず統計学の基礎知識は今後の人生に必須の技能です。 悪人に騙されないためにも是非履修してください。			
教員との連絡方法	オフィスアワーを設ける。面談希望者は教員居室前に掲示した連絡先へ連絡して面談予約を取ること。電子メール・SNSでの連絡は随時対応。			
備考	講義中の私語は慎むこと（疑問質問は歓迎。ひそひそ隣に聞かずに教員まで）。常識的な範囲で飲料の持ち込み可。携帯端末等は自己の責任において利用すること。			

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	経営学入門	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 加藤 好雄

授業概要	経営とは、組織や事業を運営・管理することである。組織には企業をはじめ、病院や行政組織も含まれてくる。また、事業（プロジェクト）には大規模な事業から身近なプロジェクトまで様々に存在している。 本講義では、経営学については「制度の選択」「戦略の形成」「組織の枠組みづくり」「組織における人間の対応」の4つの領域を整理して学ぶ。また、企業経営において重要な領域であるアカウンティング、ファイナンス、オペレーションズ・マネジメント、マーケティング、意思決定のマネジメント、ITについても体系的な理解を進める。
到達目標	本講義では、以下の3点の知識・能力を修得することを目的とする。 ①経営学の基礎概念と用語を理解し、周辺領域を含めた経営学の体系を説明できる。 ②企業等の経営について適切な用語を用いて説明することができる。 ③企業等が抱える課題の解決案の提示ができる。

回	授業内容
第1回	ガイダンス+経営学とはどのような学問か
第2回	ITとイノベーション
第3回	会社の制度的な特徴と経営理念、目的
第4回	アカウンティングとファイナンス
第5回	企業戦略
第6回	競争戦略と事業システム
第7回	小テスト①+意思決定のマネジメント
第8回	オペレーションズ・マネジメント
第9回	組織構造
第10回	組織文化+コンフリクト
第11回	リーダーシップ+モチベーション
第12回	小テスト②+マーケティングと消費者行動
第13回	基本的な課題解決の手法－生産者と消費者の視点で考える－
第14回	ケースにおける課題解決の手法①（戦略・組織分野の事例）
第15回	ケースにおける課題解決の手法②（戦略・組織分野の事例）

	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 事前にテキストを読んでおくこと。[1時間程度] 関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてください。</p> <p>(毎回の授業終了後に使うべき復習) 授業で講じたテキストの範囲をもう一度読んでおくこと。[1時間程度] 授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにしてください。</p> <p>(その他) 自分の身の回りにある課題についても、経営学の観点から考えてみてください。</p>
評価方法（割合）	小テスト (50%) 期末試験 (50%)
評価基準	
秀	以下の総合評価が90%以上の場合。 「到達目標」の①経営学の基礎概念と用語の理解等は小テストで評価し、②企業等の経営の説明と③課題解決案の提示は期末試験において評価する。
優	上記の総合評価が80%以上90%未満の場合。
良	上記の総合評価が70%以上80%未満の場合。
可	上記の総合評価が60%以上70%未満の場合。
不可	上記の総合評価が60未満の場合。
放棄	期末試験を受けていない場合。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の「確認テスト」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	【書名】経営学入門 【著者】藤田誠 【出版社】中央経済社 【出版年】2015年 【ISBNコード】978-4-502-13391-6
参考書・参考資料等	【書名】MBAエッセンシャルズ第3版 【著者】内田学編 【出版社】東洋経済新報社 【出版年】2019年 【ISBNコード】978-4-492-53399-4
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基礎となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	経営学を学んでないと新しい用語を理解するのに時間がかかると思いますが、講義内容は経営学の各領域を学ぶ初步でしかありません。予習・復習で対応してください。 ※出席確認のために座席を指定します。
教員との連絡方法	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地域資源論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2020年度入学生：1年次、2019年度以前入学生：2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 谷口 知弘

授業概要	<p>20世紀に構築された大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済システムは、経済成長を成し遂げ物質的な豊かさを生み出す一方、天然資源の枯渇や環境破壊等、地球規模での持続可能性の危機を招きつつある。日本においては先述の危機に加え、少子高齢や人口減少、東京一極集中、地方と大都市の経済格差、世代間格差など重大な問題に直面している。</p> <p>地域資源論では、これらの問題解決のための理論と手法について地域資源を活用した地域づくりに焦点を当て講究する。持続可能な地域社会を実現するための地域資源の保全や活用について事例を通して学び、その重要性や可能性について理解を深めるとともに、施策や事業を企画する理論と手法を身につける。</p> <p>尚、授業の進め方として、地域資源の保全・活用の最前線で活躍する方々をゲストに招き、実践者との対話から検討するとともに、先進事例に関する受講者の報告をもとに討論する時間を設けることとする。</p>
到達目標	<p>①地域資源を活かした持続可能な地域づくりの理論と手法を理解する。      ②京都府北部地域における地域資源の特性について理解する。      ③地域資源の保全と活用の施策や事業を企画する際に必要な理論と手法を身につける。</p>

回	授業内容
第1回	導入：本講義の進め方と地域資源論の全体像 ワークショップ：地域社会の魅力と課題を語ろう
第2回	第1部：地域資源を理解するための理論 ①地域資源の分類と地域社会
第3回	" ②内発的発展論
第4回	" ③地元学
第5回	第2部：地域資源活用の実践と手法 ①文化的資源の活用1-歴史的資源と観光 (文化的景観、郷土芸能)
第6回	" ②文化的資源の活用2-社会的資源と住民自治(ソーシャル・キャビタル)
第7回	" ③自然資源の活用1-地域の自然エネルギー活用
第8回	" ④自然資源の活用2-森・里・川・海のつながりを活かした事業
第9回	" ⑤人的資源の活用-高齢者や主婦の知恵と経験を活かした事業
第10回	" ⑥特産的資源の活用-山や海の恵みを活かした事業
第11回	第3部：先進事例の報告と討論 ①観光・交流
第12回	" ②福祉・地域づくり

第13回	〃	③移住・雇用促進
第14回	〃	④農・食・アート
第15回	まとめ：埋れし地域資源を社会とつなぐ ワークショップ：活用のアイデアを語ろう	

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと。 (毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で得た気づきや成果をレポートにまとめる。
評価方法（割合）	クラスへの貢献（30%） 期末レポート（70%） 合計100点（100%）

評価基準

秀	適切な課題を設定し、独創的且つ実現性の高い課題解決策を提示できている。
優	適切な課題を設定し、すぐれた課題解決策を提示できている。
良	課題を設定し、一応の課題解決策を提示できている
可	課題設定と解決策の提示が、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	課題設定や解決策の提示が水準に達していない。
放棄	3分の1以上（6回以上）の欠席及び期末レポートの未提出

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の実施する振り返りシートの内容について、次の講義の冒頭にフィードバックを行う。 講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	※特になし。授業で配布するレジュメを中心に行う。

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができると人財	○

メッセージ	地域社会には埋もれし地域資源がたくさんあります。しかし、地元の住民はその魅力になかなか気づけません。学生の皆さんには「ヨソモン」＝「漂泊者」として地域に問わり、地域資源を発見し社会とつなぐ視点を持っています。地域資源の発見と活用を学び実践につなげていきましょう。
教員との連絡方法	Tel/Mail等で連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	ワークショップ手法を活用した対話の場づくりの企画・運営に参画（京都府他）
備考	・講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 ・テーマに応じて3名ほど講師を招聘し現場最前线の実際を報告いただく予定である。 ・3分の1以上（6回以上）の欠席は、単位不可とする。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	マーケティング	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員		
<table border="1"> <tr> <td>氏名</td> </tr> <tr> <td>◎ 加藤 好雄</td> </tr> </table>	氏名	◎ 加藤 好雄
氏名		
◎ 加藤 好雄		

授業概要	<p>現在では「マーケティングは限られた業務を担った企業の1部門ではなく、全社をあげた事業活動である。マーケティングが企業のミッション、ビジョン、戦略策定を主導する。企業の全部門が目標達成のために協力して初めてマーケティングは成功するのである」とされている。このように、マーケティングは企業活動に不可欠であるが、先進的な自治体においてもマーケティングの基礎概念を取り入れた事業が行われてきている。</p> <p>本講義では、マーケティングで重要なSTP、マーケティング・ミックス（製品戦略・価格戦略・流通戦略・プロモーション戦略）、ブランド戦略を体系的に学び、消費者行動論の基礎的な概念・知識を学ぶことでマーケティングへの理解を深める。さらに、基本的な課題解決の手法を学んだうえで、企業が抱えていた課題をどのように解決してきたのかを理解する。</p>
到達目標	<p>本講義では、以下の4点の知識・能力を修得することを目的とする。</p> <p>①マーケティングの概念・用語を体系的に理解している。      ②消費者行動論の基礎的な概念を理解している。      ③企業等のマーケティング戦略を、適切な用語を用いて説明することができる。      ④企業等のマーケティング分野の課題の解決案の提示ができる。</p>

回	授業内容
第1回	ガイダンス＋マーケティングの基礎概念
第2回	基本的な課題解決の手法①
第3回	消費者行動とマーケティング
第4回	顧客満足と顧客創造
第5回	STP（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング）：ネスレ日本【キットカット】
第6回	マーケティング・ミックス①（製品戦略）：カモ井加工紙【マスキングテープ「mt」】
第7回	マーケティング・ミックス②（価格戦略）：サントリー【プレミアムモルツ】
第8回	マーケティング・ミックス③（流通戦略）：ネスレ日本【ネスカフェ アンバサダー】
第9回	マーケティング・ミックス④（プロモーション戦略）：ファーストリテイリング【ヒートテック】
第10回	ブランド戦略：マンダム【ギャツツビー】
第11回	地域マーケティング（営業による地域デザイン）：カゴメ【瀬戸内レモン】
第12回	中間テスト＋今までの復習
第13回	基本的な課題解決の手法②

第14回	ケースにおける課題解決の手法①（マーケティング・流通分野の事例）
第15回	ケースにおける課題解決の手法②（マーケティング・流通分野の事例）
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 事前にテキストを読んでおくこと。【1時間程度】 関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてください。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 授業で講じたテキストの範囲をもう一度読んでおくこと。【1時間程度】 授業で学んだことや考えたことにに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を割るようにしてください。</p> <p>(その他) 自分の身の回りにある課題についても、マーケティングの観点から考えてみてください。</p>
評価方法（割合）	中間テスト (40%) 毎回の確認テスト (20%) 期末試験 (40%)
評価基準	
秀	以下の総合評価が90%以上の場合。 「到達目標」の①②概念・用語の理解を毎回の確認テストと中間テストで評価し、③企業等のマーケティング戦略の説明と④課題解決案の提示は期末試験において評価する。
優	上記の総合評価が80%以上90%未満の場合。
良	上記の総合評価が70%以上80%未満の場合。
可	上記の総合評価が60%以上70%未満の場合。
不可	上記の総合評価が60%未満の場合。
放棄	中間テストと期末試験を受けていない場合。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の「確認テスト」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	【書名】1からのマーケティング・デザイン 【著者】碩学舎 【出版社】石井淳哉・廣田章光・坂田隆文編 【出版年】2016年 【ISBNコード】978-4-502-20021-2
参考書・参考資料等	必要な資料は講義中に配布する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>
メッセージ	マーケティングリサーチ（後学期）の受講予定者は、本講義の受講を必ずしてください。 ※詳細は、マーケティングリサーチのシラバスを参照のこと。
教員との連絡方法	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	経営組織論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
------

氏名
◎ 鄭 年皓

授業概要	本講義では、経営組織をシステムとネットワークの観点で捉え、こうしたシステムとネットワークのアプローチに基づく多様な基礎理論と事例を紹介する。そこで、経営組織論の基本的な観点を紹介し、経営組織に関する多様な基礎理論を踏まえた上で、最近のグローバル化と情報化にともなう新たな経営組織を積極的に学習していく。
到達目標	経営組織に対する基礎的な理解を深める。 経営組織に関するニュースや報道、記事等の問題を、より深く理解する能力を身につける。 地域社会の多様な組織（営利組織と非営利組織の両方）に対して、経営組織論の観点で理解し分析する能力を身につける。

授業計画
------

回	授業内容
第1回	組織をどのように捉えるか：組織に対するシステム思考
第2回	経営組織の基礎概念
第3回	経営組織の基本的な構造とデザイン
第4回	集権的組織と分権的組織
第5回	組織におけるコミュニケーション
第6回	組織における意思決定とコンセンサス
第7回	組織文化
第8回	環境適応と組織の成長
第9回	組織活性化
第10回	組織学習
第11回	組織変革とイノベーション
第12回	組織間ネットワーク
第13回	グローバル化と組織のダイバシティ
第14回	ICT (Information & Communication Technology) の進展と組織の行方
第15回	本講義の総まとめ、今後のさらなる学習について

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	
--------------------------	--

	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 図書館、新聞・雑誌の記事、インターネット等を利用し、関連した情報を調べてください。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で説明した専門用語を理解した上で、各テーマの全般的な論理展開を吟味し、講義で紹介した参考文献（書籍、新聞・雑誌の記事、インターネットの関連したサイト等）を精読してください。</p> <p>(その他) 講義で学んだ多様な理論に鑑み、地域社会の組織（営利組織と非営利組織の両方）特性を経営組織論の観点で独自に考えてください。</p>
評価方法（割合）	<p>レポート課題（3回を予定）（30%） 授業内小テスト（2回を予定）（20%） 定期試験（50%） 合計 100%</p>

#### 評価基準

秀	多様な基礎理論を有機的に理解した上で、独自の発想とロジックを展開することができる。
優	基礎理論に対する理解度が高く、それを論理的に論じることができる。
良	基礎理論の内容を概ね理解している。
可	基礎理論に対する最低限の理解水準に達している。
不可	基礎理論に対する最低限の理解水準に達していない。
放棄	講義に3分の2以上を出席していない。または、定期試験を受験していない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題と授業内小テストに対して、学生の理解度を確認した上で、次回の授業で説明する。
テキスト	指定しない。講義資料や文献については、必要に応じて講義中に配布・紹介する。
参考書・参考資料等	『コア・テキスト マクロ組織論』、山田耕嗣・佐藤秀典、新世社、2014年 * その他の参考書については、適宜紹介する。

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	

メッセージ	この講義を通して、経営組織の多様な観点を理解し、地域社会や国際社会の課題を組織的な観点（システム的な観点）で捉えていくことを期待します。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	人的資源管理論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
(◎ 鄭 年皓

授業概要	<p>本講義は、経営資源の4要素たる3M+I (Man, Money, Material, Information) のうち、人的資源 (Man) に焦点を当て、主として「従業員の能力を最大限に引き出すためには、どのように従業員を管理・支援すべきか」という観点に基づき、関連した理論を解説することを目的としている。</p> <p>そこで、本講義では人的資源管理に関する多様な基礎理論を踏まえた上で、最近の労働市場の多様化とともに新たな人的資源管理を積極的に学習していく。また、本講義では、人的資源管理に対する事例（日本企業と海外企業の事例）を多数紹介し、事例によって基礎理論に対する理解を深めていく。これにより、人的資源管理に関して総合的・有機的視野を習得していくことを目標とする。</p>
到達目標	<p>企業におけるプライム・リソースとしての人的資源の意義と役割を理解する。</p> <p>人的資源管理に関するニュースや報道、記事等に接したとき、より深く理解する能力を身につける。</p> <p>独自の観点で人的資源管理の様々なテーマを論じることができる。</p>

授業計画	
回	授業内容
第1回	人的資源管理のねらい：人的資源管理とは、人的資源管理の目的、人的資源管理の主体
第2回	人事情報管理：人事情報システム、職務分析、人事考課
第3回	募集・選考管理
第4回	配置管理：適性配置と適正配置
第5回	昇進・昇格管理
第6回	退職管理：定年制と雇用調整
第7回	OJT, off JTと自己啓発
第8回	一般訓練と特殊訓練
第9回	階層別教育訓練
第10回	人事考課対象と人事考課プロセス
第11回	多面評価制度と分析的人事考課
第12回	福利厚生管理、労働時間管理
第13回	賃金管理の役割、賃金水準の決定要因、賃金形態

第14回	人的資源管理の国際比較
第15回	これから的人的資源管理、総括
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 図書館、新聞・雑誌の記事、インターネット等を利用し、関連した情報を調べてください。 関連したテーマに対して、テキストを予め読んでください。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 講義で説明した専門用語を理解した上で、各テーマの全般的な論理展開を吟味し、講義で紹介した参考文献（書籍、新聞・雑誌の記事、インターネットの関連したサイト等）を精読してください。</p> <p>（その他） 人的資源は企業における単なる資源としての手段的な存在ではなく、その複雑性・多様性を尊重する上で、組織（企業）と共に成長していくプライム・リソース（prime resource）であることを認識した上で、独自の観点で人的資源管理の意義と役割を考えてください。</p>
評価方法（割合）	<p>レポート課題（3回を予定）（30%） 授業内小テスト（2回を予定）（20%） 定期試験（50%） 合計 100%</p>
評価基準	
秀	多様な基礎理論を有機的に理解した上で、独自の発想とロジックを展開することができる。
優	基礎理論に対する理解度が高く、それを論理的に論じることができる。
良	基礎理論の内容を概ね理解している。
可	基礎理論に対する最低限の理解水準に達している。
不可	基礎理論に対する最低限の理解水準に達していない。
放棄	講義に3分の2以上を出席していない。または、定期試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題と授業内小テストに対して、学生の理解度を確認した上で、次回の授業で説明する。
テキスト	<p>【書名】『人的資源管理と日本の組織』 【著者】山下洋史 【出版社】同文館出版 【出版年】2016 【ISBNコード】</p>
参考書・参考資料等	<p>『人的資源管理論』、八代充史、中央経済社、2018 * その他の参考書については、適宜紹介する。</p>
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させができる人財	○
メッセージ	あらゆる経営（営利組織の経営と非営利組織の経営の両方）には、人財の育成と活用が必須の課題になります。地域社会の活性化も例外ではなく、こうした人財の育成と活用の観点で地域活性化の多様な課題を捉えていくを期待します。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	経営情報システム論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
------

氏名
◎ 神谷 達夫

授業概要	この講義は、急速に発展する情報通信技術を経営に生かすために必要な知識を学ぶことを目的としている。この講義では、まず、情報技術を経営に生かすための基礎的な情報技術について学ぶ。その後、情報システムの設計・開発・管理について学ぶ。
到達目標	(1) 経営のために必要な最低限の情報通信技術を説明することができる。 (2) 経営情報システムの構築に必要な要件定義を作成するための基礎知識が理解できる。

授業計画
------

回	授業内容
第1回	ガイダンス 経営情報システム論講義の概要
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータの種類
第3回	コンピュータの基礎知識 情報とデータの取り扱い
第4回	コンピュータハードウェア 中央処理装置(CPU)
第5回	CPUの種類と特徴
第6回	入出力装置の種類
第7回	ソフトウェア
第8回	コンピュータと情報システム
第9回	データベースシステム
第10回	システムの設計と開発
第11回	システム設計の手法
第12回	ヒューマンインターフェース
第13回	内部設計
第14回	システムの運用と管理
第15回	まとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 教科書を読み、分からぬ語句を調べておくこと。 (毎回の授業終了後に行うべき復習)
--------------------------	--

	<p>授業内で分からなかった事項や語句を調べて理解すること。 (その他)</p> <p>本講義の教科書は、経営情報論について網羅的に記述されているため、この本を読むだけでは完全に内容を理解することができないと思われる。したがって、教科書の内容で分からなきがあれば、授業時間以外に自発的に調べることが必要である。</p>
評価方法（割合）	期末試験（80%） 課題の提出（20%）
評価基準	
秀	講義で扱った経営情報システムの知識とその応用方法を論理的に説明でき、その知識を応用できる。
優	講義で扱った経営情報システムの知識とその応用方法を論理的に説明できる。
良	おおよその説明はできており、かつ、簡単な計算等はできる。
可	簡単な計算等はできる。
不可	大学生として最低限必要な経営情報システムに関する知識を有していない。
放棄	試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	出した課題の解答は、授業内で説明します。また、個別の質問にも応じます。
テキスト	【書名】コンピュータと情報システム[第2版] 【著者】草薙信照 【出版社】サイエンス社 【出版年】2015 【ISBNコード】ISBN-10: 4781913695
参考書・参考資料等	【書名】経営情報システム入門 【著者】柴 直樹、水上 祐治 【出版社】日科技連出版社 【出版年】2016 【ISBNコード】ISBN-10: 4817195835
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input checked="" type="radio"/>
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>
メッセージ	この科目では、情報処理システムの平易な解説を目指します。
教員との連絡方法	研究室前に掲示したMail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	コンピュータシステムの設計
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	プログラミングI	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	20	
授業公開	公開可	
履修年次	1	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 神谷 達夫

授業概要	<p>この講義は、プログラミングの基礎を習得することを目的としている。プログラミングは、コンピュータに対して動作を指示するためのプログラムを作成する行為である。</p> <p>本講義で取り扱う言語はPythonである。このプログラミング言語は、近年用いられることが多く、習得することによって研究データ等の処理に役立つと思われる。</p> <p>この講義では、初めてプログラミングを経験する者を対象に、Pythonを用いて簡単なプログラムが作成できるようになることを目指している。前半でPythonの基本的な文法を解説し、後半はデータ処理に必要な事項とプログラムのデバッグに必要な知識を取り扱う。</p>
到達目標	プログラミング言語Pythonの基礎を習得し、自分で簡単なプログラムを作ることができるようになる。

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 講義の進め方と講義の概要説明
第2回	動作環境の構築 Pythonインターフェースの動作確認
第3回	変数とデータ構造 リテラル、変数宣言、リスト、辞書
第4回	ファイルからの実行 エディタの操作、Pythonスクリプトの作り方
第5回	制御構造の基本 繰り返しと条件分岐
第6回	制御構造を使ったプログラミングの練習
第7回	モジュールの利用 モジュールの読み込みと作成
第8回	日本語の取り扱い 文字コードの種類、エンコードとデコード
第9回	ファイル操作 ファイルのオープン、読み込み、書き込み
第10回	データの読み込み CSVファイル、TSVファイルの操作
第11回	フィルタとパイプライン フィルタプログラムの作成
第12回	エラーとトレースバック トレースバックを使ったデバッグ
第13回	デバッガの使用方法 pdbデバッガの使い方
第14回	テストとアサーション プログラムのテスト方法
第15回	まとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 教科書を読みできるだけ理解すること。 (毎回の授業終了後に行うべき復習) その回に作ったプログラムを自宅等で実行してみることが望ましい。 (その他) プログラミングできるようになるには、授業以外でもプログラムを作成することが重要である。帰宅してからでもプログラムが作成できるような環境を用意し、自分で作ったプログラムを実行することが理解への近道である。
評価方法（割合）	期末試験 (60%) レポート・課題提出 (40%)

評価基準

秀	講義で扱ったプログラミングの知識とその応用方法を論理的に説明でき、その知識を応用できる。
優	講義で扱ったプログラミングの知識とその応用方法を論理的に説明できる。
良	おおよその説明はできており、かつ、簡単なプログラムは作ることができる。
可	簡単なプログラムの実行ができる。
不可	大学生として最低限必要なプログラミングに関する知識を有していない。
放棄	試験を受けていない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	出した課題の解答は、授業内で説明します。また、個別の質問にも応じます。
テキスト	講義中に参考文献を紹介する。
参考書・参考資料等	【書名】 10日でおぼえるPython入門教室 【著者】 穂刈実紀夫 他 【出版社】 翔泳社 【出版年】 2009

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	

メッセージ	Excelなどの表計算ソフトウェアやパーソナルコンピュータの基本的な使い方は習得した上で本科目を履修することが望ましいです。
教員との連絡方法	研究室前に掲示したMailへ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	コンピュータシステムの設計

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	社会福祉論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 川島 典子

授業概要	<p>社会福祉は自己実現と幸せの実現のためにある。私達は、日頃どのような社会福祉的課題に直面し、どんな社会サービスによって支えられているのだろうか？それらの公的・民間のサービスを理解し、社会福祉の概要を理解することを本講義の目的とする。単に、講義の内容を覚えるだけでなく、今後の人生を自分が在住する地域において幸せに生きるためにどうすれば良いのか？を社会福祉の観点から共に考えていく講義にしたい。</p> <p>また、グローバリストとしての視座を養うために、国際社会福祉についても学ぶ。さらに、地域における保健福祉医療の課題とニーズを把握して、福祉の観点から地域と協働し、地域に貢献するためにはどのような方策が考えられるのかについて、自らコミュニティをデザインするアクティブーニングを行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、地域福祉などの制度やサービスについて理解することができる。</li> <li>社会福祉政策や社会保障制度について理解することができる。</li> <li>相談援助（ソーシャルワーク）や医療福祉について理解することができる。</li> <li>国際的でグローバルな視座から社会福祉を学ぶことができる。</li> <li>保健医療福祉の観点から地域に貢献する方策を自ら考えることができる。</li> </ol>

授業計画	
回	授業内容
第1回	オリエンテーション・講義の進め方と講師自己紹介
第2回	社会福祉の概念と理念および社会福祉の歴史と展開
第3回	日本の社会福祉的課題（人口構造の変化・少子高齢化・人口減社会）
第4回	福知山の社会福祉的課題（グループディスカッション）
第5回	福祉国家と日本の社会保障制度（社会保険制度と生活保護制度）
第6回	社会福祉の制度と機関
第7回	高齢者福祉の制度とサービス
第8回	児童福祉の制度とサービス
第9回	障害者福祉の制度とサービス
第10回	地域福祉の制度とサービス
第11回	司法福祉、ジェンダー、多文化共生など、その他の社会福祉の各論

第12回	社会福祉におけるニーズと資源およびニーズの把握方法
第13回	保健医療福祉による地域協働のコミュニティデザイン（ニーズ把握）
第14回	保健医療福祉による地域協働のアイデア（アクティブラーニング）
第15回	各班発表＆まとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	毎回、前回の復習を行うので質問に回答できるようにしておくこと。 教科書の予習を行い、ノートで復習すること。
評価方法（割合）	期末試験 70% レポート・小テスト 10% 受講態度 10% 成果発表 10%
評価基準	
秀	試験が90点以上で講義テーマに関する必要な知識を十分に習得できており、発表も優秀と認められる。
優	試験が80点以上で講義テーマに関する知識を概ね習得できており、発表も優れている。
良	試験が70点以上で講義テーマに関する知識を凡そ習得できており、発表も努力が認められる。
可	試験が60点以上で講義テーマに関する知識の習得に関し、最低限の努力をしており、発表も行なっている。
不可	試験が60点以下で、知識の習得や考察が不十分である。
放棄	5回以上欠席している。もしくは、試験を受けていない
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義時に質問に応じる。
テキスト	【書名】『現代社会と福祉』 【著者】成清美治・加納光子編著 【出版社】学文社 【出版年】（2011） 【ISBNコード】ISBN978-4-7620-2045-2
参考書・参考資料等	川島典子・三宅えり子編著（2015）『アジアのなかのジェンダー』ミネルヴァ書房 新川達郎・川島典子編著（2019）『地域福祉政策論』学文社
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	◎
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
メッセージ	履修に関しては、学科を問いません。生きていく上でのリスク回避につながる基本的な社会福祉の知識を楽しく学びましょう。
教員との連絡方法	初回講義時に指示。
担当教員の実務経験	元産経新聞大阪本社編集局社会部記者。
備考	必ず教科書とノートを持参すること。私語、携帯使用は禁止。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	グローカル特別講義! (北近畿の地域創生!)	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	聴講生・科目等履修生	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
------

氏名
◎ 杉岡 秀紀

授業概要	本学は「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」を標榜し、2016年4月に開学した。そして、京都府北部の5市2町、兵庫県北部の5市2町からなる北近畿地域を主たるフィールドの対象とし、地域の課題解決のために教育・研究・社会貢献を展開することとしている。本学のディプロマ・ポリシーには、養成人財像として、北近畿及び他地域で活躍できる地域力の推進約（キーパーソン：リーダー、マネージャー、コーディネーター）が挙げられている。そこで、本講義においては、包括協定を締結する北近畿地域内の自治体からトップリーダーを含む第一線のキーパーソンをゲストスピーカーとしてお招き、それぞれの立場から地域創生の取り組みの現状と課題について話題提供いただく。なお、原則として前半約60分はゲスト講義、後半約30分は質疑応答を含む対話の機会を創造する。また、ゲスト講義回については北近畿地域連携センターの協力の下、広く一般に公開する。
到達目標	・公共を担う重要な主体である行政セクターの多様な役割や重要性、具体的な姿を理解する。 ・北近畿管内の地域創生の取り組みの状況を認識し、政策を比較しながら検討する視座、課題を把握する能力を養う。

回	授業内容
第1回	ガイダンス、講義の概要と北近畿地域の概要など
第2回	舞鶴市における地域創生の取り組み
第3回	綾部市における地域創生の取り組み
第4回	京丹後市における地域創生の取り組み
第5回	宮津市における地域創生の取り組み
第6回	与謝野町における地域創生の取り組み
第7回	伊根町における地域創生の取り組み
第8回	ふりかえりワークショップ①
第9回	豊岡市における地域創生の取り組み
第10回	朝来市における地域創生の取り組み
第11回	丹波市における地域創生の取り組み
第12回	養父市における地域創生の取り組み
第13回	丹波篠山市における地域創生の取り組み

第14回	ふりかえりワークショップ②
第15回	京都府における地域創生の取り組み、まとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 予習：各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと（1時間程度）。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 復習：講義で得た気づきや成果をレポートにまとめること（1時間程度）。</p> <p>（その他） 日常的に新聞を読むなど広く社会の動きに关心を持ち、北近畿の公共政策に関わって関心や問題意識を高めること。</p>
評価方法（割合）	<p>毎回のふりかえり（15%） グループワークへの貢献度（25%） 期末レポート（60%）</p>
評価基準	
秀	行政セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘でき、かつ、問題解決の優れた政策を提示できる。
優	行政セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘し、かつ、問題解決の適切な政策を提示できる。
良	行政セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘できる。
可	行政セクターの役割と各分野の事業内容について、最低限の理解はできている。
不可	行政セクターの役割と各分野の事業内容が説明できない。
放棄	出席が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	基本的には次の回の講義冒頭で行う。講義終了後は授業評価アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。
テキスト	なし。
参考書・参考資料等	特にない。授業で配布するレジュメを中心に行う。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させができる人財	
メッセージ	公共政策や地域政策、地方自治に興味のある学生、将来公務員を志望する学生、北近畿地域での就職や企業、活動を考えている学生に多く受講してもらいたい。
教員との連絡方法	オフィスアワー。ただし、事前にアポを取ること。
担当教員の実務経験	-
備考	

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	財務諸表論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 井上 直樹

授業概要	<p>財務諸表は、企業外部の利害関係者に対して会計情報を提供するために作成され、私たちが企業の経営状態などを知るために必要不可欠なものである。本講義では、企業が行っているさまざまな経済活動がどのように会計処理され、財務諸表上に表示されているかをその理論的背景について理解していくとともに、実際の財務諸表をもとにその分析方法についても学んでいく。</p> <p>本講義では、企業の財務諸表を主な対象としているが、複式簿記にもとづく発生主義会計の考え方を理解することで、営利・非営利を問わず、各主体における財務会計上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、財務会計情報を適切かつ的確に収集・分析することを目指す。</p>
到達目標	<p>基本的な会計理論やわが国の会計制度について理解し、財務諸表の内容から企業の経営成績や財政状態を把握できる。上場企業等が開示している財務諸表を自らの目的に応じて利用できる。</p> <p>財務諸表の理解や分析は、自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、特に、ビジネス会計検定試験を受験する学生は、講義外において、できるだけ多くの問題を解く必要がある。</p>

授業計画																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンスと財務諸表の全体像</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>貸借対照表の構造と流動資産</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>固定資産と繰延資産</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>負債と純資産</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>損益計算書の構造と売上総利益</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>営業利益と経常利益</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>税引前当期純利益と当期純利益</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>キャッシュ・フロー計算書の構造</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>キャッシュ・フロー計算書の読み方</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>財務諸表分析の概要</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>百分比財務諸表分析と成長性分析</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>安全性分析</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>キャッシュ・フロー情報の利用と収益性分析</td> </tr> </tbody> </table>	回	授業内容	第1回	ガイダンスと財務諸表の全体像	第2回	貸借対照表の構造と流動資産	第3回	固定資産と繰延資産	第4回	負債と純資産	第5回	損益計算書の構造と売上総利益	第6回	営業利益と経常利益	第7回	税引前当期純利益と当期純利益	第8回	キャッシュ・フロー計算書の構造	第9回	キャッシュ・フロー計算書の読み方	第10回	財務諸表分析の概要	第11回	百分比財務諸表分析と成長性分析	第12回	安全性分析	第13回	キャッシュ・フロー情報の利用と収益性分析
回	授業内容																											
第1回	ガイダンスと財務諸表の全体像																											
第2回	貸借対照表の構造と流動資産																											
第3回	固定資産と繰延資産																											
第4回	負債と純資産																											
第5回	損益計算書の構造と売上総利益																											
第6回	営業利益と経常利益																											
第7回	税引前当期純利益と当期純利益																											
第8回	キャッシュ・フロー計算書の構造																											
第9回	キャッシュ・フロー計算書の読み方																											
第10回	財務諸表分析の概要																											
第11回	百分比財務諸表分析と成長性分析																											
第12回	安全性分析																											
第13回	キャッシュ・フロー情報の利用と収益性分析																											

第14回	総合問題演習と解説
第15回	これまでの内容のまとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 毎回、授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。</p> <p>（その他） 授業には、テキストに加え、電卓を携行すること（12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい）とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。</p>
評価方法（割合）	期末試験（70%） 授業中の小テスト（30%）
評価基準	
秀	【秀：100点 - 90点】財務会計の理論や制度を理解したうえで、財務諸表から多様な企業の経営成績や財政状態を読み解し、多くの分析方法を把握できている。
優	【優：89点 - 80点】財務会計の理論や制度を理解したうえで、財務諸表から多様な企業の経営成績や財政状態を読み解し、限られた分析方法を把握できている。
良	【良：79点 - 70点】財務会計の理論や制度を理解したうえで、財務諸表から限られた範囲の企業の経営成績や財政状態を読み解し、分析することができる。
可	【可：69点 - 60点】財務会計の理論や制度を理解はできるが、財務諸表から企業の経営成績や財政状態を読み解し、分析することができない。
不可	【不可：59点 - 0点】財務会計の理論や制度を理解できていない。
放棄	【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次の授業などで解説を行う。
テキスト	【書名】ビジネス会計検定試験公式テキスト3級（第4版） 【著者】大阪商工会議所 【出版社】中央経済社 【出版年】2019年 【ISBNコード】978-4-502-30181-0
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で配布するレジュメで指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	なるべく少人数の学生に対し、効果の高い授業を目指しています。 関心や意欲の無い者は履修しないでください。 授業終了後、ビジネス会計検定試験®3級に合格することを目指してください。
教員との連絡方法	私の大学のメールアドレス宛に連絡してください。面談希望者は、なるべく面談希望日時を事前にメールで連絡するようにしてください。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。また、授業の進捗等を判断し、授業計画を変更する場合がある。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	流通システム論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 佐藤 充

授業概要	<p>我々の生活は、多様なモノやサービスを購入することで成立する。これらの消費活動は、生産者から消費者までを結ぶ流通システムによって支えられている。現代社会において、流通システムを構成する卸売業や小売業は不可欠なものである。そして、日常生活に直結するものであることから、我々が暮らす地域の動向をも左右することとなっている。</p> <p>本講義は、基本的な流通システムの仕組みや役割を学習するとともに、卸売業と小売業の事業形態やその実態について、具体的なデータや事例を通して理解することを目的とする。あわせて、地域における流通システムや商業空間の意義や問題点を議論・検討するものである。</p> <p>※必要に応じて、ゲスト講師による講義を行う予定である。</p>
到達目標	<p>① 流通システムの全体像を理解し、卸売業や小売業の仕組みや役割を説明することができるようになる。</p> <p>② 卸売業や小売業が直面する問題を把握し、具体的な根拠に基づき、今後の在り方に関する展望や構想を提示することができるようになる。</p>

回	授業内容
第1回	イントロダクション 現代社会における流通システムの動向
第2回	流通システムの仕組みと現状
第3回	小売業の事業形態と機能
第4回	小売業の発展プロセスとその理論
第5回	我が国における小売業の成り立ちとその展開
第6回	小売業態の動向と現況
第7回	卸売業の事業形態と機能
第8回	卸売業の発展プロセス
第9回	卸売業の動向と変容
第10回	マーケティングチャネルと流通系列化
第11回	流通システムと情報化
第12回	流通システムと国際化
第13回	商店街とまちづくり
第14回	我が国における流通政策の変遷

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	【毎回の授業前に行うべき予習】 ・各講義の最後に、次回までの小課題を指示する。 【毎回の授業終了後に行うべき復習】 ・講義後は、配布資料とノートを読んで復習すること。 【その他】 ・ニュースや新聞記事等に目を通し、流通システムに関する時事問題について、自らの意見を考えること。
評価方法（割合）	期末試験 (60%) 小課題 (30%) 講義での発言 (10%)
評価基準	
秀	流通システムの全体像を理解し、卸売業や小売業が直面する諸問題を具体的な根拠に基づき論理的かつ客観的に説明でき、今後の展望や構想を提示できる。
優	流通システムの全体像を理解し、卸売業や小売業が直面する諸問題を具体的な根拠に基づき論理的かつ客観的に説明できる。
良	流通システムの全体像を理解し、卸売業や小売業が直面する諸問題を把握しているが、十分な説明ができない。
可	流通システムの全体像を理解しているが、卸売業や小売業が直面する諸問題を十分に把握していない。
不可	流通システムの全体像を理解せず、中小企業が抱える諸問題についても把握していない。
放棄	上記の基準を満たさない者。 例）出席回数が満たない者。期末レポートを提出しなかった者など
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の小課題に対しては、講義内でコメント・補足を行います。
テキスト	【書名】新・流通と商業 第6版 【著者】鈴木安昭／東伸一・慈田豊・三村優美子(補訂) 【出版社】有斐閣 【出版年】2016年 【ISBNコード】978-4641164673
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input checked="" type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	講義内容の予習・復習をしてください。
教員との連絡方法	メールで連絡してください。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地域農業システム論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 山本 公平

授業概要	<p>我が国の農林業を取り巻く環境は、高齢化と少子化による急激な農業従事者の減少によって、耕作放棄地が増加し野菜や果樹等の産地が縮小又は消滅する状況にある。一方で農林業は、國民に食料を安定的に供給するとともに地域の経済を支えており、水田等による國土保全機能や美しい農山村風景の維持にも努めている。</p> <p>政府は、經營感覚を持った農林業経営者が活躍できる環境を整備することによる農林業の成長産業化施策と、國土保全等の多面的な機能を発揮するための地域政策を進めている。</p> <p>農業は都市的地域と平地地域、中山間地域に体別できるが、当授業は日本農業の現状と取り巻く環境を学んだ後に、中山間地域に代表される地域農業の存続について学んでいく。なお、2回の小テストを実施することで、授業の理解度をみながら進めていく。</p>
到達目標	<p>日本農業の現状と取り巻く環境を理解し、農業の持つ特性を踏まえた上で地域農業存続の方向性について考えることができるようになるために次の点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本農業の現状と取り巻く環境を理解し、関係する用語を用いて説明や文書作成が可能となる。</li> <li>2. 地域農業の特性を踏まえた上で、その存続についての討論や説明が可能となる。</li> </ol>

授業計画																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション 日本農業の概要</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>日本農業の現状と取り巻く環境</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>農業生産の構成要素の現状</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>農産物流通の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>日本農業の歴史</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>世界と日本の食料事情</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>地域農業の現状と課題</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>これまでのまとめ 小テスト</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>地域農業存続のビジネス化（コミュニティビジネス）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>地域農業存続のビジネス化（集落営農）</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>地域農業の活性化（農業所得向上）</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>地域農業の活性化（資源管理型農場制農業）</td> </tr> </tbody> </table>	回	授業内容	第1回	オリエンテーション 日本農業の概要	第2回	日本農業の現状と取り巻く環境	第3回	農業生産の構成要素の現状	第4回	農産物流通の現状と課題	第5回	日本農業の歴史	第6回	世界と日本の食料事情	第7回	地域農業の現状と課題	第8回	これまでのまとめ 小テスト	第9回	地域農業存続のビジネス化（コミュニティビジネス）	第10回	地域農業存続のビジネス化（集落営農）	第11回	地域農業の活性化（農業所得向上）	第12回	地域農業の活性化（資源管理型農場制農業）
回	授業内容																									
第1回	オリエンテーション 日本農業の概要																									
第2回	日本農業の現状と取り巻く環境																									
第3回	農業生産の構成要素の現状																									
第4回	農産物流通の現状と課題																									
第5回	日本農業の歴史																									
第6回	世界と日本の食料事情																									
第7回	地域農業の現状と課題																									
第8回	これまでのまとめ 小テスト																									
第9回	地域農業存続のビジネス化（コミュニティビジネス）																									
第10回	地域農業存続のビジネス化（集落営農）																									
第11回	地域農業の活性化（農業所得向上）																									
第12回	地域農業の活性化（資源管理型農場制農業）																									

第13回	地域農業の活性化（地産地消システム）
第14回	地域農業の活性化（地域と共に）
第15回	まとめ 小テスト
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 1時間程度農業に関する資料に目を読み、興味のある項目はネットで検索して深掘りする。 (毎回の授業終了後に行うべき復習) 1時間程度授業で学んだ内容の中で、重要と指摘された項目についてネットや図書館で検索し、自分なりの整理を行う。
評価方法（割合）	論述式小テスト2回（40%） 論述式期末試験（60%）
評価基準	
秀	論述式の試験問題に対して、地域農業に関する知識を学んだことを適切な用語を使って論理的に解答できている。
優	論述式の試験問題に対して、地域農業に関する知識を学んだことを一部適切な用語を使って論理的に解答できている。
良	論述式の試験問題に対して、地域農業に関する知識を学んだことを適切な用語を使うか、または論理的に解答できている。
可	論述式の試験問題に対して、地域農業に関する知識を学んだことを解答できている。
不可	上記の基準に達していない。
放棄	小テスト・期末試験を受験しない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストの理解度を踏まえて、授業内容に修正を加える。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	農林水産省『食料・農業・農村白書』
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
メッセージ	福知山市及び周辺地域に关心を持って、週末には道の駅や農産物直売所、観光農園を訪問し、その行き帰りの農村風景を季節ごとに眺めてみてください。
教員との連絡方法	火曜日の昼休憩には非常勤講師控え室に待機しているので、来室のこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地方自治論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 杉岡 秀紀

授業概要	<p>1993年の地方分権推進の決議から始まった地方分権の流れは、2000年の地方分権一括法の施行をもって結実したかに見える。確かにこの分権改革により、まさにこれまでの「官治・集権」の時代から、「自治・分権」の時代に入った。しかし、この分権改革とはいわゆる団体自治主導の分権の議論が主であり、我々はもっと住民自治主導の地方自治のあり方について議論をしなければならない。それが今日の中央集権的な地方創生への反省や解決策にも通じるヒントとなる。</p> <p>そこで、本講義では地方自治の歴史や法における地方自治の理解から始まり、様々な地方自治を取り巻く多くのトピックを学習していく。</p>
到達目標	<p>以下の知識・スキルを体得することを到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治の観点からグローバル化する世界と地域社会の関係を理解できる。</li> <li>・地方自治の観点から対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる。</li> <li>・地方自治の観点から地域社会における様々な活動と、活動をなす主体との関係の実践的把握ができる。</li> </ul>

回	授業内容
第1回	講義の概要、地方自治とは何か
第2回	憲法と地方自治
第3回	団体自治と住民自治
第4回	地方分権と地域創生
第5回	道州制と特別地方公共団体
第6回	計画行政と総合計画
第7回	自治基本条例と地域自治
第8回	二元代表制と議会改革
第9回	行政改革と行政経営
第10回	地方公務員と人材育成
第11回	新しい公共と協働
第12回	人口問題と地域コミュニティ、関係人口
第13回	事例研究（基礎自治体）

第14回	事例研究（広域自治体）
第15回	まとめとふりかえり
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習）        ・シラバスで次回のテーマを確認し、参考資料等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習）        ・講義で配布された資料及びテキスト等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理すること。</p> <p>（その他）        ・またペアワークやグループワークはトピックなテーマを取り上げるため、ニュースや地元新聞に絶えずチェックしておくこと。</p>
評価方法（割合）	<p>授業理解度・ミニレポート（30%）        グループワークへの貢献度（10%）        期末レポート（60%）</p>
評価基準	
秀	講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。また、自学自習や実践につなげている。
優	講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。
良	講義で習った概念を理解でき、他者に客観的に説明することができる。
可	講義で習った概念を理解しているが、十分とは言えない。
不可	講義で習った概念を理解できていない。
放棄	講義の3分の2以上出席していない。あるいは試験を受けていない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについては、授業アンケートのリフレクションペーパーにおいて記載することとする。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	真山達志・今川晃・井口賛『地域力再生と政策学』（ミネルヴァ書房、2010）、今川晃編『地域公共人材をつくる』（法律文化社、2013）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀・藤沢実『もうひとつの「自治体行革」』（京都政策研究センターーブックレットvol.2）』（公人の友社、2014）、白石克孝・石田徹編『持続可能な地域実現と大学の役割』地域公共人材叢書第3期第1巻（日本評論社、2014）、今川晃編『地方自治を問い合わせなおす』（法律文化社、2014）、杉岡秀紀編著『地域力再生とプロボノ』（京都政策研究センターーブックレットvol.3）』（公人の友社、2015）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀ほか『地域創生の最前線（京都政策研究センターーブックレットvol.4）』（公人の友社、2016）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀ほか『「みんな」でつくる地域の未来（京都政策研究センターーブックレットvol.5）』（公人の友社、2017）、北村亘ほか『地方自治論』（有斐閣ストゥディア、2017）、今井照『地方自治講義』（ちくま新書、2017）、杉岡秀紀ほか編『合併しなかった自治体の実際』（公人の友社、2018）、大森彌ほか『これから的地方自治の教科書』（第一法規、2019）、今川晃・牛山久仁彦編『自治・分権と地域行政』（芦書房、2020）
卒業認定・学位授与方針との関連	
⑤特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させるができる人財	
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本講義は、毎回ミニワークやグループワークを取り入れ、学びの双方向性を重視する（アクティブラーニング）。</li> <li>3分の1以上（6回以上）の欠席は、単位不可とする。</li> </ul>
教員との連絡方法	

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	非営利組織論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 杉岡 秀紀

授業概要	1998年に議員(市民)立法で成立した特定非営利活動促進法(NPO法)の施行から約20年の歳月が経ち、日本におけるNPO法人数は5万団体を超えた。確かに数だけ見れば、NPOは、政府セクター、企業セクターに次ぐ第三番目のセクターになり得た感がある。しかし、財政面やマネジメント面も含め、まだまだ組織及びセクターとして克服すべき課題が山積している。そこで、本講義ではNPOや公益財団等含む非営利組織に着目し、学びを深める。そして、可能な限り北近畿地域の非営利組織の第一線で活躍するゲストも招聘しながら、実際のNPOの事例や課題について見聞できる機会も作りたい。
到達目標	以下の知識・スキルを体得することを到達目標とする。 ・非営利組織の観点からグローバル化する世界と地域社会の関係を理解できる。 ・非営利組織の観点から対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる。 ・非営利組織の観点から地域社会における様々な活動と、活動をになう主体との関係の実践的把握ができる。

授業計画	
回	授業内容
第1回	自己紹介、講義の概要、NPOとは何か
第2回	NPOと法・立法過程
第3回	NPOとボランティア
第4回	NPOと協働
第5回	NPOとソーシャルビジネス
第6回	NPOの雇用、人的資源管理
第7回	NPOのマーケティング・マネジメント
第8回	NPOとインターミディアリとアドボカシー
第9回	NPOの評価
第10回	NPOとプロボノ
第11回	NPOと寄付
第12回	事例研究（慈善型NPO）
第13回	事例研究（事業型NPO）

第14回	事例研究（中間支援NPO）
第15回	まとめとふりかえり
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) シラバスで次回のテーマを確認し、テキスト等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で配布された資料及びテキスト等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理すること。
評価方法（割合）	・授業理解度・ミニレポート（30%） ・グループワークへの貢献度（10%） ・期末レポート（60%）
評価基準	
秀	講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。また、自学自習や実践につなげている。
優	講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。
良	講義で習った概念を理解でき、他者に客観的に説明することができる。
可	講義で習った概念を理解しているが、十分とは言えない。
不可	講義で習った概念を理解できていない。
放棄	講義の3分の2以上出席していない。あるいは試験を受けていない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについては、授業アンケートのリフレクションペーパーにおいて記載することとする。
テキスト	特になし。
参考書・参考資料等	山内直人『NPO入門』（日本経済新聞社、1999）、山本啓・雨宮孝子・新川達郎編著『NPOと法・行政』（ミネルヴァ書房、2002）、NPOと行政の協働の手引き編集委員会『NPOと行政の行動の手引き』（社会福祉法人大阪ボランティア協会、2004）、田尾雅夫『実践NPOマネジメント』（ミネルヴァ書房、2004）、岡村榮一・菅井直也・姿鹿み子編『学生のためのボランティア論』（社会福祉法人大阪ボランティア協会、2006）、早瀬昇・水谷綾・永井美佳・岡村こず恵他著『テキスト市民活動論』（社会福祉法人大阪ボランティア協会、2011）、杉岡秀紀編著『地域力再生とプロポノ』（京都政策研究センター ブックレットvol3）（公人の友社、2015）、平尾剛之ほか『NPO最善戦』（京都新聞出版センター、2018）
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させができる人財	
メッセージ	・本講義は、毎回ミニワークやグループワークを取り入れ、学びの双方向性を重視する（アクティブラーニング）。 ・3分の1以上（6回以上）の欠席は、単位不可とする。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。Eメール（sugioka-hidenori@fukuchiyama.ac.jp）に連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	講師は、自らNPOを立ち上げたことがあるほか、現在多くのNPOで役員を務めている。そういった意味から机上の空論ではなく、現場から抽出されたエッセンスも伝えたい。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	コミュニティビジネス	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	
所属名称	ナンバリングコード	
担当教員		
氏名 <input checked="" type="checkbox"/> 塩見 直紀		
授業概要	この授業は、国内外におけるコミュニティビジネス（社会起業も含）の現状と動向、手法、戦略等を先進例、若手ベンチャー、新しい潮流に学んでいく。地域資源活用、新しい組み合わせ、コンセプトメイク、プランディング、情報発信等なども重要なキーワードとして、一般の企業経営においても応用可能な内容とし、考え方や方法の理解が深まるように事例紹介も含め講述する。自らがコミュニティビジネスをおこなう学生ベンチャーとして、福知山と地元（出身地）での2案、企画もおこなう。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティビジネスの現状と課題について基本的な知識を修得する。</li> <li>・コミュニティビジネスの経営センス、経営の在り方、戦略等を学ぶ。</li> <li>・地域資源（地域資源創出）を活かしたコミュニティビジネスの独自戦略プランを立案できる。</li> </ul>	
授業計画		
回	授業内容	
第1回	コミュニティビジネス論の概要とめざす方向性について（オリエンテーション）、課題発表	
第2回	コミュニティビジネスとは何か、社会起業（ソーシャルビジネス）とは何か	
第3回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：都市）	
第4回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：農村）	
第5回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：子育て）	
第6回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：食）	
第7回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：農）	
第8回	コミュニティビジネス企画ワークショップ（個別プレゼンテーション準備）	
第9回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：貧困）	
第10回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：高齢者）	
第11回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：こころ、絆）	
第12回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：教育）	
第13回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：空き家）	
第14回	コミュニティビジネス事例研究（テーマ：未来）、コミュニティビジネスベンチャー構想（プランニング）	
第15回	課題提出と試験	

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) について、日ごろから問題意識をもつこと。 ・コミュニティビジネス（社会起業）を立ち上げるという気概をもち、関連書を手にするなど、自己学習をおこなうこと。
	(毎回の授業終了後に行うべき復習) ・1回目に出す課題について、復習をおこない、充実をはかる（最終日提出） (その他)
評価方法（割合）	試験・課題（80%） 毎回の感想・気づき・提案シート（20%）
評価基準	
秀	必要なキーワードを過不足なく用いて、論理的に客観的な説明ができ、かつ、課題や独自の解決策を的確に指摘できている
優	キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができ、課題を理解し、解決策を提示できる
良	おおよその説明はできており、かつ、課題を理解している
可	課題の説明において、最低限の水準を満たしている
不可	課題が説明できていない
放棄	講義に3分の2以上は出席していない
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本授業では思考のアウトプット（感想・気づき・アイデアシート）を重視し、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	参考書や資料等は適宜講義で提示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができると人財	◎
メッセージ	地域課題をビジネス手法で解決する試みを学ぶことは今後、どの分野に行かれても役立つと思います。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	21世紀の生き方、暮らし方としての「半農半X」「天職観光」「1人1研究所社会」等のコンセプトの提唱。NPO法人里山ねっと・あやべや半農半X研究所、綾部ローカルビジネスデザイン研究所、スマールビジネス女性起業塾、総務省地域力創造アドバイザーとしての都市農村交流と移住支援、ソーシャル系大学企画、情報発信、地域資源調査と可視化（古典的編集手法「AtoZ」を活用、地域資源から新しいアイデアを生み出す問題集制作）など。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	税務会計	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	なし	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 飯田 哲也

授業概要	税務会計とは、税法の規定に基づき課税所得を算定する方法です。本講義では、税法の学習領域のうち税務会計すなわち、法人税法に関する計算領域について取り上げる。法人税法を学習するためには、租税法の体系を基礎からしっかりと学習することが重要である。本講義では、税務会計の基礎固めとして租税法の体系の理解と法人税法の基礎を理解することを目的としている。
到達目標	本講義では、税務初学者を対象に法人税法の基礎的な概念や考え方、税務処理及び計算処理まで可能にするための知識取得を目指している。本講義履修後には、初步的な法人税の確定申告書作成実務を行うための知識を習得する。

回	授業内容
第1回	イントロダクション 税務会計論のガイド、本講義の内容説明。
第2回	税の世界（国税と地方税） 国税と地方税の概要について、具体的にそれぞれの代表的な税目を取り上げ理解する。
第3回	課税所得の計算構造① 確定決算主義、企業会計と課税所得計算について学習する。
第4回	課税所得の計算構造② 税務調整、益金の範囲、損金の範囲等について学習する。
第5回	益金の会計① 収益の計上基準および工事の請負について学習する。
第6回	益金の会計② 受取配当等、有価証券の譲渡損益および評価損益について学習する。
第7回	中間試験 2~6回までの講義内容に基づき中間試験を行う。
第8回	中間試験解説 前回行った中間試験の解説を行う。
第9回	損金の会計① 売上原価、減価償却の様々な計算方法、リース会計について学習する。
第10回	損金の会計② 給与、寄付金、交際費、引当金等様々な損金について学習する。
第11回	

	損金の会計③・同族会社課税 貸倒損失等、様々な損金について学習する。 同族会社課税について学習する。
第12回	課税所得・税額の計算① 課税所得計算と欠損金、法人税額の計算、税額控除について学習する。
第13回	課税所得・税額の計算② 前回講義の復習と基本的な法人税の計算を実際に行う。
第14回	申告、納付、申告内容の是正等 申告、納付および還付、申告内容の是正等について学習する。
第15回	税務会計論の総括 第2回講義から第14回講義の総括を行う。
第16回	期末試験 全講義にわたる基本的事項の理解度チェック。

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	第1回講義の際に説明を行うが、2回目以降の講義についてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
評価方法（割合）	講義への貢献度と中間試験・期末試験の結果にて評価を行う。 出席及び授業に対する貢献度合 30% 中間試験および期末試験 70%

評価基準
------

秀	適切に問題点を指摘し、論理的かつ現実的な特筆すべき解決策を提示できる。
優	指摘された問題に対してすぐれた解決策を提示できている。
良	指摘された問題に対して一定の解決策を提示できている。
可	問題点の指摘、解決策の提示、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	問題点の指摘、解決策の提示、いずれも提示ができていない。
放棄	期末試験を受験しない場合および出席回数が10回未満の場合は放棄とみなす。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	中間試験に関しては、翌週の講義にて解説を行う。 期末試験に関しては、終了後模範解答と講評を行う。
テキスト	・成道秀雄「現代税務会計論」中央経済社、2018年
参考書・参考資料等	・酒井克彦「スタートアップ租税法第3版」財経詳報社、2015年

卒業認定・学位授与方針との関連
-----------------

◎特に関係性が深い、○関係性が深い
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財

メッセージ	税の世界は、実は学生の皆さんにとっても非常に身近なものであります。講義中に何回か国税局作成の税務実務DVDを鑑賞しながら税金に対して一層の関心を持っていただきたいと考えております。楽しく税を学ぶという趣旨のため、参加者には、積極的な講義への参加を求めます。
教員との連絡方法	第一回講義時にメールアドレスを告知するのでメールにて情報交換を行う。
担当教員の実務経験	税理士資格を取得して18年、その後、自身の税理士事務所を経営して約15年のキャリアを持つ。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	中小企業論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
(◎ 佐藤 充)

授業概要	<p>中小企業は、日本経済を支える基盤であるとともに、地域経済を牽引するものである。我が国では、大企業の下請企業や地域商業の小売・サービス店だけではなく、高度な技術力や独創的なビジネスモデルを有する革新的中小企業が事業活動を展開している。さらに、新たな産業の担い手として、スタートアップ企業への期待も高まっているのである。</p> <p>本講義は、中小企業の概念や仕組みを学習するとともに、中小企業の実態や経営課題について、具体的なデータや事例を通して理解することを目的とする。あわせて、地域経済における中小企業の役割や問題点を議論・検討するものである。</p> <p>※必要に応じて、ゲスト講師による講義を行う予定である。</p>
到達目標	<p>① 日本経済における中小企業の役割を理解し、中小企業を取り巻く経済環境や中小企業の経営について説明することができるようになる。</p> <p>② 中小企業が抱える諸問題を把握し、具体的な根拠に基づき、今後の在り方に関する展望や構想を提示することができるようになる。</p>

回	授業内容
第1回	イントロダクション 日本経済と中小企業
第2回	中小企業とは
第3回	日本における中小企業の変遷
第4回	大企業と中小企業
第5回	下請システムと中小企業
第6回	グローバル化と中小企業
第7回	中小企業の事業承継
第8回	中小企業の研究開発活動とイノベーション
第9回	スタートアップ企業の経営と支援
第10回	中小企業と地域経済
第11回	中小企業のネットワーク化
第12回	情報化と中小企業
第13回	中小企業の資金調達
第14回	中小企業政策の展開

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>【毎回の授業前に行うべき予習】            ・各講義の最後に、次回までの小課題を指示する。  <b>【毎回の授業終了後に行うべき復習】</b>            ・講義後は、配布資料とノートを読んで復習すること。  <b>【その他】</b>            ・ニュースや新聞記事等に目を通し、中小企業に関する時事問題について、自らの意見を考えること。</p>
評価方法（割合）	期末試験 (60%) 小課題 (30%) 講義での発言 (10%)
評価基準	
秀	中小企業の役割や経営について理解し、中小企業が抱える諸問題を具体的な根拠に基づき論理的かつ客観的に説明でき、今後の展望や構想を提示できる。
優	中小企業の役割や経営について理解し、中小企業が抱える諸問題を具体的な根拠に基づき論理的かつ客観的に説明できる。
良	中小企業の役割や経営について理解し、中小企業が抱える諸問題を把握しているが、十分な説明ができない。
可	中小企業の役割や経営について理解しているが、中小企業が抱える諸問題を十分に把握できていない。
不可	中小企業の役割や経営について理解せず、中小企業が抱える諸問題についても把握していない。
放棄	上記の基準を満たさない者。 例) 出席回数が満たない者。期末レポートを提出しなかった者など
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の小課題に対しては、講義内でコメント・補足を行います。
テキスト	<p>【書名】中小企業・ベンチャー企業論【新版】            【著者】植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治            【出版社】有斐閣コンパクト            【出版年】2014年            【ISBNコード】978-4641164314</p>
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input checked="" type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	講義内容の予習・復習をしてください。
教員との連絡方法	メールで連絡してください。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	観光総論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンパリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 中尾 誠二

授業概要	本科目では、観光に関する基本的な知識を学習します。観光の基本概念、関連産業の概要、将来展望など幅広く講義を行います。（なお、複数回ゲストスピーカーによる講義を行う可能性があります。）
到達目標	1) 観光に関する基本的な知識を身につけ、説明できる。 2) 観光には様々な業種があって相互に関連していることを理解し、説明できる。 3) 観光に関する最近の動向や課題について理解し、自らの意見を述べることができる。

授業計画	
回	授業内容
第1回	観光とは
第2回	旅行会社
第3回	鉄道、高速道路
第4回	宿泊業
第5回	飲食業
第6回	物販業
第7回	名所、旧跡、温泉
第8回	登山、スキー場、海水浴場
第9回	テーマパーク
第10回	世界遺産、ジオパーク
第11回	多様なツーリズム
第12回	航空会社
第13回	アウトバウンド観光、インバウンド観光
第14回	ゴールデンルート、バリュールート
第15回	まとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) ニュースや新聞に絶えず目を向けておくこと。
--------------------------	--

	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにすること。
評価方法（割合）	期末試験 (50%) 講義ノート記載状況 (30%) 受講態度 (20%)
評価基準	
秀	設問に適切に答えている。
優	設問に答えている。
良	設問に答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	講義に3分の2以上は出席していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義ノート記載状況を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	前田勇編著『新現代観光総論』ほか適宜紹介します
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
メッセージ	講義後は毎回ノート提出を求めるため、バインダー（ルーズリーフ）方式のノートを推奨する。
教員との連絡方法	研究室（4号館4F南側一番奥）前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談
担当教員の実務経験	農林水産省の財団勤務18年
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	農業経営論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 山本 公平

授業概要	<p>皆さんの多くは大学卒業後に企業等へ就職しビジネスパーソンとして働くことになる。経営学は企業等の経営活動を対象とした学問である。皆さんが食料品や日用品を購入するためによく利用するコンビニエンスストアは企業であるが、コンビニエンスストアに食料品や日用品を運ぶ運送会社や、食料品を製造する食品メーカーも企業である。企業はさまざまな形で私たちの社会生活を支えている。</p> <p>企業は市場（顧客）が求める財（製品）やサービスを適正な価格で提供することで、市場（顧客）に便宜を与え、企業はその対価として利益を得ている。企業はこの循環を回すために、「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」の4つの経営資源を市場から調達し最適に配分することで、企業を経営していく。</p> <p>農業経営を行う企業等の経営体や農業者も同様の活動をしているが、農業ゆえの経営上の特徴も持つ。</p> <p>本授業は、農業の基本的事項及び農業経営の特性を学んだ後に、経営の仕組みについて学んでいく。なお、2回の小テストを実施することで、授業の理解度をみながら進めていく。</p>
到達目標	<p>農業の持つ特性を理解した上で経営学の基本を学び、農業経営について考えることができるようになるために次の点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本農業の特性を理解し、関係する用語を用いて説明や文書作成が可能となる。</li> <li>2. 経営学の知識に農業の特性を踏まえた上で、農業経営についての討論や説明が可能となる。</li> </ol>

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 農業経営学の概要
第2回	農業の姿（農業の特性）
第3回	農業の姿（農業経営の特性）
第4回	農業の姿（日本農政の戦後史）
第5回	農業の姿（JAと卸売市場）
第6回	経営学の概要
第7回	経営戦略とは
第8回	第1回～第7回のまとめ 小テスト
第9回	経営戦略の策定
第10回	バリューチェーン（調達～栽培）

第11回	バリューチェーン（6次産業化）
第12回	バリューチェーン（収穫・調整・出荷物流）
第13回	バリューチェーン（販売～サービス）
第14回	社会的企業の経営
第15回	9回～14回のまとめ 小テスト

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 1時間程度農業または経営に関する資料に目を読み、興味のある項目はネットで検索して深掘りする。 (毎回の授業終了後に行うべき復習) 1時間程度授業で学んだ内容の中で、重要と指摘された項目についてネットや図書館で検索し、自分なりの整理を行う。
評価方法（割合）	論述式小テスト2回（40%） 論述式期末試験（60%）

評価基準

秀	論述式の試験問題に対して、農業経営に関する知識を学んだことを適切な用語を使って論理的に解答できている。
優	論述式の試験問題に対して、農業経営に関する知識を学んだことを一部適切な用語を使って論理的に解答できている。
良	論述式の試験問題に対して、農業経営に関する知識を学んだことを適切な用語を使うか、または論理的に解答できている。
可	論述式の試験問題に対して、農業経営に関する知識を学んだことを解答できている。
不可	上記の基準に達していない。
放棄	小テスト・期末試験を受験しない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストの理解度を踏まえて、授業内容に修正を加える。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	農林水産省『食料・農業・農村白書』

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎

メッセージ	福知山市及び周辺地域に关心を持って、週末には道の駅や農産物直売所、観光農園を訪問し、その行き帰りの農村風景を季節ごとに眺めてみてください。
教員との連絡方法	火曜日の昼休憩には非常勤講師控え室に待機しているので、来室のこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	医療事務総論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	あり(聴講生を認める)	
履修年次	4年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 岡本 悅司

授業概要	わが国医療の大半は、保険制度によってカバーされる「保険診療」であり、医療機関は国の定める詳細なルール(療養担当規則)、価格(診療報酬点数表と薬価基準)そして形式(電子レセプトフォーマット)にそった手続きが義務づけられている。そうした保険診療に関する手続は「医療事務」と呼ばれ、これが適切に行なわないと医療機関は報酬を支払われない。本科目は卒業後に医療機関勤務を予定する学生を対象に、医療事務の知識と技能を習得させ即戦力となることを目的とする。医療機関が提出する医療費請求書をレセプトと呼ぶが現在では完全電子化されており、そのレセプトデータの構造と分析技能を、サンプルデータを用いて習得する。
到達目標	保険診療のしくみとレセプトデータの構造を理解し、医療機関の事務職として即戦力となる知識と技能を習得する。また、医療保険事務協会が実施する診療報酬請求事務認定試験合格をめざす。

授業計画
------

回	授業内容
第1回	医療保険制度(公費医療含む)と医療関連法規
第2回	保険診療の仕組み(療養担当規則、診療報酬点数表、各種施設基準)
第3回	サンプルレセプトデータ(支払基金提供) 医科
第4回	サンプルレセプトデータ(支払基金提供) 調剤
第5回	サンプルレセプトデータ(支払基金提供) DPC
第6回	電子レセプトの構造(データ識別、レコード識別、診療識別、摘要欄情報)
第7回	診療行為コード(診療行為マスター)
第8回	医薬品コード(薬価基準マスター)
第9回	傷病名コード(傷病名マスター)
第10回	医療機関コード(医療機関マスター)
第11回	各種施設基準(ブロック別厚生局サイトよりダウンロード)
第12回	ACCESSとSQLを用いたレセプトデータと各種マスターファイルの結合
第13回	調剤レセプトデータの分析
第14回	DPCデータの分析
第15回	ナショナルデータベースと国保データベース

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	（毎回の授業前に行うべき予習） PC操作法は繰り返さないとたちまち忘却される。PC操作法は頭ではなく身体（指）で覚えるものであり、前回に学んだ操作を繰り返してキーボードを見なくとも操作できるくらいに習熟すること。 （毎回の授業終了後にを行うべき復習） 講義終了後に、当日やった作業内容を全員の前でプロジェクトをつかって実演する。それに対して教官がコメントするので、指摘された内容を繰り返して自習する。
評価方法（割合）	期末レポート（100%）

## 評価基準

秀	レセプトデータをACCESS上でSQLを用いてマスターファイルと結合し、かつデータウェアハウス（Excel上でピボットテーブルで操作できるよう加工したもの）化して自在に集計を行える。
優	レセプトサンプルデータをACCESS上でSQLを用いてマスターファイルと結合し、SQL言語を用いて集計ができる。
良	レセプトサンプルデータと各種マスターファイルをExcelに読み込んで処理はできるが、ACCESS上でSQLを用いた処理はできない。
可	レセプトデータの構造とマスターファイルの内容を理解できるが、それを結合した処理ができない。
不可	レセプトデータとマスターファイルの構造や意味が理解できていない。
放棄	3分の1以上欠席。または期末レポート未提出

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回行った作業結果のプリントアウトを提出する。プリントアウトは出席チェックとするが採点はしない。しかし内容に応じて必要な指導をする
テキスト	【書名】診療点数早見表 【著者】 【出版社】医学通信社 【出版年】2018 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	診療点数表は2年毎に改定され、2020年版ができると中古本がアマゾン等に格安で出品されるのでおすすめ（使用するデータはやや古いものなので最新ではなく旧版を購入すること） サンプルレセプトデータは社会保険診療報酬支払基金サイトから、各種マスターファイルは厚生労働省の診療報酬情報サイトよりダウンロードできる。

## 卒業認定・学位授与方針との関連

## ◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基礎となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○
地域社会の多様な主体に 관심をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	◎
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	

メッセージ	講義とPC演習を併用する。PC演習はPC室で実施する。作業内容を持ち帰れるようUSBを持参すること。
教員との連絡方法	月曜（研究日）以外いつでも可（4階8号室）。
担当教員の実務経験	医療保険事務協会の実施する診療報酬請求事務認定試験第1回（1994年）合格。国立保健医療科学院でのe-learning「レセプト・DPCデータ分析法」を10年にわたり担当した。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地域医療福祉論	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修生・聴講生	
履修年次	4年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 川島 典子

授業概要	<p>本講義の目的は、地域福祉の概要を理解することにある。まず、地域福祉の制度やサービス、および地域福祉に関わる法律などの地域福祉政策を学んだ上で、地域包括ケアシステムや包括的支援において、保健医療福祉の専門職が駆使する地域援助技術（コミュニティソーシャルワークなど）についても講義する。</p> <p>さらに、地域福祉を推進する団体である社会福祉協議会の役割と、地域福祉計画についても学ぶ。また、地域のつながりを指すソーシャル・キャピタル（SC）や、SCの構成要素である地域のボランティアおよびNPOの活動と、ローカル・ガバナンスによる地域協働についても講義する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域福祉の理念や概念について理解することができる。</li> <li>2. 地域福祉の制度やサービスについて理解することができる。</li> <li>3. 地域福祉政策について理解することができる。</li> <li>4. 地域援助技術（コミュニティソーシャルワークなど）について理解することができる。</li> <li>5. ソーシャル・キャピタルやローカル・ガバナンスについて理解することができる。</li> </ol>

授業計画	
回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	地域福祉とコミュニティ
第3回	地域福祉の概念と理念
第4回	地域福祉を支える制度とサービス、地域福祉の構成要素と財源
第5回	地域福祉政策①：戦後～社会福祉基礎構造改革
第6回	地域福祉政策②：社会福祉法の改正と地方分権
第7回	地域福祉政策③：介護保険制度と包括的支援
第8回	包括的支援の実際とソーシャル・キャピタル
第9回	地域福祉を支える専門職と社会福祉協議会
第10回	地域援助技術（コミュニティオーガニゼーション、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク）
第11回	地域福祉計画
第12回	地域福祉におけるニーズ把握の方法
第13回	みんなで地域福祉計画を立てみよう（アクティブラーニング）

第14回	みんなの地域福祉計画（各班発表）
第15回	まとめ（地域協働としてのローカル・ガバナンス）
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	毎回、前回の復習を行うので、回答できるようにしておくこと。 教科書の該当部分の予習を行い、講義後は、教科書とノートで復習すること。
評価方法（割合）	期末試験 70% レポート・小テストおよび発表 20% 受講態度 10%
評価基準	
秀	試験が90点以上で講義テーマに関する必要な知識を十分に習得できている。
優	試験が80点以上で、講義テーマに関する必要な知識を概ね習得できている。
良	試験が70点以上で、講義テーマに関する凡その知識を習得できている。
可	試験が60点以上で、最低限の理解をしている。
不可	試験が60点以下で、知識の習得が不十分である。
放棄	試験を受けていない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各回の講義で学生からの質問に応じる。
テキスト	【書名】地域福祉政策論 【著者】新川達郎・川島典子編著 【出版社】学文社 【出版年】2019年 【ISBNコード】978-4-7620-2928-8
参考書・参考資料等	成清美治・川島典子編著（2013）『地域福祉の理論と方法』学文社、など
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input checked="" type="radio"/>
メッセージ	地域福祉の実現について、地域協働の観点から共に考えてみましょう。決して受け身にならない楽しい講義を目指したいと思います。
教員との連絡方法	初回講義時に指示する。
担当教員の実務経験	元産経新聞大阪本社社会部記者。
備考	講義中、特段の理由がない限り、私語を慎むこと。教科書とノートを必ず、持参すること。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	文化人類学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 渋谷 節子

授業概要	<p>この授業では、世界の様々な人々の暮らしや文化、社会について学び、異文化理解について考える。また、異文化理解を妨げる諸問題にも着目をし、日本における多文化共生社会の在り方や世界の文化的諸問題について考える。</p> <p>文化人類学は、外国の社会や文化の研究として発展してきた。この授業では、文化人類学の歴史や背景、考え方、基本的な理論、研究手法や民族誌について学習する。さらに、文化人類学的な手法や考え方が、日本における多文化共生社会の実現や、現代の世界の文化的対立などの諸問題の解決にどのように役立てられるのか、その可能性について考察をする。</p> <p>授業は講義を中心としながら、アクティブラーニング（ワークシート、グループワークなど）の手法を交えて行う。</p>
到達目標	<p>(1) 文化人類学の歴史と背景を理解できる。  (2) 文化や異文化について考察ができる。  (3) 文化人類学の研究手法や民族誌について、理解している。  (4) 文化人類学の理論の基礎を習得している。  (5) 現代の世界における異文化理解の意義について考えることができる。</p>

授業計画	
回	授業内容
第1回	イントロダクション：文化人類学とは
第2回	文化人類学の歴史と背景
第3回	文化について考える
第4回	異文化と異文化理解
第5回	参与観察という手法
第6回	ステレオタイプとエスノセントリズム
第7回	文化相対主義とその難しさ
第8回	民族誌を描くということ
第9回	ビデオ視聴<アマゾンの人々>
第10回	文化人類学の理論の基礎
第11回	世界の文化的問題
第12回	グローバリゼーションと文化
第13回	人間の安全保障と文化

第14回	多文化共生社会と文化人類学
第15回	まとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	（毎回の授業前に行うべき予習） 与えられた課題文献やテキストを読んでおくこと（約45分）。 （毎回の授業終了後に行うべき復習） 授業の内容とワークシートで考えたことを振り返り、さらに考察を深めること（約15分）。
評価方法（割合）	ワークシートの作成 20% グループワーク 20% 期末レポート 60%
評価基準	
秀	文化人類学について基本的な事項を理解した上で、具体的な事例について自らの考察を行い、応用することができる。
優	文化人類学について基本的な事項を理解し、具体的な事例を用いて自らの考察を行うことができる。
良	文化人類学について基本的な事項を理解し、自らの考察を行うことができる。
可	文化人類学について、基本的な事項を理解している。
不可	文化人類学について、基本的な事項が理解できていない。
放棄	講義の3分の1以上欠席している。または、期末レポートを提出していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各授業のワークシートについては、次の授業でフィードバックを行う。 グループワークのプレゼンについては、その場でフィードバックを行う。 期末レポートについては、希望者には個別にフィードバックを行う。
テキスト	【書名】ようこそ文化人類学へ 【著者】川口幸大 【出版社】昭和堂 【出版年】2019年 【ISBNコード】978-4-8122-1606-4
参考書・参考資料等	『はじめて学ぶ文化人類学』岸上伸啓編著、ミネルヴァ書房、2019年
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	これから日本や世界では、色々な国の人々が共に暮らすことが、ますます増えていくでしょう。文化人類学を通して世界の様々な人々の暮らしや文化や社会について学び、異文化理解について考えてみませんか。
教員との連絡方法	研究室（4号館5階30研究室）を訪ねるか、メールで連絡をしてください。 メールアドレス：shibuya-setsuko@fukuchiyama.ac.jp

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	線形代数基礎	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 渡邊 扇之介

授業概要	自然科学、工学、情報学等の領域では、ベクトルや行列を用いた議論が頻繁に行われる。ベクトルや行列を用いた数学の理論は線形代数学と呼ばれ、本講義では、これらを理解するための基礎について学ぶ。具体的には、ベクトルや行列とは何かから始め、それらの演算を学ぶ。そしてベクトルや行列が持つ性質や応用として、行列式や連立1次方程式の解法、行列の固有値と固有ベクトルについて学ぶ。さらに議論を抽象的な数学の概念である、線形写像やベクトル空間という考えに拡張させ、これらの持つ性質について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ベクトルや行列の計算ができる、連立1次方程式が解ける。</li> <li>2. 行列の行列式の概念を理解し、計算ができる。また行列式を用いて逆行列が計算できる。</li> <li>3. 行列の固有値問題について理解し、計算ができる。またそれらを用いて行列の対角化を行うことができる。</li> <li>4. ベクトルの1次独立・従属の概念を理解し、判別ができる。また線形性やベクトル空間の概念を理解し、判別ができる。</li> </ol>

回	授業内容
第1回	本授業の全体像とベクトル・行列の導入
第2回	低次元でのベクトルと行列
第3回	低次元でのベクトルと行列
第4回	行列を用いた連立1次方程式の解法Ⅱ：行列の基本変形の意味と具体例の計算
第5回	行列式の定義と基本性質
第6回	クラメルの公式を用いた連立1次方程式の解法
第7回	逆行列
第8回	小テストと解説
第9回	ベクトル空間の基底と次元
第10回	線形写像と表現行列
第11回	行列の固有値と固有ベクトルⅠ：定義と幾何学的様相
第12回	行列の固有値と固有ベクトルⅡ：具体例の計算
第13回	行列の対角化Ⅰ：定義と幾何学的様相
第14回	行列の対角化Ⅱ：具体例の計算

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 指定テキストの該当箇所を読んでおくこと。  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 板書した内容をよく理解し、テキストの該当箇所をもう一度読んでおくこと。 また、演習問題を解いておくこと。
評価方法（割合）	適宜理解度を測る演習を実施（10%） 期末試験を実施（90%）
評価基準	
秀	理論を理解し、設問に適切に答えている。
優	理論を理解し、設問に答えている。
良	理論または設問に答えていない箇所がある。
可	理論または設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	理論、設問ともに答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義にて行う演習問題の解答は回収し、次回の講義にて解説を行う。
テキスト	【書名】理工系基礎 線形代数学 【著者】渡邊芳英・齋藤誠慈 【出版社】培風館 【出版年】2015年 【ISBNコード】978-4563004743
参考書・参考資料等	講義で配布するレジュメにて指示を行う。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域経営学部	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
情報学部	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
メッセージ	線形代数学は情報学においても非常に役立ちます。具体的な計算によって得られる結果の意味を考えてみてください。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	微分積分基礎	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンパリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
<input checked="" type="checkbox"/> 渡邊 扇之介

授業概要	自然科学の諸分野において微分や積分は頻繁に用いられる。本講義では、これら将来の応用に必要となる微分積分の基礎を学ぶ。具体的には、1変数関数の微分と積分の理論的な基礎を理解した後、多変数関数の微分と積分を扱う。講義の前半では、1変数関数の微分を用いてその関数の極値や収束などを調べ、また実際にコンピュータで微分の計算をするときに使う近似計算法についてを学ぶ。さらに積分では積分区間の極限を考える広義積分について学ぶ。講義の後半では、多変数関数の微分として、偏微分や全微分の概念と計算法を学ぶ。さらに、多変数関数の積分として重積分の概念と計算法を学ぶ。
到達目標	1. 1変数関数の微分計算ができ、ロピタルの定理等を用いて関数の持つ性質を調べることができる。 2. 1変数関数のテイラー展開・マクローリン展開を計算でき、関数の持つ性質を調べることができる。 3. 1変数関数の積分計算ができる、広義積分が計算できる。 4. 多変数関数の偏微分・全微分が計算でき、テイラー展開をすることができる。 5. 多変数関数の重積分が計算でき、曲面の面積が求められる。

回	授業内容
第1回	本授業の全体像と微分積分の復習
第2回	1変数関数の微分の計算とグラフ
第3回	ロピタルの定理と関数の極限
第4回	1変数関数のテイラー展開とマクローリン展開
第5回	1変数関数の積分計算
第6回	定積分と不定積分
第7回	広義積分
第8回	小テストと解説
第9回	2変数関数と偏微分
第10回	高階偏導関数
第11回	接平面と全微分
第12回	多変数関数のテイラー展開
第13回	重積分

第14回	曲面の面積
第15回	まとめと演習
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 指定テキストの該当箇所を読んでおくこと。  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 板書した内容をよく理解し、テキストの該当箇所をもう一度読んでおくこと。 また、演習問題を解いておくこと。
評価方法（割合）	適宜理解度を測る演習を実施（10%） 期末試験を実施（90%）
評価基準	
秀	理論を理解し、設問に適切に答えている。
優	理論を理解し、設問に答えている。
良	理論または設問に答えていない箇所がある。
可	理論または設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	理論、設問ともに答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義にて行う演習問題の解答は回収し、次回の講義にて解説を行う。
テキスト	【書名】解析入門 I 【著者】小平邦彦 【出版社】岩波書店 【出版年】2003年 【ISBNコード】978-4000051927
参考書・参考資料等	講義で配布するレジュメにて指示を行う。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域経営学部	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
情報学部	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
メッセージ	微分積分学は全ての工学の基礎といっても過言ではありません。具体的な計算によって得られる結果の意味を考えてみてください。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地域情報学I	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
<input checked="" type="checkbox"/> 西田 豊明

授業概要	地域の情報学的側面について広く学ぶ。まず、工学、科学、人文科学を含む学術が捉えてきた世界を、「情報」という概念を導入して捉えなおす情報学のアプローチを規定する。次に、コンピュータと情報ネットワークを用いて情報の生産、流通、加工、共有、活用するための情報技術の広がりを学び、これまでどのように発展してきたかを把握する。その上で、地域に焦点をあてることで浮かび上がる様々な様相を、歴史生活、経済、社会、文化芸術、生命の側面について情報概念を用いて語ることで理解を深める。また、地域とかかわりを持つ人たちの行動を情報技術を用いてどのように支援し、拡張できるか、現状と課題を学び、将来を展望する。
到達目標	次の3つの目標を達成すること。 第一に、情報学と地域情報学に関わる主要な概念と観点と手法を理解できること。 第二に、情報学概念を用いて地域の歴史生活、経済、社会、文化芸術、生命の側面を語れること。 第三に、情報学による地域貢献について自分の考えをきちんと述べることができる。

授業計画	
回	授業内容
第1回	情報学とは
第2回	地域と情報学
第3回	地域の歴史的発展と情報学
第4回	地域の生活と情報学
第5回	地域の経済と情報学
第6回	地域社会と情報学
第7回	ボランティアと情報学
第8回	地域文化・芸術と情報学
第9回	地域の生命と情報学
第10回	中間まとめと討論
第11回	データサイエンスで捉えた地域
第12回	地域を数理的に捉える
第13回	地域のための情報基盤

第14回	地域活性化のための情報学
第15回	まとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 授業で学ぶ内容のイメージ作りと疑問点の整理  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 授業で学んだ概念を様々な具体的な課題に適用できるよう整理しておく。
評価方法（割合）	小レポート (70%) 小論文 (30%)
評価基準	
秀	地域情報学の概念を種々の課題に適用して深い論考を示せる
優	地域情報学の概念を種々の課題に適用して論考を示せる
良	地域情報学の概念と手法の相互の関連をきちんと説明できる
可	地域情報学の主要な概念と手法をきちんと説明できる
不可	上記に達しない
放棄	出席回数が10回に満たない
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	原則として講義時間中あるいは講義終了後に総評を示す。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	講義時間に適宜紹介、配布する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域経営学部	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
情報学部	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	◎
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	○
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	○
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	○
メッセージ	情報学という観点で地域を理解し、情報技術でどのような貢献ができるか現状と可能性を理解しよう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	データサイエンス入門	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンパリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 畠中 利治

授業概要	大量のデータの中から関係性を発見し新たな価値を創造することなど、データサイエンスは現代社会において、欠かせない役割を担うようになっている。本講義では、データをさまざまな角度から分析し、データに基づく意思決定、プロセスの改善、異常の発見など実社会に役立つアウトプットを得るためのデータサイエンスの基本的手法を学んでいくうえで必要となるデータサイエンスの基本的な考え方および、実際の応用例を学ぶ。またこれらの学びを通じて、今後の地域社会の実課題の発見と分析の方法やそこから得られる価値創造に取り組むためのアプローチについて考えていいく。
到達目標	データから何かしらの知見を得るために基本的手法として、記述統計の基礎と確率モデルについて理解する。また、データサイエンスの成り立ちと社会どのように使われているか?を知り、自らデータを集め、データに基づいて判断を行う基本的な流れを理解する。さらにこれらを通じて、地域社会の諸問題をデータを通じて考えていくことができる目標とする。

回	授業内容
第1回	データとは何か?身の回りのデータ、データサイエンスのはじまり
第2回	データを代表する量、平均、中央値、最頻値、分散
第3回	数と量、数量化
第4回	ものごとの関係性、相関と因果
第5回	回帰モデル
第6回	調査、サンプリング、観測のモデル
第7回	不確実性、観測誤差と確率分布
第8回	スポーツとデータサイエンス
第9回	スマートデータとビッグデータ
第10回	統計モデルと確率分布
第11回	社会(医療)とデータサイエンス
第12回	社会とデータサイエンス、種々の統計
第13回	乱数とシミュレーション
第14回	データに基づく意思決定

		(毎回の授業前に行うべき予習) キーワードをもとに関連する資料を探して目を通すこと。 教科書の該当する章を読んでおくこと。		
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間		(毎回の授業終了後に行うべき復習) 手法をより詳しく理解するため、Excelなどを利用してデータ処理を試すこと。また、ノートに計算をまとめること。 統計学の参考書などを参考に、講義の内容を再確認しておくこと。		
評価方法（割合）		適宜実施の小テスト（20%） 期末テスト（70%） トピックスに関するレポート（10%）		
評価基準				
秀	小テストも含めて設問に適切に解答できている。			
優	良好な解答ができている。			
良	テストでは理解度が不十分な箇所がややあるが、レポート等は良好である。			
可	理解度が不十分な箇所があるが、最低限の水準は達成している。			
不可	設問に答えていない。			
放棄	出席回数が10回に満たない。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストで理解度を確認し、次回の講義で理解が不十分な箇所などを説明する。			
テキスト	【書名】データサイエンス入門 【著者】竹村彰通 【出版社】岩波書店 【出版年】2018年 【ISBNコード】978-4004317135			
参考書・参考資料等	浅野晃著 挫折しない統計学入門（オーム社）			
卒業認定・学位授与方針との関連				
◎特に関係性が深い、○関係性が深い				
地域経営学部				
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>			
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財				
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財				
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財				
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財				
情報学部				
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	<input checked="" type="radio"/>			
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる				
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる				
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	<input checked="" type="radio"/>			
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる				
メッセージ	文系理系を問わずデータからその背後にある事柄を知ることは重要です。その基礎を学び、データを通して皆さんの地域や社会を考えるようにしていきましょう。			
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。			
担当教員の実務経験	-			
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。			

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	数学応用	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
(◎ 神谷 達夫

授業概要	この科目は、数学の知識を地域経営学に応用できるようにすることを目指している。この科目では主に多変量解析の分野を取り扱う。重回帰分析や主成分分析、因子分析、分散分析、クラスター分析、ロジスティック回帰分析、サポートベクターマシンの基礎を学び、コンピュータ上で計算方法を学ぶ。なお、講義の進捗状況により、重回帰分析以降の内容が変更される場合がある。
到達目標	それぞれの手法の意味と計算方法を理解する。

回	授業内容
第1回	重回帰分析の基礎 重回帰分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第2回	重回帰式の求め方 重回帰式の求め方を学ぶ。簡単な重回帰式を求める計算を体験した後、コンピュータ上で重回帰式を求め、実用的な重回帰分析の方法を理解する。
第3回	重回帰式の評価 求めた重回帰式が妥当であるか検討する方法を学ぶ。分散分析と寄与率から、求められた重回帰式が妥当であるかどうかを検討する。
第4回	主成分分析の基礎 主成分分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第5回	主成分分析の方法 主成分分析の方法を学び、コンピュータ上で計算方法を理解する。
第6回	因子分析の基礎 因子分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第7回	因子分析の方法 因子分析の方法を学び、コンピュータ上で計算方法を理解する。主因子法、パリマックス回転の計算も体験する。
第8回	分散分析の基礎 分散分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第9回	分散分析の方法 分散分析の方法を学び、コンピュータ上で計算方法を理解する。
第10回	クラスター分析の基礎 クラスター分析とは何かを学び、その意味を理解する。
第11回	クラスター分析の基礎 クラスター分析の方法を学び、コンピュータ上で計算方法を理解する。コンピュータを使い、デンドログラムを作成する。
第12回	ロジスティック回帰分析 ロジスティック回帰分析の基礎を学び、その意味を理解する。
第13回	ロジスティック回帰分析の応用 ロジスティック回帰分析によるカテゴリ予測を体験し、コンピュータ上で分析できるようになる。
第14回	サポートベクターマシン サポートベクターマシンとは何かを学び、計算の実例を見ることによりサポートベクターマシンの意味を理解する。
第15回	まとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>毎回の授業前に行うべき予習) 講義の内容が高度であるため、必ず授業時間外に学習する必要がある。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） ほぼ毎回、レポートの課題を出すため、レポートを書くことが必要である。レポートの内容が、復習の内容となっている。</p> <p>（その他） コンピュータ上で計算できるように自分専用のパーソナルコンピュータを用意することが望ましい。また、その用意したパーソナルコンピュータには、表計算ソフトウェア(Excelでよい)とソルバーが動作するように設定されていることが望ましい。</p>
評価方法（割合）	期末試験 80% 課題の提出 20%
評価基準	
秀	必要なキーワードを過不足なく用いて、論理的に客観的な説明ができ、かつ、問題点を的確に指摘できている。
優	キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができ、かつ、問題点を理解している。
良	おおよその説明はできており、かつ、問題点を理解している。
可	しくみや問題点の説明において、最低限の水準を満たしている。
不可	しくみや問題点が説明できていない。
放棄	レポートを提出していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ほぼ毎回、レポート課題を出します。解答は、授業内で説明します。また、個別の質問にも応じます。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	多変量解析がわかる（ファーストブック），技術評論社，2011
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	これまでの数学や統計学の授業を十分に理解した上で履修登録してください。また、表計算ソフトの基礎を理解してからの履修であることを強く勧めます。
教員との連絡方法	研究室前に掲示したMail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	各種社会調査に参加。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	情報学入門	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修生・聴講生	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 山田 篤

授業概要	現代社会ではあらゆる場面で情報技術が活用されており、人々は日常的に情報機器を使用するようになっている。本講義では、一般教養として情報の基本的な取扱いと、コンピュータを中心とした情報処理技術について学び、それらが社会においてどのように使われているかについて考える。情報に関する分野は日々変化しているが、基本的な概念や仕組みを理解することで、今後の様々な変化にも対応できる力を身につける。このため、本講義では情報の表現と伝達、計算の方法、コンピュータの基本的な仕組み、情報と人間および社会との関係について取り扱う。
到達目標	情報に関する基礎的な概念を理解することにより、高度情報化社会で生きていくために必要な力を身につけることを目指して、以下の3点を到達目標とする。 (1) 情報の基本的な取扱いについて理解し、説明ができる。 (2) コンピュータの仕組みについて理解し、説明ができる。 (3) 情報技術と人間・社会の関係について説明ができる。

授業計画	
回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	情報システム
第3回	情報の表現
第4回	情報の伝達と情報量
第5回	情報の伝達と通信
第6回	計算の方法
第7回	計算の理論
第8回	データの扱い
第9回	コンピュータの仕組み
第10回	実際のコンピュータ
第11回	ユーザインターフェース
第12回	インタフェースデザイン
第13回	情報技術と社会
第14回	最近の話題

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	毎回の授業前に、各回の授業内容に対応する教科書の範囲を予め読み下しあげ、分からぬ点、疑問に思う点を書き出し、授業中に質問ができるよう準備しておくこと。 毎回の授業後に、対応する教科書の範囲をもう一度読み直し、確認すること。解決していない点については、仲間どうしで話し合ったり、オフィスアワーを使って質問すること。 授業で取り上げた内容が、自分の身の回りでどのように使われているかについて考えてみる。
評価方法（割合）	授業内課題：20% 期末試験：80%

## 評価基準

秀	講義で扱った情報に関する内容について理解し、自分の言葉で説明ができる。
優	講義で扱った情報に関する内容について理解し、一般的な説明ができる。
良	講義で扱った情報に関する内容についておおよそ理解し、大まかな説明ができる。
可	講義で扱った情報に関する内容について一部理解し、最低限の説明ができる。
不可	講義で扱った情報に関する内容について理解しておらず、説明ができない。
放棄	講義に3分の2以上出席という要件を満たしていない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業時間内の課題については次の授業の冒頭でポイントと考え方を説明する。
テキスト	【書名】情報 第2版 【著者】山口和紀編 【出版社】東京大学出版会 【出版年】2017 【ISBNコード】

## 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	

メッセージ	情報社会で生きるために必要な知識として、文系でも情報に関する基礎的知識は欠かせません。 基礎的な考える力を身につけて、世の中の変化に対応できるようになります。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。電子メールによる連絡もしくは在室時に直接面談。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	インターネット	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	科目等履修	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 河合 宏紀

授業概要	インターネットはもはや日常的なものになっている。しかし、一口にインターネットといっても実はいろいろな意味をもち、またインターネットで提供されるサービスも電子メール、Web(ホームページ)、FTP(ファイル転送)など多岐におよぶ。本講義では、このインターネットの基本的なアーキテクチャ概要を踏まえ、Webをはじめとするユーザーに最も近いアプリケーション層の代表的なサービスに関連する技術を学ぶ。
到達目標	本講義で、インターネットのアーキテクチャの概要や提供されるサービスの技術を深く理解したことを確認するため、以下の2点を到達目標にする。 (1) インターネットおよびネットワークのアーキテクチャ概要について説明できる。 (2) Webや電子メールなどのインターネットのサービスに関連する技術について説明できる。

授業計画	
回	授業内容
第1回	インターネットのさまざまなサービス
第2回	インターネットの標準プロトコル
第3回	Webの技術
第4回	Webを実現するネットワーク技術
第5回	HTTPの仕組み
第6回	HTTPSの仕組み
第7回	Webのデータ形式
第8回	スクリプト言語
第9回	音声・動画配信
第10回	Webのセキュリティ
第11回	電子メール送受信の仕組み
第12回	電子メールのデータ形式
第13回	FTPとTelnet/SSH
第14回	無線LAN
第15回	ネットワークインフラストラクチャ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） テキストを読んでおくこと。 関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしておくこと。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 授業で講じた範囲をもう一度読んでおくこと。 授業で学んだ内容に関して関連情報を調べ、人とのディスカッションも交えて自分なりに考察しておくこと。</p>
評価方法（割合）	期末試験（70%） レポート課題（30%）

#### 評価基準

秀	期末試験やレポート課題の設問に完全かつ適切に答えている。
優	期末試験やレポート課題の設問にほぼ適切に答えている。
良	期末試験やレポート課題の設問に答えていない箇所がある。
可	期末試験やレポート課題の設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	期末試験やレポート課題の設問にほとんど答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストやレポートを踏まえて学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項については次回の授業中に説明する。
テキスト	【書名】Web技術の基本 【著者】小林恭平 坂本陽 【出版社】SBクリエイティブ 【出版年】2017 【ISBNコード】978-4797388817
参考書・参考資料等	参考書や参考資料等は適宜講義で提示する。

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

##### ◎特に関係性が深い、○関係性が深い

情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	◎
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	○
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	

メッセージ	Webや電子メールなどの非常に身近な技術を学べるので、本講義に是非とも関心を持ってもらいたい。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、手段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	サービスエンジニアリング	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 山本 吉伸

授業概要	サービスによる価値や顧客満足度を高めるとともにコスト低減により付加価値を高めるサービスエンジニアリングについて学ぶ。サービス産業の特性に基づく観測、分析、設計、適用の技術について理解する。
到達目標	多様なサービスビジネスの実務を俯瞰しつつ、具体的な事例を学ぶことで(1)任意のサービスビジネスの現状分析の手法を利用できるようになることと、(2)分析した結果から改善案について議論できるようになることを目標とする。

回	授業内容
第1回	サービスを理解する（1）：サービスとは何か、サービスの起源と発展の歴史
第2回	サービスを理解する（2）：サービスの分類と分解
第3回	サービス現場を知る（1）調査技術概説
第4回	サービス現場を知る（2）顧客・観光客・従業員
第5回	サービス現場を知る（3）Web・オープンデータの役割
第6回	サービスを改善する（1）分析技術概説
第7回	サービスを改善する（2）空間と時間の計画、動線とスケジュール
第8回	サービスを改善する（3）待ち時間の短縮
第9回	サービスを改善する（4）行動変容（ゲーミフィケーション・スタンプラリー）
第10回	ミニプロジェクト（1）：可視化
第11回	ミニプロジェクト（2）：課題抽出
第12回	ミニプロジェクト（3）：改善提案
第13回	サービス生産性向上技術：サービス工学、製造業のサービス化
第14回	サービスの標準化と社会政策
第15回	授業まとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 必要に応じて授業前に予習しておくべきキーワードを提示しますので、各自で資料を探して調べておいてください。
--------------------------	---

	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 授業中にでてきた、用語・概念の整理をしておいてください。
評価方法（割合）	ミニプロジェクト（50点） 期末試験（50点） 合計100点（100 %）
評価基準	
秀	ミニプロジェクト・期末試験ともに優秀であった。
優	期末試験が適切で、ミニプロジェクトが優秀であった。
良	概ね適切であった。
可	不備があるものの、最低限の水準は満たす。
不可	不備が多く、最低限の水準を満たしていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ミニプロジェクトについては授業内で講評を行う。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	なし
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	○
情報学の知識や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	◎
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
メッセージ	勘と経験に頼っていることが多いサービスビジネスをどのように情報技術で改善するのか、お伝えします。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	データ理解	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 崔 童殷

授業概要	数値などの形で獲得されたデータを画像・グラフ・図・表などに変化させ、データに含まれている現象・事象・関係性を「見える」ようにする（可視化する）ことによって、データに内在する情報を理解し、価値を高めるための手法を学ぶ。シンプルで分かりやすく、意思決定しやすくするために、「データに含まれる事実・示唆を効率よく発見する技術」、「データから発見した事実・示唆を明確に伝える技術」はビックデータ時代に欠かせないテクノロジーであるといえる。本授業では、様々な可視化ツールを用いて統計データをより分かりやすく「情報の可視化」することで、「データを理解」する方法を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ可視化の概念や可視化ツールや可視化の手順が理解できる。</li> <li>収集したデータを効率的に把握できる。</li> <li>可視化ツールを使った基礎統計データ分析ができ、可視化結果から価値のある情報や傾向を見つけることができる。</li> <li>データに含まれた情報を適切に理解できるようにし、わかりやすく人に伝えることができる。</li> </ul>

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、データ理解の必要性、情報可視化の定義・歴史・展開
第2回	データ理解のための可視化の重要性（良い可視化とは何か？どのようなデータを可視化・見える化するか？）
第3回	データ構造と情報可視化手法
第4回	データ理解のためのデータ可視化の基礎とデータを可視化の具体例としてのグラフ可視化
第5回	手法① 棒グラフ、積み上げ、ファンネルグラフで量の違いを示す
第6回	手法② ヒストグラムで分布を把握する
第7回	手法③ 箱ひげ図で3つ以上の分布を比較する
第8回	手法④ 散布図と散布図行列で変数の関係を可視化する
第9回	手法⑤ 折線グラフ、面グラフで変化を示す
第10回	手法⑥ 円グラフ/ドーナツグラフで割合を示す
第11回	手法⑦ ヒートマップ、色つきテーブル(カラードテーブル/ヒートマップ)で頻度を示す
第12回	手法⑧ バブルチャート、パラレルチャート/レーダーチャートを使った比較で説得する
第13回	ビッグデータと情報可視化によるデータ理解
第14回	機械学習と情報可視化によるデータ理解

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） テキストを読んでおくこと。 関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてください。 （毎回の授業終了後に行うべき復習） 授業で講じたテキストの範囲をもう一度読みしておくこと。 授業で学んだことや考えたことに関する関連資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにしてください。 （その他） 自分の身の回りにある多くの情報データについて授業で学んだ内容を応用できるようにしてください。</p>
評価方法（割合）	<p>適宜「理解度試験」を実施（計20点） 期末に試験を実施（80点） 合計100点（100%）</p>
評価基準	
秀	設問に適切に答えている。
優	設問に答えている。
良	設問に答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	「理解度試験」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	<p>【書名】意思決定を助ける 情報可視化技術—ビッグデータ・機械学習・VR/ARへの応用  【著者】伊藤 貴之  【出版社】コロナ社  【出版年】2018  【ISBNコード】978-4339028836</p>
参考書・参考資料等	<p>ビューティフルビジュアライゼーション（オンラインジャパン出版（2011/10/26）  ビジュアライジング・データ—Processingによる情報視覚化手法（オンラインジャパン出版（2008/12/1））</p>
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	◎
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	○
メッセージ	この授業を受講することで、数値に含まれている情報の価値を理解しさらにわかりやすく見出すことができ、色々な分野に応用できるようになれたうれしい。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	計算機アーキテクチャ	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 岌中 理英

授業概要	情報学の基本ツールであるコンピュータがどのように動作するかを理解することは重要である。本講義では、計算機の構成と動作原理について概説するために、身近にあるPC（パーソナルコンピュータ）を代表とする計算機を起点として順に詳細化しつつ、その構成の詳細を見てゆく。具体的には、計算機の構成要素である機構を概観し、各機構の構成、記憶装置とCPUの構成、そして最も基礎的な演算装置の構成に至る。本講義は計算機の構成の概念的理解を主目的としているため、演算装置がどのように動作するかの理論的背景や実現手法・計算機上でソフトウェアがどのように動作するか・様々な計算機については後続の科目に引き継ぐ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計算機の基本構成について説明できる。</li> <li>2. 記憶装置、入出力システムの概要について説明できる。</li> <li>3. CPUの基本構成を理解し、説明できる。</li> <li>4. 演算装置からPCまでの関係性を順を追って説明できる。</li> </ol>

授業計画	
回	授業内容
第1回	導入：計算機とは
第2回	計算機を概観する：その構成要素
第3回	計算機の構成要素（1）：CPU
第4回	計算機の構成要素（2）：メモリ（主記憶・二次記憶）
第5回	計算機の構成要素（3）：入出力装置
第6回	CPUを概観する（1）：CPUの構成（バスアーキテクチャ）
第7回	CPUを概観する（2）：CPUの動作（ストアドプログラム方式）
第8回	CPUの構成要素（1）：ALU（演算装置）
第9回	CPUの構成要素（2）：マイクロプログラム・クロック周波数
第10回	CPUの構成要素（3）：キャッシュメモリとレジスタ
第11回	CPUの構成要素（4）：パイプライン制御の概要
第12回	演算装置（1）：電気信号で計算するということ
第13回	演算装置（2）：データ表現
第14回	演算装置（3）：加算器と論理回路
第15回	まとめ：演算装置からPCまで、動作の様子を追いかける

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 関連情報を調べてきてください。  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で配布したレジュメにもう一度目を通してください。
評価方法（割合）	理解度テスト（30%） 期末テスト（70%）
評価基準	
秀	設問に適切に答えている。
優	設問に答えている。
良	設問に答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	「理解度テスト」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	特になし。毎講義でレジュメを配布する。
参考書・参考資料等	講義で配布するレジュメで指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	◎
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
メッセージ	
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	人工知能	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 西田 豊明

授業概要	身のまわりにある人工知能(AI)から出発して、AIがどのように発展し、現在どこまで到達したか、将来どのような方向に進んでいくか、倫理的側面まで視野に入れて講述する。まず、ゲームAIと会話AIを取り上げて、その内部に立ち入ってどのような仕組みになっているか、その背後にどのような考え方(フィロソフィー)があるか理解する。AI研究の長い歴史の中でつくられてきたその他のAIについても触れる。次に、AIの基本手法として、①問題の直接的な解き方を知らないても適用可能な弱い手法、②曖昧性や漠然性も加味した知識の表現と利用の手法、③問題解決の経験にもとづいて自分の問題解決能力を自力で向上する機械学習の手法を学ぶ。最後に、深層学習を中心とするAIの先端的な技術がどのようなテクニックが用いられているかも学んだあと、AIで参考とする人と動物の知能についても学ぶ。
到達目標	次の4つの目標を達成すること。 (1) 人工知能(AI)の基本概念と手法を理解し、歴史的な発展の経過を説明できること。 (2) AIの主要概念と手法をきちんと説明できること。 (3) AIの先進的な手法を例題を用いて説明できること。 (4) AIを構成する概念と手法を体系的に説明できる。

回	授業内容
第1回	身のまわりにあるAI、AIの発展の歴史、現在の技術開発動向、AI倫理はどのようなものか？
第2回	アルファ基がアルファ基ゼロになり、アルファゼロに進化する過程を調べてみよう！
第3回	ゲームAIで使われているテクニック—ゲームAIはどのようなテクニックで作り出すのか？
第4回	ゲームAIの背後にあるフィロソフィー—テクニックの奥にあるものは？
第5回	会話AIの解剖—会話AIはどのような仕組みで動くのか？
第6回	まだまだあるAIの技術—このほかにどんなAIがあるのか？AIの周辺領域は？AIを支えるツールは？
第7回	弱い手法—AIに解の探し方を教えて問題を解く！
第8回	知識の表現と利用—知っていることをコンピュータ内でどう表現するか？
第9回	不確実性の扱い—いつも同じ結果になるとは限らない、さて？
第10回	機械学習—どのような仕組みでコンピュータはデータから学び自らを賢くできるか？
第11回	ニューラルネット学習—人間の脳に似た仕組みを使って学習する！
第12回	深層学習—最新の学習理論はどこまで来ているか？どのようなテクニックやしきけが用いられているのか？

第13回	人の知能—ヒトの知能はどこまで理解されているのか?AIに反映するにはどうするのか?
第14回	動物の知能—動物の知能はどうなっているのか?AIに取り込むにはどのようなアプローチがあるのか?
第15回	まとめとフィードバック

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 授業で学ぶ内容のイメージ作りと疑問点の整理
	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 授業で学んだ基本概念と手法を、典型的な例題に基づいてその本質を説明できるレベルまで整理しておく。

評価方法（割合）	レポートによる調査報告（60%） 期末試験による総合力評価（40%）
----------	---------------------------------------

評価基準	
------	--

秀	AIを構成する概念と手法を体系的に説明できる。
優	AIの先進的な手法を例をあげて説明できる。
良	AIの主要概念と手法をきちんと説明できる。
可	AIの知識を有し基本概念と手法を説明できる。
不可	上記に達していない。
放棄	出席回数が10回に満たない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	原則として講義時間中あるいは講義終了後に総評を示す。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	講義資料は授業中配付する。参考書は適宜指示する。

卒業認定・学位授与方針との関連	
-----------------	--

◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	◎

メッセージ	生活を豊かにする人工知能がどのような原理で動作するか。
教員との連絡方法	随時。ただし、メールなどによる事前アポイントをとることが望ましい。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	エンタテインメント情報学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 倉本 到

授業概要	<p>計算機技術が発展し、人の能力や作業を支えるのみならず、人の気持ちや想いに作用し、我々の生活と心を豊かにする能力を有するようになっていく。エンタテインメント情報学は、ゲームや映像・音楽に限らず、人々を楽しませ、心を豊かにするエンタテインメントの情報科学・情報工学による幅広いアプローチを研究対象としている。</p> <p>本講義では、情報科学・情報工学を活用したエンタテインメントの現状と実際にについて、技術と考え方の両側面から様々な事例に基づいて学ぶ。また、エンタテインメントの応用や評価について最先端の研究を引きつつ解説する。授業形式は主としては座学であるが、それだけではなく、可能な限り実際の体験ができる環境を整え、体験から発生するエンタテインメントの価値や効果についての理解を深める。</p>
到達目標	<p>(1) エンタテインメントを実現する情報技術について理解する。  (2) エンタテインメントを成立させる心の動きをどうとらえるかの考え方について理解する。  (3) エンタテインメントの応用や先端事例を理解する。  (4) エンタテインメントの評価法とその困難さを理解する。  そして、上記の理解を実際のエンタテインメントコンテンツ実現のさいに適切に応用することができる。</p>

回	授業内容
第1回	ガイダンス・エンタテインメント情報学の歴史
第2回	技術（1）：人工現実感とエンタテインメント
第3回	技術（2）：人工知能とエンタテインメント～ゲーム情報学～
第4回	考え方（1）：遊びとエンタテインメント～カイヨワ・ホイジンガ～
第5回	考え方（2）：フロー理論とエンタテインメント～テクセントミハイ・コスター～
第6回	考え方（3）：ゲーム理論とエンタテインメント
第7回	技術（3）：コミュニケーションメディアとエンタテインメント
第8回	技術（4）：インタラクションとエンタテインメント
第9回	応用（1）：音楽・メディアアート
第10回	応用（2）：ゲーミフィケーション
第11回	応用（3）：シリアルゲーム・エデュテインメント
第12回	評価（1）：「楽しい」とは何か～心理学的評価～

第13回	評価（2）：心を動かす機構の評価～Qualification～
第14回	展開（1）：エンタテインメント情報学の最新動向・研究事例紹介
第15回	展開（2）：エンタテインメント情報学の今後／本科目の総括

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 事前にWebサイト経由で配付される資料には目を通しておくこと。疑問点があれば事前でもよいので質問・検索などで解消しておくことが望ましい。  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義終了後できるだけ早いうちにミニレポートに回答すること。ミニレポートは当該回の講義内容に応じて出題されるので、復習のためにも疑問や不明な点を質問・検索などで解消してから回答すること。  (その他) エンタテインメントに関する科目といって、ただただ面白がるだけでは単位は認定されないことに十分留意すること。
評価方法（割合）	講義毎のミニレポート (10%) 中間レポート (30%) 期末試験 (60%)

#### 評価基準

秀	課題に関する現状とその問題等を自力で調査し、それを吟味して独自の観点を導き、適切に論じている。
優	課題に関する現状とその問題点等を加味して論じている。
良	課題に対して、自己調査は含まないが適切に論じている。
可	課題に対する回答のみを記述している。
不可	設問に答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。 期末試験未受験者は単位放棄とみなす。出席・遅刻は一切成績に加味しないが、レポートの提出遅れはその度合いに応じて減点する。また、やむを得ない事情がある場合を除き、再試験や追加レポートなどは課さない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ミニレポートは次回講義にて特徴的な内容のものを取り上げつつ解説を行う。中間レポートについても同様である。期末試験は試験終了後に模範解答を提示し、希望者には採点結果を開示する。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	講義資料・参考文献は講義初回に示すWebサイトにて提示する。

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

##### ◎特に関係性が深い、○関係性が深い

情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	◎

メッセージ	エンタテインメントが大学教育に足る高度な背景と技術をもちいていることを理解できる科目です。特にエンタテインメントを「作る」ことに興味がある人は必聴。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設ける。面談希望者は教員居室前に掲示した連絡先へ連絡して面談予約を取ること。電子メール・SNSでの連絡は随時対応。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中の私語は慎むこと（疑問質問は歓迎、ひそひそ隣に聞かずに教員まで）。常識的な範囲で飲料の持ち込み可。携帯端末等は自己の責任において利用すること。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	哲学	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 倉田 良樹

授業概要	現代哲学の標準的なテキストを読みながら、「知識」、「言語」、「行為」という三つの中心問題について、自分の力で考えられるようになってもらうことを目指します。哲学という学問の特質は「当たり前」のなかに「不思議」を見出し、不思議に思われた謎に対して、妥協することなく、理屈っぽく考え方とするところにあります。この授業を通じて、こうした力を身につけ、社会と人間に關する様々な難問の謎解きが出来るようになって貰えればと思います。各回の授業では、現代社会の具体的なトピック（環境問題、生命倫理問題、人工知能と人間の労働など）にも言及し、哲学を実践的な問題に応用することにもチャレンジして貢います。
到達目標	(1) 現代哲学の中心問題である「知識」、「言語」、「行為」に関して、常識にとらわれることなく、厳密に考えられなければならない不思議な謎が含まれていることを理解する。 (2) 現代哲学の中心問題について、妥協することなくとことん考えることで、厳密な思考力を鍛える。(3) 常識的なモノの見方を疑うことに喜びを覚えるようになる。 (4) 現代社会の諸問題を正しく理解するうえで、現代哲学の発想が有効であることに気がつく。

回	授業内容
第1回	知識はどこに宿るのか（オリエンテーションをかねて）
第2回	ア・ブリオリとア・ポステリオイ：知識の二つのあり方
第3回	知識・経験・実在
第4回	知識論の死：外在主義・知識論の自然化
第5回	中間テスト①
第6回	中間テストに関する講評・補足説明・質疑応答
第7回	言語論的転回1：何故言葉が重要か
第8回	言語論的転回2：フッサール、ソシュール
第9回	知識と言語
第10回	中間テスト②
第11回	中間テストに関する講評・補足説明・質疑応答
第12回	行為と言語
第13回	心身問題

第14回	行為をどのようなものとしてとらえるか
第15回	意図の問題：半因果説と因果節
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	（予習）テキストの該当箇所（各回10頁から20頁程度）をきちんと読んでおいて下さい。各回の分量は少ないですが、初学者が一読してすぐに分かるような内容ではありません。何度も読み返して下さい。 （後習）授業で配布するハンドアウトを読み返した上で、もう一度テキストを読み込んで下さい。
評価方法（割合）	中間テストを二回実施します（30点×2=60点）。学期末試験を行います（40点）。授業中の的確な質問を行うなど、積極的な貢献がある場合は加点します。
評価基準	
秀	現代哲学の中心問題を正しく理解し、応用問題に対しても哲学的な思考を展開している。
優	現代哲学の中心問題を理解し、応用問題に対しても取り組むことが出来る。
良	現代哲学の中心問題を最低限、理解できている。
可	現代哲学の中心問題への理解は不充分だが、設問の題意は理解できている。
不可	現代哲学の中心問題を理解できておらず、設問の題意を取り違えている。
放棄	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	中間テストを行うごとに講評の時間を設ける。学生の理解が不充分と思われる点について、補足説明を行う。中間テストの答案を材料として用い、個々の学生を指名して内容確認するなど、対話する時間を設ける。
テキスト	【書名】現代哲学 【著者】門脇俊介 【出版社】産業図書 【出版年】1996年 【ISBNコード】978-4-7828-0203-8
参考書・参考資料等	授業全体の参考文献は野家啓一「現代哲学キーワード」有斐閣2016年です。各回の授業に関連する参考文献は配布するハンドアウトのなかで示します。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができの人財	<input type="radio"/>
メッセージ	哲学というと太古の昔から賢人達が蓄積してきた深淵で難解な学問、という近寄りがたいイメージがあるかも知れません。この授業で取り上げる現代哲学は決して近寄りがたいものではありません。「当たり前」のなかに「不思議」を見出すことと、理屈っぽく考えることに挑戦して貰いますが、現代哲学は決して浮き世離れした屁理屈を弄ぶようなものではありません。むしろ現実との接点を重視する学問です。
教員との連絡方法	4月から赴任する予定の新任教員です。研究室の場所などは、開講までに確定しますので、開講時にお知らせします。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	環境学	
講義開講時期	前期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 倉田 良樹

授業概要	人間の生活を取り巻く自然・地域・地球環境の密接な関係を明らかにし、人間と自然・環境との共生の必要性を学ぶ。講義で具体的に取り扱う内容は、地球温暖化・酸性雨・オゾン層の破壊等の地球環境問題、公害・環境汚染問題、ごみ・水問題、企業の環境経営、環境教育等に及ぶ。地球環境問題が自然科学的な事実発見で完結する問題ではなく、人文科学や社会科学の知見も活用して取り組まなければならない人間の生活に関わる問題であることに気づいてもらうことを目指す。
到達目標	(1) テキストに基づいて、地球環境問題の現状について正しく理解する。 (2) 地球環境問題に対して人文科学や社会科学の知見を活用することができるようになる。

授業計画	
回	授業内容
第1回	地球環境問題、何がどう問題?
第2回	公害と環境汚染
第3回	地球温暖化の科学と政治①
第4回	地球温暖化の科学と政治②
第5回	酸性化する大気と海洋
第6回	石油は40年でなくなるのか?
第7回	オゾン層破壊がもたらすこと
第8回	中間テスト
第9回	中間テストの講評
第10回	生態系の危機
第11回	あふれるゴミ
第12回	水の危機の時代
第13回	企業と環境経営①
第14回	企業と環境経営②
第15回	環境経営の目指すもの

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(予習) (1) 事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと（1時間程度） (2) 現在進行形で起こっている地球環境問題の出来事について、マスコミの報道などを読んでおくこと (復習) (1) 授業終了後、テキストや配布物を再読すること（1時間程度） (2) 地球環境問題について自分の言葉で語れるよう、周囲の人々と議論すること
評価方法（割合）	中間テスト50点、期末テスト50点で、合計100点満点で評価する。
評価基準	
秀	設問に適切に答えている
優	設問に答えている
良	設問に答えていない箇所がある
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす
不可	設問に答えていない
放棄	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	中間テストの講評を行う。
テキスト	【書名】新版・地球環境の教科書 10講 【著者】九里徳泰・左巻健男・平山明彦（編著） 【出版社】東京書籍 【出版年】2014年 【ISBNコード】978-4-487-80831-1
参考書・参考資料等	J. ロックストローム、M. クルム「小さな地球の大きな世界：プラネタリーバウンダリーと持続可能な開発」丸善出版、2018年。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input checked="" type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>
メッセージ	地球環境問題は人と自然の相互作用に関わる問題です。だから文系・理系の垣根を越えて取り組んでいかなければなりません。担当者は人文・社会科学畑の人間ですが、できる限り自然科学の知見も含めた、学際的な視点で講義を行っていきたいと思っています。
教員との連絡方法	4月から赴任する予定の新任教員です。研究室の場所などは、開講までに確定しますので、開講時にお知らせします。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地理学	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 松本 学博

授業概要	地理学とは地球の表面に広がるありとあらゆる事象を、環境・地域・空間などの概念に基づき互いの関係性を見極めながら解き明かしていく学問である。本授業では地域社会のあらゆる事象と資源を地域づくりに活かしていくことを観点とし、地理学を学んでいく。講義では歴史、文化、景観、都市計画、地形、河川、交通等について講じ、地理的な見方や考え方を育む。
到達目標	1 様々な地域の歴史、文化、景観、都市計画、地形、河川、交通等を総合的に捉え、地理学的に説明できるようにする。 2 地域のニーズを把握し地域づくりについて感性やまなざしを獲得する。

授業計画	
回	授業内容
第1回	ガイダンス及び地理学を学ぶ意義
第2回	京都府北部の地形
第3回	京都府北部の歴史
第4回	京都府北部の景観
第5回	京都府北部の文化
第6回	京都府北部の交通
第7回	京都府北部の都市計画
第8回	福知山の地形
第9回	福知山の歴史(1)
第10回	福知山の歴史(2)
第11回	福知山の景観
第12回	福知山の文化
第13回	福知山の交通
第14回	福知山の都市計画
第15回	まとめ 地理学と地域づくり
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	

	(毎回の授業前に行うべき予習) 関連資料を読んだり、関連情報を調べること。
	(毎回の授業終了後に使うべき復習) 授業で講じたレジュメ等を参考にしながら講義内容をまとめること。
	(その他) 日常生活の中でも地理学的な視点から地域づくりを考えること。
評価方法（割合）	毎回提出カード記載内容(15%) 中間レポート(35%) 最終レポート(50%)

評価基準

秀	地域における事象を地理学的な視点でキーワードを用いて論理的に客観的な説明ができ、かつ課題を的確に指摘できている。
優	地域における事象を地理学的な視点でキーワードを用いて論理的に客観的な説明ができ、かつ課題を理解している。
良	地域における事象を地理学的な視点で説明ができ、かつ課題を理解している。
可	地域における事象を地理学的な視点で説明ができ、最低限の理解ができている。
不可	上記の基準に達していない。
放棄	講義に3分の2以上は出席していない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中に与えた課題について提出したレポートを踏まえ、学生の理解度を確認する。
テキスト	講義に際し、レジュメを配布する。
参考書・参考資料等	講義で配布するレジュメで指示する。

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	

メッセージ	この授業を受講することで地理学を通した観点から、地域づくりを考えるきっかけとなって欲しい。
教員との連絡方法	質問、疑問などがある場合は、授業終了後に回収する出席カードを質問用紙として利用するか、もしくは口頭にて受け付ける。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	論理学	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	あり(24名程度)	
授業公開	あり	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンパリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 佐藤 恵

授業概要	論理学は、SNSでのやりとりや、家族・友人・知人との会話だけですごせる人には不要な學問である。しかし、論理的に考えたい、論理的に話したい、そして論理的な文章を書きたいと考えるならば、論理学はがぜん學修すべき學問となる。 論理学は、學問の基礎を成す學問であり、それゆえリベラルアーツの1つとも位置付けられる。その歴史は古く、いくつかの専門分野に分かれている。本講義は、學問としての論理学の學修を目的とはしない。むしろ、基本的な知識と技法の説明にとどめ、それら基盤となる考え方を理解した上で、命題、論証、推論などのテーマに合せた文章作成を通じ、日本語で論理的に考え、それを正しく書く技術を学ぶ機会を提供する。併せて、模擬ディベートの実習を行って、他人との議論の作法を学修する。
到達目標	論理学の基礎的な知識を習得し、応用できる。論理学的な思考ができる、それを文章化できる。また、議論の実習を通じて、他の意見を的確に理解して分析し、かつ自らの意見を正しく伝達する力を身につける。

授業計画	
回	授業内容
第1回	前半の講義の進め方の説明とグループ分け
第2回	論理学とは何か
第3回	命題とは何か
第4回	記号論理学-真理値
第5回	集合とは何か
第6回	集合と階層
第7回	後半の講義の進め方の説明とグループ分け
第8回	論理的に考える-推論
第9回	論理的に考える-推論の演習
第10回	論理的に考える-推論と検証
第11回	論理的に書く-文の構造
第12回	論理的に書く-文章の構造
第13回	論理的に議論する-方法
第14回	論理的に議論する-組み立て

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習)原則として毎回レポートを課す (毎回の授業終了後に行うべき復習)原則として毎回小テストを実施し、採点結果を返却するので、誤りについて再学習する
評価方法（割合）	每講義での発表 60( %) レポート 40( %)
評価基準	
秀	
優	
良	
可	
不可	
放棄	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポートは添削して、小テストは採点して返却する。
テキスト	適宜配布する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	グループワークを多用します。最後まで参加する強い意志の無い者は遠慮すること。 積極的な議論を楽しく交わします。
教員との連絡方法	メール : sato-megumi[at]fukuchiyama.ac.jp [at]を@に置換してください。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	法学概論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 桜沢 隆哉

授業概要	法・法律は、日常生活に大きなかかわりを持っています。この講義は、受講者が法学を専門としていない、あるいは法学を学んだことのない学生の皆さんであることを前提として、法学の基礎になる知識や技術、ものの考え方を身につけ、具体的にイメージをもってもらうことをその内容とする授業です。授業の進め方は次の通りです。最初に、法学を学び始める前に知っておくべき知識や、学ぶための方法・注意点などを示します。その後、代表的な法分野である民法、刑法それぞれの基本、そして前期の講義で扱った憲法と他の法律や社会との関係について、具体的事例を示しながら講義をしていきます。また、法の性質や社会で果たしている役割について、折々に説明を行い、皆さんのが社会とのつながりを意識できるような講義内容としていきたいと考えています。
到達目標	この講義は、皆さんのが持つ法・法律に対するイメージを補い、広げ、深めるために役立つものとしていくことを目標とします。具体的には、①法学の基本的な考え方や、代表的な法分野に基礎知識を身につけること、②授業内容について、自分の言葉で説明できるようになること、③社会に生じている／生じ得る様々な問題について、法が社会で果たす／果たすことのできる役割を理解し、社会と法とのつながりを理解できることを目指します。

回	授業内容
第1回	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。
第2回	法とはなにか、法と道德はどこが違うのか、法の目的（理念）はどういうことなのか、法の分類
第3回	民事法①—契約と法
第4回	民事法②—物の所有と法
第5回	民事法③—日常生活とアクシデント
第6回	民事法④—消費生活と法（食品の偽装・虚偽表示問題）
第7回	民事法⑤—消費生活と法（製造物の欠陥問題、製造物責任）
第8回	民事法⑥—消費生活と法（消費貸借、ローンに関する法的問題）
第9回	民事法⑦—家族関係と法（結婚、離婚、親子、扶養、相続）
第10回	雇用と法
第11回	飲酒運転の事例にみる民事責任と刑事责任
第12回	刑事法①—ストーカー殺人
第13回	刑事法②—薬物犯罪について

第14回	刑法③—冤罪について
第15回	全体のまとめと今後への展開

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習)
	毎回の授業において、その次の回で使用する新聞記事等の資料およびレジュメを配布しますので、次の回にどのような授業を行うのかなど、問題意識をもって授業に望んで下さい。
	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 資料等およびレジュメを読みながら授業の内容を振り返って、自分自身の考え方や問題点を把握するよう努めてください。

  

評価方法（割合）	(その他)
	期末試験 (60%)
	課題 (30%)

  

上記以外の平常点評価 (10%)
------------------

評価基準

秀	
優	
良	
可	
不可	
放棄	

テキスト	【書名】『法の世界へ〔第7版〕』
	【著者】 池田真朗ほか 【出版社】有斐閣 【出版年】2017年 【ISBNコード】

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>

教員との連絡方法	授業の前後における質問および緊急の場合等のメールアドレスは授業内でお知らせする。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	数学基礎I	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
(◎ 前田 一貴)

授業概要	<p>数学は現代社会のあらゆる分野で現象の分析・推測のための技術的な基盤となっており、経営学、情報学も例外ではない。現代ではコンピュータの発展に伴い大量のデータが日々生成されており、これらビッグデータの解析が経営学でも情報学でも大きな課題となっている。このような課題に取り組むためには、多変数関数の微積分法や線形代数学、統計学や確率論の知識が欠かせない。</p> <p>この講義では、数学基礎Iに統いて、大学での学びに必要となる基礎的な数学を、経済学を題材として学ぶ。具体的には、多変数関数の微分法、積分法、ベクトル、行列、確率を扱う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生として知っておくべき新たな数学の知識を理解し、具体的な問題に応用することができる。</li> <li>・大学での今後の学びの基礎となる数学的思考力、論理的思考力を身につけ、運用することができる。</li> </ul>

回	授業内容
第1回	多変数関数の導入
第2回	微分法(1)：偏微分法
第3回	微分法(2)：制約なし最適化
第4回	微分法(3)：制約付き最適化とラグランジュの未定乗数法
第5回	ベクトル：復習と一般化
第6回	行列(1)：定義
第7回	行列(2)：回帰分析と最小2乗法
第8回	行列(3)：逆行列
第9回	確率(1)：基本事項
第10回	確率(2)：ベイズの定理を用いた推定
第11回	確率(3)：期待効用理論によるリスクの評価
第12回	積分法(1)：定義
第13回	積分法(2)：微分積分学の基本定理と公式
第14回	積分法と確率論(1)：連続変数の確率論
第15回	積分法と確率論(2)：仮説検定の考え方

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 次回の内容の資料を配布するので、読んでおくこと（初回を除く）。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 授業で解いた演習問題を復習すること。</p> <p>（その他） 学んだことが身の周りでも活用できないか、考える習慣を身につけること。 現実に現れる問題は、授業で扱う演習問題とは違って、規模が大きくとても手で解けないものが多い。このような問題を解くための手段としてのコンピュータにも興味をもってほしい。</p>
評価方法（割合）	<p>授業中の演習課題 (30%)</p> <p>期末試験 (70%)</p>
評価基準	
秀	授業で扱った数学を具体的な問題に適用し、解決することができる。
優	授業で扱った数学と具体的な問題の関係を理解している。
良	授業で扱った数学の内容を理解している。
可	授業で扱った数学の内容をある程度は理解している。
不可	授業で扱った数学の内容を理解していない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中の演習課題により理解度を確認のうえ、次の授業でコメントし、授業内容に反映させる。
テキスト	資料を配付する。
参考書・参考資料等	尾山大輔、安田洋祐、改訂版 経済学で出る数学——高校数学からきちんと攻める、日本評論社、2013
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域経営学部	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
情報学部	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	<input checked="" type="radio"/>
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
メッセージ	数学基礎IIでは大学数学の内容も入ってきます。少し難しくなりますがいずれも大学では基礎的な事項です。できる限りの手助けをしますので、ぜひ習得してください。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。受講者の理解度に応じて各項目の時間配分は変更することがある。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	簿記論II	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンパリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 井上 直樹

授業概要	簿記は、企業等が行う様々な取引活動を効率的かつ体系的に記録し、ある時点での財政状態や一定期間の経営成績を明らかにするために必要とされるものである。本講義では、複式簿記についての基礎的な知識や技術を修得し、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学んでいく。本講義では、小規模株式会社を主な対象としているが、複式簿記にもとづく発生主義会計の考え方を理解することで、営利・非営利を問わず、各主体における会計上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、適切かつ的確な会計情報の収集・分析に必要とされる基礎的技能の学修を目指す。
到達目標	小規模株式会社を前提として、簿記論の前提となる貸借原理・帳簿組織の基礎知識を修得し、簿記一巡の流れを理解することができる。また、仕訳による基本的な個々の会計処理を修得し、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを理解し、業務に活用することができる。授業終了後、日商簿記検定3級程度の水準に到達することを目標とする。簿記の技術は自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、多くの問題を解く必要がある。

授業計画	
回	授業内容
第1回	ガイダンスと簿記論Iの復習
第2回	商品売買と現金
第3回	普通預金、定期預金、当座預金、当座借越と小口現金
第4回	手形と記録債権(債務)と貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金
第5回	その他の債権債務と費用
第6回	貸倒れ・貸倒引当金と有形固定資産・減価償却
第7回	株式の発行、余剰金の配当・処分、法人税等、消費税
第8回	費用・収益の前払い、前受けと未払いと訂正仕訳
第9回	帳簿への記入と試算表
第10回	伝票と仕訳日計表
第11回	精算表と財務諸表
第12回	帳簿の締め切り
第13回	総合問題演習と解説(1) : 前半の講義について

第14回	総合問題演習と解説(1)：後半の講義について
第15回	これまでの内容のまとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 毎回、授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。</p> <p>(その他) 授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。</p>
評価方法（割合）	期末試験(70%) 授業中の小テスト(30%)
評価基準	
秀	【秀：100点 - 90点】適切に簿記一巡の流れを把握し、日商簿記検定3級程度の基本用語や複式簿記の仕組みをほぼ完全に理解できている
優	【優：89点 - 80点】日商簿記検定3級程度の基本用語や複式簿記の仕組みをよく理解している。
良	【良：79点 - 70点】日商簿記検定3級程度の基本用語や複式簿記の仕組みを一応理解している。
可	【可：69点 - 60点】日商簿記検定3級程度の基本用語や複式簿記の仕組みの理解が、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	【不可：59点 - 0点】日商簿記検定3級程度の基本用語や複式簿記の仕組みを理解できていない。
放棄	【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次回の授業などで解説を行う。
テキスト	【書名】スッキリわかる日商簿記3級（第11版） 【著者】滝澤ななみ 【出版社】TAC出版 【出版年】2020年 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	必要に応じて、講義で配布するレジュメで指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	○
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	なるべく少人数の学生に対し、効果の高い授業を目指しています。 簿記論は必修科目ではないため、関心や意欲の無い者は履修しないでください。 履修者は、日商簿記検定3級合格を目指してください。  なお、入学後に日商簿記検定を受験し、合格した者については資格取得奨励制度を利用できます。 詳しくは事務局担当者へ問い合わせてください。
教員との連絡方法	私の大学のメールアドレス宛に連絡してください。面談希望者は、なるべく面談希望日時を事前にメールで連絡するようにしてください。
備考	

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	公共経営入門	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 藤島 光雄

授業概要	本授業においては、公共経営の基礎について学び、公共経営手法・マーケティングについての基本的な概念の学習を行い、ケーススタディを通して現実的な公共課題への適応、課題解決力を身につける。
到達目標	公共経営に関する基礎的な知識・スキルを体得することを到達目標とする。 公共経営の現状と課題について理解するとともに、具体的な解決策に必要な手法を身につける。 先進諸外国の公共経営の状況についての知識を習得する。

回	授業内容
第1回	ガイダンス（公共経営入門の授業計画・概要、成績評価等について）
第2回	公共とは何か（公共の概念）
第3回	公共経営学とは何か
第4回	公共経営の社会的背景とその変遷
第5回	政府の仕組みと役割
第6回	市民社会と自治体
第7回	ニューパブリックマネジメントとは
第8回	これまでの小括。中間試験を実施し、その模範解答例を提示し、解説を行う。
第9回	各種取組事例の検証（PPP、RFI等々）
第10回	行政管理と行政経営
第11回	パブリックガバナンス
第12回	新たな公共経営
第13回	新しい公共の担い手
第14回	企業の社会的責任（CSR）と持続可能性
第15回	これまでの授業の振り返りとまとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) ・事前に配布する資料及び参考資料等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。
--------------------------	---

	(毎回の授業終了後に行うべき復習) ・授業で配布された資料及び参考書等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理しておくこと。
評価方法（割合）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への貢献度・発表等 (25%)</li> <li>・中間試験 (25%)</li> <li>・期末試験 (50%)</li> </ul> <p>合計100点 (100%)</p>

#### 評価基準

秀	設問について十分な理解をしており、適切に答えている。
優	設問について理解し、概ね必要な答えをしている。
良	設問について、一部答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	定期試験を受験していない。

  

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	適宜、授業で好評等を行うほか、試験に関しては、模範答案例を示すとともに、採点基準等についても説明を行う。
テキスト	<p>【書名】『公共経営学入門』            【著者】枠永佳甫            【出版社】大阪大学出版会【出版年】2015年            【ISBNコード】</p>
参考書・参考資料等	<p>参考書            外山公美ほか『日本の公共経営』（北樹出版、2014年）</p>

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

##### ◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュースや新聞に目を通し、授業に関係する情報について、絶えずチェックしておくこと。</li> <li>・公務員を目指す学生には、積極的に参加して欲しい。</li> </ul>
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けているので、事前にメール等で予約すること。
担当教員の実務経験	行政、大学など多様な職場で働いてきた経験を持つ。また実際の自治体経営にも委員（指定管理者選定委員会委員等）として携わっている。 イギリスでのNPMの現状やフランスでの水道事業等の民間委託の状況等について、実際に海外研修・視察に行った経験を有する。その後の現状や課題など、先進国との現状と課題についても触れる予定である。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地域協働論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 杉岡 秀紀

授業概要	<p>地域を構成する主体は「産学公民金労言」とと言われるように、実に多様であり、それぞれが地域と深く関わっている。一方、近年地域、とりわけ地域公共を取り巻く環境は、「新しい公共」と呼ばれるように、ますます地域課題が多様化・高度化・複雑化・専門化・不確実化する中で、もはや単独の主体だけでは課題解決できない時代に突入している。</p> <p>そこで、本講義では、まず地域を構成するアクターやセクターごとにキーとなる概念について学んでいく。また、北近畿地域内外を問わず、第一線のゲストスピーカーの招聘による事例研究を通じ、現場の声にも触れていく。</p>
到達目標	<p>以下の知識・スキルを体得することを到達目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協働の観点からグローバル化する世界と地域社会の関係を理解できる。</li> <li>・地域協働の観点から対象となる課題群の相互関係を把握し分析することができる。</li> <li>・地域協働の観点から地域社会における様々な活動と、活動をなす主体との関係の実践的把握ができる。</li> </ul>

回	授業内容
第1回	講義の概要、成績評価、地域とは何か
第2回	地域協働とコミュニティ
第3回	地域協働と法政策
第4回	地域協働と地域分権、地域創生
第5回	地域協働と新しい公共、パートナーシップ
第6回	地域協働とボランティア、サービス・ラーニング
第7回	地域協働とNPO、サードセクター
第8回	地域協働とコミュニティビジネス、ソーシャルビジネス
第9回	地域協働と人材育成
第10回	地域協働とソーシャルデザイン
第11回	地域協働とフューチャーセンター
第12回	地域協働の事例研究(国)
第13回	地域協働の事例研究(都道府県)

第14回	地域協働の事例研究（市町村）
第15回	まとめ、ふりかえり
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習）        ・シラバスで次回のテーマを確認し、参考資料等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習）        ・講義で配布された資料及びテキスト等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理すること。</p> <p>（その他）        ・またペアワークやグループワークはトピックなテーマを取り上げるため、ニュースや地元新聞に絶えずチェックしておくこと。</p>
評価方法（割合）	授業理解度・ミニレポート（30%） グループワークへの貢献度（10%） 期末レポート（60%）
評価基準	
秀	講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。また、自学自習や実践につなげている。
優	講義で習った概念を自分の言葉で論理的かつ客観的に説明でき、かつ課題点も指摘することができる。
良	講義で習った概念を理解でき、他者に客観的に説明することができる。
可	講義で習った概念を理解しているが、十分とは言えない。
不可	講義で習った概念を理解できていない。
放棄	講義の3分の2以上出席していない。あるいは試験を受けていない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについては、授業アンケートのリフレクションペーパーにおいて記載することとする。
テキスト	なし
参考書・参考資料等	佐藤徹『新説市民参加』（公人社、2005）、今川晃ほか『地域りょくを高めるこれからの協働』（第一法規、2005）真山達志・今川晃・井口賀『地域力再生と政策学』（ミネルヴァ書房、2010）、野村恭彦「フューチャーセンターをつくろう」（プレジデント社、2012）、今川晃編『地域公共人材をつくる』（法律文化社、2013）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀・藤沢実『もうひとつの「自治体行革」』（京都政策研究センター ブックレットvol.2）（公人の友社、2014）、白石克孝・石田徹編『持続可能な地域実現と大学の役割』地域公共人材叢書第3期第1巻（日本評論社、2014）、今川晃編『地方自治を問い合わせなおす』（法律文化社、2014）、杉岡秀紀編著『地域力再生とプロボノ』（京都政策研究センター ブックレットvol.3）（公人の友社、2015）、白石克孝・石田徹編『持続可能な地域実現と大学の役割』（京都政策研究センター ブックレットvol.4）（公人の友社、2016）、青山公三・小沢修司・杉岡秀紀ほか『「みんな」でつくる地域の未来』（京都政策研究センター ブックレットvol.5）（公人の友社、2017）、杉岡秀紀ほか編『合併しなかった自治体の実際』（公人の友社、2018）、平尾剛之ほか『NPO最苦戦』（京都新聞出版センター、2018）、今川晃・牛山久仁彦編『自治・分権と地域行政』（芦書房、2020）
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
メッセージ	<p>・本講義は、毎回ミニワークやグループワークを取り入れ、学びの双方向性を重視する（アクティブ・ラーニング）。</p> <p>・3分の1以上の欠席は、単位不可とする。</p>
教員との連絡方法	

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地域産業論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聽講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 佐藤 充

授業概要	<p>地域産業は地域の経済活動を支える基盤であり、地域経済の成長を生み出す原動力となる。それぞれの地域では、資源の賦存量や事業所の集積状況などによって特徴づけられる産業構造が形成され、域内ないし域外の市場に向けた財・サービスが生産されている。また、地域産業には、国内外での経済活動の影響を受けながらも、地域の特性に基づくイノベーションや新事業の創出が期待されている。</p> <p>本講義は、地域産業の概念や仕組みを学習するとともに、地域産業の実態と課題について、具体的なデータや事例を通して理解することを目的とする。あわせて、地域経済における地域産業の役割や問題点を議論・検討するものである。</p> <p>※必要に応じて、ゲスト講師による講義を行う予定である。</p>
到達目標	<p>① 地域経済における産業の役割を理解し、地域産業を取り巻く国内外の経済環境や地域産業の構造について説明することができるようになる。</p> <p>② 地域産業が直面している諸問題を把握し、具体的な根拠に基づき、今後の在り方に関する展望や構想を提示することができるようになる。</p>

授業計画	
回	授業内容
第1回	イントロダクション
第2回	日本の地域構造
第3回	ケーススタディ① 地域産業とスマート化
第4回	ケーススタディ② 地域産業の特徴を把握する
第5回	地域経済の仕組み
第6回	ケーススタディ③ 地域経済循環と地域産業
第7回	地域所得の決定
第8回	地域経済の成長と地域産業① シフト・シェア分析
第9回	地域経済の成長と地域産業② 需要主導型成長
第10回	地域経済の成長と地域産業③ 供給主導型成長
第11回	ケーススタディ④ 地域産業とグローバル化
第12回	産業の立地
第13回	地域間の人口移動
第14回	ケーススタディ⑤ 地域産業とSDGs

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間		【毎回の授業前に行うべき予習】 ・各講義の最後に、次回までの小課題を指示する。 【毎回の授業終了後に行うべき復習】 ・講義後は、配布資料とノートを読んで復習すること。 【その他】 ・ニュースや新聞記事等に目を通し、地域産業に関する時事問題について、自らの意見を考えること。
評価方法（割合）		期末試験 (60%) 小課題 (30%) 講義での発言 (10%)
評価基準		
秀		地域経済における地域産業の構造と役割について理解し、地域産業が直面する諸問題を具体的な根拠に基づき論理的かつ客観的に説明でき、今後の展望や構想を提示できる。
優		地域経済における地域産業の構造と役割について理解し、地域産業が直面する諸問題を具体的な根拠に基づき論理的かつ客観的に説明できる。
良		地域経済における地域産業の構造と役割について理解し、地域産業が直面する諸問題を把握しているが、十分な説明ができない。
可		地域経済における地域産業の構造と役割について理解しているが、地域産業が直面する諸問題を十分に把握していない。
不可		地域経済における地域産業の構造と役割について理解せず、地域産業が直面する諸問題についても把握していない。
放棄		上記の基準を満たさない者。 例) 出席回数が満たない者。期末レポートを提出しなかった者など
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法		各回の小課題に対しては、講義内でコメント・補足を行います。
テキスト		【書名】地域政策の经济学 【著者】林宜嗣・山鹿久木・林亮輔・林勇貴 【出版社】日本評論社 【出版年】2018年 【ISBNコード】978-4535558687
卒業認定・学位授与方針との関連		
◎特に関係性が深い、○関係性が深い		
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財		
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財		
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財		○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財		
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができると人財		◎
メッセージ		講義内容の予習・復習をしてください。
教員との連絡方法		メールで連絡してください。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	原価計算論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
④ 井上 直樹

授業概要	原価計算の目的と仕組みを学修し、組織の経営実務で必要となる管理会計の基礎を学ぶ。原価計算の全体像を概観したのも、目的に応じて、個別分野ごとに具体的な原価計算の計算手法や特徴などを確認する。本講義では、製造業における原価計算を主な対象としているが、営利・非営利、業種などを問わず、各主体における原価計算上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、製造原価情報を適切かつ的確に収集・分析することを目指す。
到達目標	原価計算の基本用語や原価と利益の関係を分析・理解し、原価計算の方法を修得する。その結果、製品やサービスの原価を正確に把握し、組織の生産性向上を目的とした施策を実施できる。原価計算の理解や分析は、自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、特に、日商原価計算初級検定試験を受験する学生は、講義外において、できるだけ多くの問題を解く必要がある。

回	授業内容
第1回	ガイダンスと原価計算の全体像
第2回	原価の概念と計算
第3回	原価の分類と損益計算
第4回	変動費と固定費
第5回	損益分岐点の売上高
第6回	予算実績差異分析
第7回	原価計算の流れ
第8回	材料費・労務費・経費
第9回	製造直接費と製造間接費
第10回	製造原価の計算
第11回	損益計算書の作成
第12回	原価計算で必要となる仕訳
第13回	総合問題演習と解説(1)：前半の講義について
第14回	総合問題演習と解説(2)：後半の講義について
第15回	これまでの内容のまとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 次回授業の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。
	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 毎回、授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度、テキストおよび授業で配布するレジュメの該当箇所を復習しておくこと。
	(その他) 授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。
	(その他) 授業には、テキストに加え、電卓を携行すること(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)とするが、普段から電卓の操作に慣れておくこと。
評価方法（割合）	期末試験(70%) 授業中の小テスト(30%)
評価基準	
秀	【秀：100点 - 90点】適切に原価計算の基本用語や原価と利益の関係を把握し、原価計算の意義を理解したうえで計算ができる。
優	【優：89点 - 80点】原価計算の意義と計算方法をよく理解している。
良	【良：79点 - 70点】原価計算の意義と計算方法を一応理解している。
可	【可：69点 - 60点】原価計算の意義と計算方法の理解が、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	【不可：59点 - 0点】原価計算の意義と計算方法を理解できていない。
放棄	【放棄】3分の1を超えて授業を欠席した。または、定期試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題提出後に解答を示し、正答率の低い問題について、次回の授業などで解説を行う。
テキスト	【書名】スッキリわかる日商原価計算初級 【著者】滝澤 ななみ 【出版社】TAC出版 【出版年】2018年 【ISBNコード】9784813274742
参考書・参考資料等	必要に応じて、授業で配布するレジュメで指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	なるべく少人数の学生に対し、効果の高い授業を目指しています。 関心や意欲の無い者は履修しないでください。 授業終了後、本学で実施予定の日商原価計算初級検定に合格することを目指してください。
教員との連絡方法	私の大学のメールアドレス宛に連絡してください。面談希望者は、なるべく面談希望日時を事前にメールで連絡するようにしてください。
備考	

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	経営管理論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	なし	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 篠原 正人

授業概要	1回生配当の「経営学入門」を基礎に、それをさらに進めて、企業・病院あるいは行政組織における経営管理（マネジメント）の基礎理論を学ぶ。授業の土台はP. ドラッカーの「マネジメント」に置き、他の理論家の説にも触れながら、実際になされている業務に沿って授業を進める。授業の重点は、学説よりむしろ企業・行政組織の経営に合致した、実践的なものとする。 従って授業においては、教科書輪読に加え、実際に社会で起こっている経営的事象を題材にして、実践的な知識を身に付けることとする。 授業は原則として教科書に沿って進め、履修者が自らその内容を予習し、授業中に自らそれを解説するという能動的な態勢を取る。さらに、履修者が自分で調べてきたテーマを、発表する機会を多く設ける。
到達目標	1) 企業や行政組織がどのような考え方に基いて運営されているのかを理解している。 2) 組織の中で人が効率よく働くために、どのような仕組みが必要かを理解している。 3) 組織の成長を促すために、どのような革新が必要かを理解している。 4) 西洋的経営と日本の経営の比較ができる。 5) 人前で自分が考察した結果を適切に発表できる。

授業計画	
回	授業内容
第1回	経営管理とは何か
第2回	経営学の理論の変遷：主な理論の復習
第3回	事業の目的とは何か
第4回	行政組織とNPOの目的とは
第5回	人のマネジメント
第6回	社会的責任
第7回	経営者・マネジャーの役割
第8回	意思決定とコミュニケーション
第9回	マネジメント組織
第10回	会計・税務と財務
第11回	合併と統合
第12回	西洋的経営と日本の経営

第13回	経営問題ケーススタディー（1）可能であれば実務家を招聘する
第14回	経営問題ケーススタディー（2）
第15回	授業のまとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	（毎回の授業前に行うべき予習） 教科書の予習（1時間） 経営管理の考え方慣れるため、新聞・ビジネス雑誌を毎日読むこと。 (0.5時間/日) いくつか課題研究を課すので、レポートの書き方に習熟しておくこと。 (学期合計2時間) （毎回の授業終了後に行うべき復習） 自分のノートを整理する。（0.5時間）
評価方法（割合）	授業への貢献度【積極的な発表と質疑応答の的確性】 (50%) 課題【的確なテーマ選びと内容の水準】 (50%) を基本とする。 10回以上出席を単位付与の条件とする。
評価基準	
秀	学んだ専門用語を駆使して、論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点の解決方法を指摘できている また、経営に関する他の文献もよく学習している
優	キーワードを用いながら論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点を理解している
良	おおよその説明はできており、かつ、問題点を理解している
可	経営管理の仕組みや問題点の説明において、最低限の水準を満たしている
不可	経営管理の仕組みや問題点が説明できていない
放棄	授業出席が10回に満たない場合または課題を提出しない場合は「放棄」とみなす。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で説明・指導する。
テキスト	【書名】 「マネジメント」エッセンシャル版 【著者】 P. ドラッカー 【出版社】 ダイヤモンド社 【出版年】 2001年 【ISBNコード】 4-478-41023-2
参考書・参考資料等	日本経済新聞 エコノミスト 週刊ダイヤモンド その他、講義の中で適宜参考文献を紹介する
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
メッセージ	大学教育は「教えてもらう」ものではなく、学生が自分で学習するのを教員が「アシスト」するのだという原則を貫く。 講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 積極的に発表の機会を得て、人前で話す訓練を積むこと。
教員との連絡方法	メールにてshinohara-masato@fukuchiyama.ac.jpまで。
担当教員の実務経験	1973-2000 商船三井に勤務28年。 その内ロンドン勤務6年（財務関係）、オランダ勤務2年（ロジスティクス） 定期船、重量物船、タンカー、不定期船営業 財務、企画、調査などを経験 2000-2004年 オランダにて経営コンサルティング

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	情報処理論II	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聽講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
(◎ 山田 篤)

授業概要	現代社会ではあらゆる場面で情報技術が活用されており、人々は日常的に情報機器を使用するようになっている。本講義では、一般教養としてインターネットを中心とした情報処理技術の基礎的な侧面について学び、それが実社会でどのように活用されているかについて考える。情報処理の分野は日々変化しているが、現在の情報処理の基本的な仕組みを理解することで、情報技術の利用者として今後の変化にも対応できる能力を身につける。そのため、本講義ではインターネットの仕組みや通信の方法、電子メールやWWWといった応用事例についての概要を取り扱う。
到達目標	基礎的な情報処理技術について理解することにより、その利用者として高度情報化社会で生きていくために必要な力を身につけることを目指して、以下の3点を到達目標とする。 (1) インターネットの基本的な仕組みや通信の方法について理解し、説明ができる。 (2) 電子メールやWWWの仕組みや動作について理解し、説明ができる。 (3) インターネット上のセキュリティについて説明ができる。

授業計画	
回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	インターネット
第3回	データの伝送
第4回	通信理論の基礎
第5回	TCP/IPモデル
第6回	デファクトとデジタル
第7回	サービスプロバイダ
第8回	家庭内LANの構築
第9回	無線LAN
第10回	メールの仕組みと利用
第11回	WWWの仕組みと利用
第12回	インターネット上のセキュリティ
第13回	セキュリティ対策
第14回	インターネットの今後

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	毎回の授業前に、各回の授業内容に対応する教科書の範囲を予め読んでおき、分からぬ点、疑問に思う点を書き出し、授業中に質問ができるように準備しておくこと。 毎回の授業後に、対応する教科書の範囲をもう一度読み直し、確認すること。解決していない点については、仲間どうしで話し合ったり、オフィスアワーを使って質問すること。 授業で取り上げた技術が、自分の身の回りでどのように使われているかについて考えてみる。
評価方法（割合）	授業内課題：20% 期末試験：80%
評価基準	
秀	講義で扱ったインターネット技術について内容を理解し、自分の言葉で説明できる。
優	講義で扱ったインターネット技術について内容を理解し、一般的な説明ができる。
良	講義で扱ったインターネット技術について、一部不正確だが大まかな説明ができる。
可	講義で扱ったインターネット技術の一部について、最低限の説明ができる。
不可	講義で扱ったインターネット技術について、説明ができない。
放棄	講義に3分の2以上出席という要件を満たしていない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業時間内の課題については次の授業の冒頭でポイントと考え方を説明する。
テキスト	【書名】文系学生が学ぶ情報学 【著者】大内東編 【出版社】コロナ社 【出版年】2012 【ISBNコード】
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>
メッセージ	日常的に利用しているインターネットについて理解を深め、危険について認識するとともに、様々な課題への対応能力を涵養しましょう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。電子メールで連絡もしくは在室時に直接面談。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	経営工学概論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
(◎ 鄭 年皓)

授業概要	<p>経営工学は、経営資源の4要素たる3M+I (Man, Money, Material, Information) に対して、それを工学的・システム的に捉える文理融合の学問である。こうした経営工学の特性をふまえ、本講義では生産管理・財務管理・情報管理・意思決定論等、経営工学を構成する主要分野の基礎理論を解説する。</p> <p>また、本講義では、複雑な経営事象をなるべく簡潔に把握するためのモデル化と、そこから得られる解決策(解)を経営の現場にフィードバックさせる基本的なアプローチを積極的に紹介していく。これにより、経営の多様で複雑な問題に対して、それをシステム的・ネットワーク的に捉えることができる総合的・有機的観点を習得していくことを目標とする。</p>
到達目標	<p>経営の多様な問題をシステム的に理解する。</p> <p>経営に関するニュースや報道、記事等に接したとき、それを経営工学的な観点で理解する能力を身につける。</p> <p>経営工学の方法論を総合的・有機的に理解する。</p>

授業計画	
回	授業内容
第1回	経営工学の概要：経営工学とは、経営工学の構成分野、システム的思考
第2回	生産管理とその機能
第3回	生産形態
第4回	生産計画
第5回	在庫管理
第6回	品質管理
第7回	MRP (Materials Requirements Planning) システムとJIT (Just In Time) システム
第8回	SCM (Supply Chain Management)
第9回	プロジェクト管理
第10回	最適人員配置
第11回	線型計画法
第12回	経営分析
第13回	経営情報と意思決定法
第14回	経営データの分析と活用：多変量解析の考え方

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 図書館、新聞・雑誌の記事、インターネット等を利用し、関連した情報を調べてください。 関連したテーマに対して、テキストを予め読んでください。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 講義で説明した専門用語を理解した上で、各テーマの全般的な論理展開を吟味し、テキストと講義で紹介した参考文献（書籍、新聞・雑誌の記事、インターネットの関連したサイト等）を精読してください。</p> <p>（その他） 講義で学んだ多様な理論に鑑み、地域社会の活性化を経営工学的な観点で独自に考えてください。</p>
評価方法（割合）	<p>レポート課題（3回を予定）（30%） 授業内小テスト（2回を予定）（20%） 定期試験（50%） 合計 100%</p>
評価基準	
秀	多様な基礎理論を有機的に理解した上で、独自の発想とロジックを展開することができる。
優	基礎理論に対する理解度が高く、それを論理的に論じることができる。
良	基礎理論の内容を概ね理解している。
可	基礎理論に対する最低限の理解水準に達している。
不可	基礎理論に対する最低限の理解水準に達していない。
放棄	講義に3分の2以上を出席していない。または、定期試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題と授業内小テストに対して、学生の理解度を確認した上で、次回の授業で説明する。
テキスト	<p>【書名】『バランシングの経営管理・経営戦略と生産システム』 【著者】郷年皓・山下洋史 【出版社】文真堂 【出版年】2014 【ISBNコード】978-4-8309-4802-2</p>
参考書・参考資料等	<p>『入門ガイド 経営科学 経営工学』、古殿幸雄、中央経済社、2017年 * その他の参考書については、適宜紹介する。</p>
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input checked="" type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input checked="" type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させができる人財	<input checked="" type="radio"/>
メッセージ	経営の問題と地域活性化の問題に対して、経営工学が目指している「文理融合的」アプローチで理解し解決していく人財になることを期待します。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	プログラミングII	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	20	
授業公開	公開可	
履修年次	1	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 神谷 達夫

授業概要	この講義は、プログラミングIに続き、データ処理の基礎を習得することを目的としている。したがって、本講義で取り扱う言語はPythonである。この講義では、プログラミング言語Pythonを用いてプログラムが作成できるようになることを目指している。ファイル操作と簡単な統計処理を学んだ後、よく知られているプログラミングテクニックを習得する。
到達目標	プログラミング言語Pythonを用いて、簡単なデータ処理・統計処理のプログラムを作成できるようになる。また、よく知られているプログラミングテクニックを理解できるようになる。

回	授業内容
第1回	ファイル操作 csvファイルの取り扱い
第2回	ファイル操作 処理自動化の意味
第3回	ファイル操作 csvモジュールの使用
第4回	基本統計量の算出 基本統計量を求めるプログラムを作る
第5回	基本統計量の算出 垂度と尖度
第6回	度数分布表 度数分布表作成プログラムを作る
第7回	相関係数 相関係数を計算する
第8回	数値計算による方程式の解法 方程式を数値計算で解く
第9回	プログラミングの練習 例題を解く
第10回	モンテカルロ法 モンテカルロ法で円周率を求める
第11回	再帰アルゴリズム 再帰プログラムによりハノイの塔を解く
第12回	再帰アルゴリズムの考察 再帰アルゴリズムに適したもの、適さないもの
第13回	逆ポーランド記法 逆ポーランド記法の簡易電卓プログラムの作成
第14回	簡易インターブリタの作成 簡易電卓プログラムを簡単なインターブリタにする
第15回	まとめ 総合演習問題

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 教科書(配布した資料)を読みできるだけ理解すること。
--------------------------	---

	(毎回の授業終了後に行うべき復習) その回に作ったプログラムを自宅等で実行してみることが望ましい。
	(その他) プログラミングできるようになるには、授業以外でもプログラムを作成することが重要である。帰宅してからでもプログラムが作成できるような環境を用意し、自分で作ったプログラムを実行することが理解への近道である。
評価方法（割合）	期末試験 (60%) レポート・課題提出 (40%)

評価基準

秀	講義で扱ったプログラミングの知識とその応用方法を論理的に説明でき、その知識を応用できる。
優	講義で扱ったプログラミングの知識とその応用方法を論理的に説明できる。
良	おおよその説明はできており、かつ、簡単なプログラムは作成することができる。
可	簡単なプログラムの実行ができる。
不可	大学生として最低限必要なプログラミングに関する知識を有していない。
放棄	定期試験を受験していない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	出した課題の解答は、授業内で説明します。また、個別の質問にも応じます。
テキスト	授業内で指示します。
参考書・参考資料等	【書名】 10日でおぼえるPython入門教室 【著者】 穂刈実紀夫 他 【出版社】 翔泳社 【出版年】 2009

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	

メッセージ	プログラミング I の科目が十分に理解できてからの履修登録を勧めます。
教員との連絡方法	研究室前に掲示したMailへ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	コンピュータシステムの設計

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	社会保障論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 川島 典子

授業概要	<p>本講義の目的は、日本の社会保障制度の概要を理解し、社会保険制度や生活保護制度について理解した上で、制度運営の体制や財源および専門職などについて学ぶことにある。まず、社会保険制度である医療保険制度や年金保険制度、介護保険制度、雇用保険制度および労働者災害補償制度について学んだ後で、生活保護制度について講義し、育児・介護休業法についても学ぶ。</p> <p>また、北欧、アメリカ、イギリス、アジア諸国などを中心に、諸外国の社会保障制度と我が国の社会保障制度との比較も行う。北欧は軽並み消費税が25%で、高負担高福祉である。日本は低負担中福祉から中負担中福祉に移行しつつあるが、それで良いのだろうか？共に考え、議論してみたい。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の社会保障制度の概要と仕組みを理解することができる。</li> <li>2. 社会保険制度について理解することができる。</li> <li>3. 生活保護制度について理解することができる。</li> <li>4. 諸外国の社会保障制度について理解することができる。</li> <li>5. 日本の社会保障制度の今後について意見を述べることができる。</li> </ol>

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日本の社会保障制度の概要と仕組み、および財源
第3回	社会保険制度①：医療保険制度の概要とその必要性
第4回	社会保険制度②：年金保険制度の概要
第5回	社会保険制度③：年金保険のジェンダー・ギャップ
第6回	社会保険制度④：介護保険制度の概要
第7回	社会保険制度⑤-1：介護保険制度の給付と地域支援事業
第8回	⑤-2介護保険制度における地域包括ケアシステムと包括的支援
第9回	社会保険制度⑥：雇用保険制度と労働災害補償制度
第10回	生活保護制度
第11回	育児・介護休業法と児童手当
第12回	諸外国の社会保障制度①：北欧
第13回	諸外国の社会保障制度②：アメリカ、イギリス、など
第14回	社会保障制度の課題と今後の展望（グループディスカッション）

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	毎回、前回の復習を行うので質問に回答できるようにしておくこと。 教科書の予習とノートの復習を行うこと。
評価方法（割合）	期末試験 70% グループディスカッション参加の積極性と発表 20% 受講態度 10%
評価基準	
秀	試験が90点以上で講義テーマに関する必要な知識を十分に習得できており、発表も優秀と認められる。
優	試験が80点以上で講義テーマに関する知識を概ね習得できており、発表も優れている。
良	試験が70点以上で講義テーマに関する知識を凡そ習得できており、発表も努力が認められる。
可	試験が60点以上で講義テーマに関する知識の習得に関し、最低限の努力をしている。
不可	試験が60点以下で、知識の習得や考察が不十分である。
放棄	5回以上欠席している。もしくは、試験を受けていない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の際に質問に応じる
テキスト	【書名】『社会保障』 【著者】成清美治・真鍋頤久編著 【出版社】学文社 【出版年】(2011) 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	川島典子・三宅えり子著 (2015) 『アジアのなかのジェンダー』ミネルヴァ書房、 椋野美智子・田中耕太郎編著 (2018) 『はじめての社会保障』有斐閣、など
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	○
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
メッセージ	履修に関しては、学科を問いません。今後の人生のリスク回避のためにも是非、履修してみて下さい。 日本は、国民皆保険皆年金の国です。皆さんの全てが今後利用する社会保障制度についてわかりやすく解説する楽しい講義にしたいと思います。
教員との連絡方法	初回講義時に指示。
担当教員の実務経験	元産経新聞大阪本社社会部記者。
備考	教科書とノートを必ず持参すること。私語と携帯は禁止。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	介護福祉論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
<p>氏名  <input checked="" type="checkbox"/> 川島 典子</p>

授業概要	日本の高齢化率は約28%で、日本は超高齢社会に突入している。認知症高齢者も含め、要介護高齢者は増加する一方である。本講義では、介護を社会で支える介護保険制度などの介護をめぐる国の制度や、介護福祉の理念、要介護者の心身の理解および要介護者をとりまく家族や地域の理解など、要介護者の自立支援に向けた介護福祉全般を学ぶことを目的とする。介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの介護福祉に関する専門職の役割や、具体的な業務内容についても学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>介護福祉をめぐる制度政策について理解することができる。</li> <li>介護福祉の理念としてのノーマライゼーションなどについて理解することができる。</li> <li>ICF（国際機能生活機能分類）などの新しい障がいの概念と自立支援について理解することができる。</li> <li>介護福祉をめぐる専門職の役割について理解することができる。</li> </ol>

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	介護福祉とは何か
第3回	日本の高齢化の現状（人口構造の変化。高齢化社会から高齢社会、超高齢社会へ。日本の高齢化の特徴）
第4回	人間の人権と尊厳を保持する介護
第5回	介護における権利擁護
第6回	高齢者介護と障がい者介護をめぐる制度
第7回	ICF（国際生活機能分類）とリハビリテーション
第8回	QOLとノーマライゼーション
第9回	介護福祉を必要とする人の理解（要介護高齢者の心身の理解）
第10回	介護をめぐる社会の仕組みの理解（家族と世帯、地域）
第11回	介護保険制度の概要
第12回	介護保険制度による介護給付と予防給付
第13回	地域包括ケアシステムと地域包括支援センター
第14回	介護福祉をめぐる専門職
第15回	まとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	毎回、前回の復習を行うので質問に回答できるようにしておくこと。
評価方法（割合）	期末試験 70% レポート・小テスト 20% 受講態度 10%
評価基準	
秀	試験が90点以上で講義テーマに関する必要な知識を十分に習得できている。
優	試験が80点以上で講義テーマに関する知識を概ね習得できている。
良	試験が70点以上で講義テーマに関する知識を凡そ習得できている。
可	試験が60点以上で講義テーマに関する知識の習得に関し、最低限の努力をしている。
不可	試験が60点以下で、知識の習得や考察が不十分である。
放棄	5回以上欠席している。もしくは、試験を受けていない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義時に質問に応じる。
テキスト	初回講義時に指示。
参考書・参考資料等	初回講義時に指示。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させができる人財	
メッセージ	学科に関係なく履修できます。超高齢社会の課題に関し、共に考える楽しい講義にしたいと思います。
教員との連絡方法	初回講義時に指示。
担当教員の実務経験	-
備考	特別な理由がない限り、私語や携帯の使用を禁じる。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	自治体政策法務	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 藤島 光雄

授業概要	自治体が直面する地域政策、行政課題等をどのように解決していくかを、具体的な事例を挙げながら、検討を加える。 実社会に出てからの実務的な課題解決のための最適な法的政策手法は何かについて考える力を身に着けることを目的としている。 課題に応じて、調査・発表・討論等を予定している。
到達目標	自治体における身近な行政課題を取り上げ、政策法的手法を用いて、どのように解決していくかを身に着けることができる。 行政課題解決のための基本的な法的政策手法理論について理解することができる。

回	授業内容
第1回	講義の進め方、講義計画の概要、参考文献等の紹介、成績評価方法等について、説明する。
第2回	自治体法務と政策法務
第3回	地方分権改革の理念と戦略
第4回	国と自治体の関係 自治事務と法定受託事務
第5回	地方分権一括法と条例
第6回	立法事実とは
第7回	政策手法の種類と特徴
第8回	条例制定権の範囲とその限界
第9回	通達制度の廃止、法定受託事務と条例制定権 国の関与と争議処理
第10回	規制的手法を例にして
第11回	誘導的手法を例にして
第12回	計画手法その他の手法を例にして
第13回	実効性確保の手法
第14回	具体的な取り組み事例について検討を加える。
第15回	政策法務論の今後

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	毎回課題を提起するので、各自事前に予習するとともに、その課題解決手法が適切であったどうかを評価し、事後において、最適な課題解決策についてまとめておくこと。
評価方法（割合）	60%は定期試験の成績により、40%は小テスト・ミニレポートを含めて授業内の取り組みにより評価する。
評価基準	
秀	設問について十分な理解をしており、適切に答えている。
優	設問について理解し、概ね必要な答えをしている。
良	設問について、一部答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	定期試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	試験については、模範解答を例示するとともに、採点基準について公表する。 レポート等については、適宜添削して返却するなり、論評・解説を行う。
テキスト	【書名】自治体法務検定公式テキスト 政策法務編 2020年度検定対応 【著者】北村 喜宣ほか 【出版社】第一法規  【出版年】2020年2月 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	提中富和・藤島光雄著『政策法務入門 総務課の巻』（第一法規） 自治体の現場で起きている20のエピソードが収録されているので、課題事例研究として使用する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input checked="" type="radio"/>
メッセージ	本科目の担当教員は、長年にわたり、公務員として自治体に勤務した経験を有する。本科目では、このような経験を活かして、自治体の政策法務について、具体的に事例を挙げながら、実践的な教育を行う。 公務員行政職を目指す学生には、積極的に参加して欲しい。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けているので、事前にメール等で、予約すること。
担当教員の実務経験	自治体において、長く法規担当（法令審査、法律相談、行政争訟等）、農地開発行政、国際交流等の実務を経験したのち、大学教員に転任している。 現在、行政不服審査会委員、個人情報審査会委員を務める一方で、これまで自治体の政策法務アドバイザー、指定管理者選定委員を務めた経験を有している。 また、自治体の各種法律研修、議員研修等の講師も務めた経験を有する。、

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	ロジスティクス論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	なし	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 篠原 正人

授業概要	<p>産業界でますます重要視されている「ロジスティクス」について基本を学ぶ。</p> <p>ロジスティクスは物流論やサプライチェーン・マネジメント論とも称され、輸送・保管およびそれに関する情報の管理を対象とする経営事項である。</p> <p>従来企業は、研究開発・調達・生産・販売というモノづくり部門と、それを支える企画・総務・経理・財務・人事・広報・調査などの管理部門で成り立っていたが、モノと情報を流れを全社的に取り扱うロジスティクス部門が設置され、重要な役割を果たすようになった。授業ではこれを基礎から学び、習得した考え方を社会に出てから活用できるよう企図する。</p> <p>ロジスティクス論は比較的新しい分野であるから、これを学ぶことによって将来の企業経営に大きく貢献するとともに、行政においても政策立案に大いに役立つ。</p> <p>キャリア形成にも大いに役立つ。</p>
到達目標	<p>陸海空の輸送・保管について大まかな知識が習得できる。</p> <p>ロジスティクスの考え方方が理解できる。</p> <p>社会で起きている諸事項をロジスティクスの観点から説明でき、課題を指摘できる。</p> <p>人前で自分が考察した結果を適切に発表できる。</p>

授業計画	
回	授業内容
第1回	ロジスティクスとは何か
第2回	身近かなロジスティクスの事例
第3回	国際貿易と海上輸送
第4回	ロジスティクスとサプライチェーン
第5回	ロジスティクスと物流
第6回	物流の構成要素
第7回	ロジスティクス・マネジメント
第8回	これからのロジスティクス
第9回	グローバルロジスティクスと貿易
第10回	世界のロジスティクス
第11回	港湾の役割
第12回	港湾を取り巻く行政とビジネス

第13回	事例研究（1）実務家による講義
第14回	事例研究（2）課題研究発表
第15回	事例研究（3）課題研究発表および授業のまとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	（毎回の授業前に行うべき予習） 教科書の予習（1時間） ロジスティクスの考え方慣れるため、新聞・ビジネス雑誌を毎日読むこと。（0.5時間/日） いくつか課題研究を課すので、レポートの書き方に習熟しておくこと。（学期合計2時間） (毎回の授業終了後に行うべき復習) 自分のノートを整理する。（0.5時間）
評価方法（割合）	授業への貢献度【発表および質疑応答の積極性並びに的確性】（50%） 課題【的確なテーマ選びおよび内容の水準】（50%） を基本とする。 10回以上出席を単位付与の条件とする。

#### 評価基準

秀	学んだ専門用語を駆使して、論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点の解決方法を指摘できている
優	キーワードを用いながら論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点を理解している
良	おおよその説明はできており、かつ、問題点を理解している
可	ロジスティクスの仕組みや問題点の説明において、最低限の水準を満たしている
不可	ロジスティクスの仕組みや問題点が説明できていない
放棄	・授業出席が10回に満たない場合、または課題を提出しない場合は「放棄」とみなす。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で説明・指導する。
テキスト	【書名】改訂版「ロジスティクスの基礎知識」 【著者】浜崎章洋 【出版社】海事プレス社 【出版年】2015年 【ISBNコード】978-4-905781-54-7
参考書・参考資料等	月刊誌「LOGI/BIZ」、週刊「日経ビジネス」、日本経済新聞 「サプライチェーン・マネジメント論」中野幹久著、中央経済社 「マリタイム・エコノミクス」上・下 M. ストップフォード著、日本海運 集会所

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○

メッセージ	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 積極的に発表の機会を得て、人前で話す訓練を積むこと。
教員との連絡方法	メールにてshinohara-masato@fukuchiyama.ac.jpまで。
担当教員の実務経験	1973-2000 商船三井に勤務28年。 その内ロンドン勤務6年（財務関係）、オランダ勤務2年（ロジスティクス） 定期船、重量物船、タンカー、不定期船営業 財務、企画、調査などを経験 2000-2004年 オランダにて経営コンサルティング

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	ソーシャルデザイン	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 谷口 知弘

授業概要	<p>ソーシャルデザインは、対話を大切にしたデザインプロセスから笑顔で暮らせる持続可能な地域社会を創る新しい理論と方法である。市民一人ひとりの多様な想像力と創造力を信じ育む未来創造のデザインプロセスを、事例から講究し体験的に学ぶ。</p> <p>本講義においては、少子高齢化・人口縮小社会において危機的な問題状況における「ローカル」の動きに注目する。ローカルで展開されるソーシャルデザインを通して、経済の物差しで幸せを測ってきた経済至上主義から脱皮し、家族やコミュニティ、平等性や精神性、自然環境と関わりなどを重視するオルタナティヴな物差しとしての「幸福度」についても検討する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソーシャルデザイン」の理論と方法について、その意味と価値を理解する。</li> <li>・「ソーシャルデザイン」の考え方を援用した地域社会の問題解決や未来創造の提案ができる。</li> </ul>

授業計画	
回	授業内容
第1回	導入～ガイダンスと問題提起
第2回	第1部 「ソーシャルデザイン」とは ①まちづくりの系譜とソーシャルデザイン
第3回	②デザイン思考とソーシャルデザイン
第4回	③理解を深めるワークショップ「ソーシャルデザイン×地域社会づくりの魅力と課題」
第5回	第2部 ソーシャルデザインの手法を学ぶ ①ソーシャルデザインとワークショップ-1～集合地とイノベーション
第6回	②ソーシャルデザインとワークショップ-2～対話とデザインプロセス
第7回	第3部 地域社会の課題とソーシャルデザイン ①教育・文化とソーシャルデザイン
第8回	②観光とソーシャルデザイン
第9回	③健康とソーシャルデザイン
第10回	④住民自治とソーシャルデザイン
第11回	⑤理解を深めるワークショップ「地域社会の課題とソーシャルデザインを考える」
第12回	第4部 「ローカル」におけるソーシャルデザインの取り組み ①事例調査報告とディスカッション-1

第13回	②事例調査報告とディスカッション-2
第14回	③事例調査報告とディスカッション-3
第15回	④理解を深めるワークショップ「ローカルとソーシャルデザインを考える」+まとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと。 (毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で得た気づきや成果をレポートにまとめること。
評価方法（割合）	クラスへの貢献（30%） 期末レポート（70%） 合計100点（100 %）
評価基準	
秀	適切な課題を設定し、独創的且つ実現性の高い課題解決策を提示できている。
優	適切な課題を設定し、すぐれた課題解決策を提示できている。
良	課題を設定し、一応の課題解決策を提示できている
可	課題設定と解決策の提示が、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	課題設定や解決策の提示が水準に達していない。
放棄	3分の1以上（6回以上）の欠席及び期末レポートの未提出
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の実施する振り返りシートの内容について、次の講義の冒頭にフィードバックを行う。 講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	講義で配布するレジュメで指示する
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
メッセージ	ソーシャルデザインは「社会的な課題の解決と同時に新たな価値を創出する画期的なしくみをつくること（「ソーシャルデザイン（グリーンズ/朝日出版社 2012）」を目指します。心躍るアイデアや楽しい実践がたくさん試みられています。「ソーシャル」×「デザイン」から何が生まれつか、一緒に学び考えましょう。
教員との連絡方法	Tel/Mail等で連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	ワークショップ手法を活用した対話の場づくりの企画・運営に参画（京都他）
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。</li> <li>・テーマに応じて講師を招聘し現場最前線の実際を報告いただく予定である。</li> <li>・3分の1以上（6回以上）の欠席は、単位不可とする。</li> </ul>

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地方公会計	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	なし	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 関下 弘樹

授業概要	地方財政は住民の統制に服する「民主的統制」を基礎としており、戦後の地方自治法（以下、法）制定以後、法の財務規定により、予算・決算・財務管理が行われてきた。近年、地方財政は住民ニーズの多様化、少子高齢化による行政需要の増加、人口減少・経済低迷による収支の減少により逼迫するようになった。一方で、1990年代にはNPM（New Public Management）の興隆により、わが国地方自治体においても、民間企業の手法に学ぶ形で業務の改革が進められるようになった。より住民にわかりやすく財政状況を伝えるために、主に2000年以降、国（総務省）が主導するかたちで地方財政の刷新のための「公会計改革」の取り組みが進められた。この講義では、地方公会計改革の経緯・進展を中心に、広く公共分野（政府、独立行政法人、公益法人、学校法人）の会計について学ぶ。
到達目標	主に地方公会計の意義と構造、その特徴を理解することを目標とする。また、適宜、演習問題を課し、財務の分析を行うこととする。それら演習を通じて、具体的な自治体の財務情報を読み取り、その特徴と課題をデータに基づき説明できる力の習得を目指す。

回	授業内容
第1回	ガイダンス：地方公会計を学ぶに当たっての基礎知識
第2回	地方公会計の範囲・機能
第3回	地方公会計を用いた財務分析の基礎
第4回	政府における予算・決算情報の分析、および会計制度改革
第5回	地方自治体における「統一的な基準」による財務書類
第6回	地方自治体における「統一的な基準」による財務分析
第7回	実際の数値に基づく自治体財務分析の演習
第8回	国際公会計基準（IPSAS）
第9回	各国の公会計基準
第10回	地方公営企業における会計と分析
第11回	地方独立行政法人における会計と分析
第12回	公益法人における会計・分析と自治体の関係
第13回	社会福祉法人における会計・分析と自治体の関係
第14回	学校法人における会計・分析と自治体の関係

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回講義前に行う予習) 指示されたテキストの部分について熟読し、理解すること（1時間） (毎回講義後に行う復習) 講義内容を振り返り、理解を深めること（1時間）
評価方法（割合）	期末試験（60%） 小テスト（30%） 受講態度（10%）
評価基準	
秀	様々な分野における地方公会計の理論に関して、必要なキーワードを過不足なく用いて論理的に客観的な説明ができ、課題を的確に解決できている。
優	キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができ、課題を理解している。
良	おおよその説明はできており、課題を理解している。
可	理論や課題の説明において、最低限の水準を満たしている。
不可	理論や課題が説明できていない。
放棄	授業の1/3を欠席する、あるいは定期試験・小テストを受験しない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テスト等の結果を踏まえ、適宜学生の理解度を確認し、説明の深度や還元すべき事項について授業の内容を調整していく。
テキスト	【書名】公会計テキスト 【著者】黒木淳（編著） 【出版社】中央経済社 【出版年】2019年 【ISBNコード】978-4-502-29521-8
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○
地域社会の多様な主体に開心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
メッセージ	簿記論、財務会計、管理会計、経営学科目を履修しておくことが望ましい。双方面の授業とするため、講義中のディスカッションには積極的に参加すること。
教員との連絡方法	メールにて連絡を行う。
担当教員の実務経験	地方公共団体で21年間（1997年4月～2018年3月）勤務。財政・企画・税務部門、地方公営企業での勤務経験がある。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作は厳に慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	観光まちづくり論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 谷口 知弘

授業概要	<p>地域社会は、少子高齢化や過疎化、ソーシャル・キャピタルの減退などによる住民自治機能の低下によって、從来担ってきた防災や教育、福祉、文化の継承など、様々な「まちづくり」活動の停滞や破綻の危機に直面している。</p> <p>本講義「観光まちづくり論」では、これらの地域社会の問題解決の糸口を「観光」の視点を活かした「まちづくり」に求め、その理論と手法を実践の系譜と展開から講究する。</p> <p>尚、授業の進め方として、観光まちづくりの最前線で活躍するキーパーソンをゲストに招き、実践者との対話から検討するとともに、先進事例に関する受講者の報告をもとに討論する時間を設けることとする。</p>
------	--

到達目標	<p>①「観光」視点から取り組む持続可能なまちづくりの理論と手法を理解する。</p> <p>②京都府北部地域における観光まちづくりの現状を把握し、課題と展望を議論することができる。</p> <p>③地域資源を活用した観光まちづくりの新たな事業提案ができる。</p>
------	--

授業計画	
回	授業内容
第1回	導入：本講義の目的とプロセス ワークショップ「『観光』とは？自身の経験から考えよう」
第2回	第1部 「観光まちづくり」とは ①まちづくりの系譜と展開
第3回	②観光まちづくりの系譜と展開
第4回	③理解を深めるワークショップ「観光×まちづくりの魅力と課題」
第5回	第2部 地域社会の課題と観光まちづくり ①教育・文化と観光まちづくり
第6回	②農業と観光まちづくり
第7回	③健康と観光まちづくり
第8回	④住民自治と観光まちづくり
第9回	⑤理解を深めるワークショップ「地域社会の課題と観光まちづくりを考える」
第10回	第3部 北近畿における観光まちづくりの取り組み ①行政施策と観光まちづくり～福知山市の観光政策とまちづくり
第11回	②産学公民協働の観光まちづくり～プラットフォームとしての「海の京都DMO」
第12回	③市民活動と観光まちづくり～手づくり市による地域活性化

第13回	④企業活動と観光まちづくり～ゲストハウスを起点とした地域活性化
第14回	⑤理解を深めるワークショップ「北近畿の地域資源を活用した観光まちづくりを考える」
第15回	まとめのワークショップ「観光まちづくりの課題と展望を語ろう」
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	（毎回の授業前に行うべき予習）各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと。 （毎回の授業終了後に行うべき復習）講義で得た気づきや成果をレポートにまとめる。
評価方法（割合）	クラスへの貢献（30%） 期末レポート（70%） 合計100点（100 %）
評価基準	
秀	適切に課題を設定し、独創的且つ実現性の高い課題解決策を提示できている。
優	適切に課題を設定し、すぐれた課題解決策を提示できている。
良	課題を設定し、一応の課題解決策を提示できている
可	課題設定と解決策の提示が、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	課題設定や解決策の提示が水準に達していない。
放棄	3分の1以上（6回以上）の欠席及び期末レポートの未提出
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の実施する振り返りシートの内容について、次の講義の冒頭にフィードバックを行う。 講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	講義で配布するレジュメで指示する
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	○
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	○
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができの人財	◎
メッセージ	「まちづくり」に「観光」を掛け算するとまちの見え方が変わってきます。「観光地づくり」から「観光地域づくり」へとまちづくりも観光も、その担い手は行政や専門家から市民へと変わってきました。市民主体の観光まちづくりと一緒に学び考えましょう。
教員との連絡方法	Mail (taniguchi-tomohiro@fukuchiyama.ac.jp) へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	観光地域づくりの計画策定に参画（岸和田市、久御山市） 福知山市観光地域づくりセンター戦略会議メンバー
備考	・講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。 ・テーマに応じて3名ほど講師を招聘し現場最前線の実際を報告いただく予定である。 ・3分の1以上（6回以上）の欠席は、単位不可とする。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	交流観光政策論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 中尾 誠二

授業概要	<p>日本国内において「定住人口」の増加が難しくなった多くの地域で「交流人口」の増加を目指した取組が進められています。更に最近「関係人口」という新しい用語も使われるようになってきました。また、国は観光立国推進基本法等に基づく各種の政策を打ち出し、大都市圏・地方圏を問わず様々な地域振興策が推進されています。ただ、ここ数年の訪日外国人観光客急増等に起因する「観光公害」も指摘されるようになってきました。</p> <p>そこで本科目では、観光を切り口とした地域振興策について幅広い視点を持つつも、一般的な観光では見過ごされてきた地域資源を活かした「交流型観光」に関する政策体系を重点的に講義します。</p>
到達目標	<p>1) 交流や観光に関する法体系や政策群について理解できるようになる。 2) 交流型観光に関する地域資源を見出すことができるようになる。 3) 地域資源を活かした交流型観光プランを策定することができるようになる。</p>

授業計画	
回	授業内容
第1回	交流観光政策とは？
第2回	観光政策の変遷1：明治から第二次世界大戦まで
第3回	観光政策の変遷2：戦後の復興と観光基本法の制定
第4回	観光政策の変遷3：経済大国日本と旅行時代の到来・発展
第5回	観光政策の変遷4：バブル崩壊と本格的な観光政策への取組
第6回	観光立国推進基本法
第7回	観光立国推進基本法によってもたらされた観光政策等
第8回	旅行業法
第9回	シェアリングエコノミー
第10回	旅館業法と住宅宿泊事業法
第11回	インバウンド観光と通訳案内士
第12回	エコツーリズム推進法とリゾート法
第13回	地域資源と外部経済
第14回	地域資源法と六次産業化・地産地消法

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) ニュースや新聞に絶えず目を向けておくこと。  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにすること。
評価方法（割合）	期末試験 (50%) 講義ノート記載状況 (30%) 受講態度 (20%)
評価基準	
秀	設問に適切に答えている。
優	設問に答えている。
良	設問に答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	講義に3分の2以上は出席していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義ノート記載状況を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	盛山正仁（著）『観光政策と観光立国推進基本法-第3版』ぎょうせい、2012年 ほか適宜紹介します。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
メッセージ	講義後は毎回ノート提出を求めるため、バインダー（ルーズリーフ）方式のノートを推奨する。
教員との連絡方法	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	農林水産省の財団勤務18年
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	グリーンツーリズム論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聽講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 中尾 誠二

授業概要	農山漁村の活性化策として取り組まれているグリーンツーリズムについて、その理念や背景について詳しく考察する。さらに、農林漁家民宿・農林水産物直売所・農山漁村レストラン・道の駅といった「グリーンツーリズム施設」や日本型ワーキングホリデー等「ソフト事業」の現状と課題を明らかにし、2003年以降に全国適用された旅館業法等の規制緩和によってもたらされた「農山漁村民泊」の新たな動き等を踏まえ、今後の展望を行う。
到達目標	「地域経営」の視点から、グリーンツーリズムによる農山漁村振興の概要・各論を学び、政策的問題解決の基本的な考え方を身につける。
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	（毎回の授業前に行うべき予習） ・ニュースや新聞に絶えず目を向けておくこと。  （毎回の授業終了後にを行うべき復習） ・授業で読じたテキストの範囲をもう一度読んでおくこと。 ・授業で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりするなどして自分の意見を創るようにすること。
評価方法（割合）	期末試験 (50%) 講義ノート記載状況 (30%) 受講態度 (20%)

評価基準	
秀	設問に適切に答えている。
優	設問に答えている。
良	設問に答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	講義に3分の2以上は出席していない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義ノート記載状況を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	【書名】グリーンライフ入門 【著者】佐藤誠・篠原徹・山崎光博 【出版社】農山漁村文化協会 【出版年】2005年 【ISBNコード】978-4540051760

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
メッセージ	指定時期までにテキストを入手しない場合は受講を認めない。また、講義後は毎回ノート提出を求めるため、バインダー（ルーズリーフ）方式のノートを推奨する。
教員との連絡方法	研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	農林水産省の財団勤務18年
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

[ページの先頭へ](#)

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	交流居住論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 塩見 直紀

授業概要	日本の農山漁村の置かれている現状を踏まえ、都市農村交流や移住定住がもつ農村地域再生の可能性と現代的意義について学ぶ。特に「交流」のもつ可能性について力を置く。具体的な国内の事例（都道府県、市町村、企業、NPO等）を中心に、先進的な取組みについて研究し、交流事業や定住促進事業、魅力的な地域づくり事業を企画する理論と手法を身につける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市農村交流や移住の取り組みなどの現状と課題について基本的な知識を修得する。</li> <li>・交流や定住促進を通じた地域振興策の概要を身につける。</li> <li>・地域資源（地域資源創出）を活かした交流事業や定住促進の独自の企画を立案できる。</li> </ul>

授業計画	
回	授業内容
第1回	交流居住論の概要と自指す方向性について（オリエンテーション）、課題発表
第2回	交流、定住をサポートする若手ベンチャーの先進的取り組みに学ぶ(1)
第3回	交流、定住をサポートする若手ベンチャーの先進的取り組みに学ぶ(2)
第4回	交流、定住をサポートする若手ベンチャーの先進的取り組みに学ぶ(3)
第5回	日本の農村の現状と課題について
第6回	日本における旅の歴史（人はなぜ旅をするのか）
第7回	交流とは何か、交流の可能性とは
第8回	交流、定住促進等による地域再生に関するワークショップ（個別プレゼン準備）
第9回	現代の若者のローカル志向について
第10回	空き家対策について
第11回	地域資源を活かしたローカルビジネスの創造について
第12回	選ばれる農村とは
第13回	地域資源調査とプランディングと情報発信について
第14回	クリエイティブ人材の創造性発揮空間としての農村の可能性、個別プランニング（交流、定住促進、地域再生）
第15回	試験・課題提出

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習)            ・観光、交流、移住、定住に関する情報や地域のあり方について、日ごろから問題意識をもつこと。            新しい事業や世にない仕組みを自分が創出するという気概をもち、関連書を手にするなど、自己学習をおこなうこと。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) ・1回目に出す課題について、復習をおこない、充実をはかる（最終日提出）</p>
--------------------------	---

評価方法（割合）	試験・課題（80%） 毎回の感想・気づき・提案シート（20%）
評価基準	
秀	必要なキーワードを過不足なく用いて、論理的に客観的な説明ができる、かつ、課題や独自の解決策を的確に指摘できている
優	キーワードを用いながら論理的に客観的な説明ができる、課題を理解し、解決策を提示できる
良	おおよその説明はできており、かつ、課題を理解している
可	課題の説明において、最低限の水準を満たしている
不可	課題が説明できていない
放棄	講義に3分の2以上は出席していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	本授業では思考のアウトプット（感想・気づき・アイデアシート）を重視し、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	毎講義のレジュメの中で、適宜、参考文献を紹介する
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input checked="" type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input checked="" type="radio"/>
メッセージ	どのような仕事に就いても今後、「交流」は重要なキーワードになります。交流の意味、可能性を考え、魅力的な地域を創るために何が必要なのか学んでいきましょう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	21世紀の生き方、暮らし方としての「半農半X」「天職観光」「1人1研究所社会」等のコンセプトの提唱。NPO法人里山ねっと・あやべや半農半X研究所、綾部ローカルビジネスデザイン研究所、スマールビジネス女性起業塾、総務省地域力創造アドバイザーとしての都市農村交流と移住支援、ソーシャル系大学企画、情報発信、地域資源調査と可視化（古典的編集手法「AtoZ」を活用、地域資源から新しいアイデアを生み出す問題集制作）など。

ページの先頭へ

## シラバス確認

[シラバス入力](#) > [シラバス確認](#)

講義名	グローカル特別講義IV（北近畿の地域創生II）	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	聴講生・科目等履修生	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 杉岡 秀紀

授業概要	本学は「市民の大学、地域のための大学、世界と共に歩む大学」を標榜し、2016年4月に開学した。そして、京都府北部の5市2町、兵庫県北部の5市2町からなる北近畿地域を主たるフィールドの対象とし、地域の課題解決のために教育・研究・社会貢献を展開することとしている。本学のディプロマ・ポリシーには、養成人財像として、北近畿及び他地域で活躍できる地域力の推進役（キーパーソン：リーダー、マネージャー、コーディネーター）が挙げられている。そこで、本講義においては、包括協定を締結する北近畿の地域団体からトップリーダーを含む第一線のキーパーソンをゲストスピーカーとしてお招き、それぞれの立場から地域創生の取り組みの現状と課題について話題提供いただく。なお、原則として前半約60分はゲスト講義、後半約30分は質疑応答を含む対話の機会を創造する。また、ゲスト講義回については北近畿地域連携センターの協力の下、広く一般に公開する。
到達目標	・公共を担う重要な主体である民間セクターの多様な役割や重要性、具体的な姿を理解する。 ・北近畿管内の地域創生の取り組みの状況を認識し、それら取り組みを比較しながら検討する視座、課題を把握する能力を養う。

授業計画	
回	授業内容
第1回	ガイダンス、講義の概要と北近畿地域の概要など
第2回	京都工芸繊維大学福知山キャンパスにおける地域創生の取り組み
第3回	ふりかえりワークショップ①
第4回	三和地域協議会・大江まちづくり住民協議会・夜久野みらいまちづくり協議会における地域創生の取り組み
第5回	ふりかえりワークショップ②
第6回	京都信用金庫における地域創生の取り組み
第7回	ふりかえりワークショップ③
第8回	但馬信用金庫における地域創生の取り組み
第9回	ふりかえりワークショップ④
第10回	中間ふりかえり（特別ゲストを招く場合もあり）
第11回	海の京都DMOにおける地域創生の取り組み
第12回	ふりかえりワークショップ⑤
第13回	西日本旅客鉄道株式会社福知山支社における地域創生の取り組み

第14回	ふりかえりワークショップ⑥
第15回	まとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 予習：各回のテーマについて、文献やインターネットによる調査、自身の関心を整理するなどあらかじめ学習しておくこと（1時間程度）。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 復習：講義で得た気づきや成果をレポートにまとめる（1時間程度）</p> <p>（その他） 日常的に新聞を読むなど広く社会の動きに关心を持ち、北近畿の公共政策に関わって関心や問題意識を高めること。</p>
評価方法（割合）	<p>毎回のふりかえり（15%） グループワークへの貢献度（25%） 期末レポート（60%）</p>
評価基準	
秀	民間セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘でき、かつ、問題解決の優れた政策を提示できる。
優	民間セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘し、かつ、問題解決の適切な政策を提示できる。
良	民間セクターの役割と各分野の事業内容を理解して、問題点を的確に指摘できる。
可	民間セクターの役割と各分野の事業内容について、最低限の理解はできている
不可	民間セクターの役割と各分野の事業内容が説明できない。
放棄	出席が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	基本的には次の回の講義冒頭で行う。講義終了後は授業アンケートへのリフレクションペーパーなどを通じて行う。
テキスト	なし。
参考書・参考資料等	特になし。授業で配布するレジュメを中心に行う。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	
メッセージ	公共政策や地域政策、地方自治に興味ある学生、将来北近畿地域内での就職や企業、活動を考えている学生に多く受講してもらいたい。
教員との連絡方法	オフィスアワー。ただし、事前にアポを取ること。
備考	

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	診療情報管理特論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修：×、聽講生：○（ただし、診療情報管理士認定試験の受験を目指す方に限ります）	
履修年次	3年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 星 雅文

授業概要	<p>医療機関で行われている疫学研究や医療統計・病院統計において、必要とされるのは単なるデータの処理手法や統計的分析手法だけではない。データの背景にある医療機関における各専門職者の役割や、情報の流れ、医療制度など診療情報管理士認定試験に向けての勉学の過程において培ってきた知識のすべてを動員して取り組む必要がある。</p> <p>そこで本講義では、本学科卒の学生が医療機関に就職後、恐らく最も現場で期待される知識「医療統計学」の総復習と疫学研究手法の基礎を学修する。それに併せて、3年間かけて学んできた診療情報管理士認定試験に資する知識の総復習を行う。</p>
到達目標	<p>1) 医療における統計学的手法の利用とその適用範囲について説明することができる。      2) 医療における診療情報の発生と流れ、および共有のあり方について説明することができる。      3) 医療制度における各種情報の利活用と管理について、説明することができる。</p>

回	授業内容
第1回	オリエンテーション： 診療情報の管理と分析を学ぶ意義の再確認
第2回	医療統計学の復習： 基本統計量、各種検定の手法、医療統計指標について
第3回	疫学研究方法Ⅰ： ケースコントロール研究・コホート研究について
第4回	疫学研究方法Ⅱ： 各研究手法の欠点について
第5回	バイアスと交絡因子： バイアスと制御方法、生活の中に存在する交絡因子について
第6回	医療制度・組織・情報Ⅰ： 医療・福祉専門職の役割と医療・福祉に関する法規について
第7回	医療制度・組織・情報Ⅱ： 医療機関における組織管理、施設管理、安全管理について
第8回	医療制度・組織・情報Ⅲ： 医療における情報の管理と利活用、および各種統計指標について
第9回	医療制度・組織・情報Ⅳ： 医療機関における診療情報管理について
第10回	基礎医学・臨床医学Ⅰ： 人体の構造と機能、疾病の要因、各種感染症について
第11回	基礎医学・臨床医学Ⅱ： 新生物、血液・免疫疾患、呼吸・循環器系疾患について
第12回	基礎医学・臨床医学Ⅲ： 消化器、尿路生殖器、精神神経、皮膚筋骨格系疾患について
第13回	基礎医学・臨床医学Ⅳ： 医学・医療の用語（英語による表現）について
第14回	国際疾病分類法Ⅰ： 疾病分類と死因、国際的分類法について

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 予習として前の講義回で指定するテキストのページに一度目を通すことにより、より深い理解につながる。
評価方法（割合）	・期末試験 (80%) ・講義中の質疑への対応・講義への参加姿勢 (20%)
評価基準	
秀	疫学研究の方法論と統計処理手法、および診療情報管理に資する様々な知識について、説明でき、模擬問題の作成も可能である。
優	疫学研究の方法論と統計処理手法、および診療情報管理に資する様々な知識について、分かりやすく説明できる。
良	疫学研究の方法論と統計処理手法、および診療情報管理に資する様々な知識に関するキーワードについて述べられる。
可	疫学研究の方法論と統計処理手法、および診療情報管理に資する様々な知識に関するキーワードを挙げることができる。
不可	上記の基準に達していない。
放棄	期末試験を受験しない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	期末試験の結果は、診療情報管理士認定試験に資する価値があるため、即座に採点し、各学生に返却する。
テキスト	【書名】診療情報管理 I ~ IV 【著者】日本病院会 【出版社】株式会社日本病院共済会 【出版年】2017年度版 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	・診療情報管理士教育問題集（基礎課程、専門課程）：（社）日本病院会
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	◎
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができの人財	
メッセージ	当科目では、疫学研究の手法を学修すると共に診療情報管理士認定試験に資する知識の総復習を行うため、医療機関において今後期待される統計的分析手法の基礎を身につけ、さらに診療情報管理士認定試験の合格を目指したい者があれば、学外からの科目等履修・聴講も認めたい。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡、もしくは在室時に直接面談いたします。 E-Mail : hoshi-masatake@fukuchiyama.ac.jp
担当教員の実務経験	医療機関（病院）において7年間、事務職、情報システム担当として、診療情報に係る現場業務を経験しました。
備考	講義中、特段の理由がない限り私語を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	診断技術論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	なし	
履修年次	2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 芦田 信之

授業概要	<p>近年の医療において各種検査は技術の発展と共に、その位置づけも重要なものになっている。</p> <p>本講義では診断に検査技術について臨床検査と医用画像の二つの視点から講義を行なう。</p> <p>臨床検査では人体の生理機能と病態の関係を学び、血液検査、尿検査などの検体検査とバイタルサイン、心電図、脳波などの生理学的検査の方法と意義について学ぶ。</p> <p>また、画像検査では、医用画像がどのようなメカニズムで形成されどのような処理がなされているのか、そしてその像がどのような意味を持つのか基礎知識について習得し、診療情報に一つである医用画像の管理・運用に必要な知識の習得を目的とする。X線画像処理を通して医用画像の意義やその特性や処理法を理解する。その上でX線CTやMRIなどの異なるモダリティの概要や特長を理解する。</p>
到達目標	<p>血液検査・尿検査、心電図検査などの健康診断で実施される検査データを読み力を持つ。</p> <p>医用画像が出来るまでの原理を理解し、画質の劣化がどのようにしておこるのか説明できる。</p> <p>X線撮影やCT、MRIなどそれぞれのモダリティの違いについて説明できる。</p>

回	授業内容
第1回	診断技術とは 健康診断結果の読み方
第2回	血液検査 I・講義 有形成分（血球数）
第3回	血液検査 II・講義 血漿中のおもな成分（糖、脂質、たんぱく質）
第4回	血液検査 III・講義 血漿中のおもな成分（ホルモン、酵素、抗体）
第5回	尿検査・講義 尿でわかる身体の異常について
第6回	生理機能検査・講義 心電図・脳波について
第7回	細菌検査・講義 細菌・ウィルスの検出について
第8回	病理検査、内視鏡検査
第9回	X線画像処理 I・講義 X線の性質・画像の形成・画質の決定要素について
第10回	X線画像処理 II・講義 造影検査と造影剤について
第11回	X線CT検査・講義 CTの原理と再構成処理について MRI検査・講義 NMR現象、MRイメージングの原理について
第12回	核医学検査・講義 ガンマカメラの原理、SPECT、PETの原理について

第13回	超音波検査 講義 超音波の生体特性、イメージングの原理について
第14回	診断基準、健常、異常、カットオフについて
第15回	検査診断のまとめ
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	（毎回の授業前に行うべき予習）WebClass にて資料配布と課題提出を行うので閲覧しておくこと。さらに、インターネット上には、優れた教材があるので各回のテーマに従った参照サイトを閲覧しておくこと。 （毎回の授業終了後に使うべき復習） 授業のキーワードとなる項目についての確認テストをネット上でおこなうので、次の週までに実施しておくこと
評価方法（割合）	定期試験を筆記試験にて行う。 成績評価は毎回行う小テスト（40%）と定期試験の成績（60%）とする。 秀・優・良・可の評価割合は学部の評価基準に準じる  不可：総合点59点以下 放棄：演習に3分の2以上は出席していない場合は受験資格を認めない
評価基準	
秀	血液検査・尿検査、心電図検査などの健康診断で実施される検査データを読む力を身につけ、医用画像の原理を理解し、説明できる
優	血液検査・尿検査、心電図検査などの健康診断で実施される検査を理解し、医用画像の原理を理解できている。
良	検体検査・生理学的検査・画像検査について原理や方法について理解している。
可	検体検査・生理学的検査・画像検査について原理や方法について最低限の知識を有する。
不可	上記の基準に達していない。
放棄	講義に3分の2以上は出席していない。 レポートを提出していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回、WebClassを利用して、講義の終了時に小テストを行う。 小テストは選択式および記述式とする。
テキスト	特になし。毎講義の範囲の資料をWebclassで事前に提供する
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に関心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	◎
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	○
メッセージ	診断技術は日々進歩しています。講義ではトピックスとしてこれからの診断技術の話も取り入れていこうと思っています。
教員との連絡方法	教務システムWeb Classおよびメールにて行う。 ashida-nobuyuki@fukuchiyama.ac.jp またはf620.ashida@gmail.com
担当教員の実務経験	研究所・大学病院・大学にて臨床経験あり

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	国際関係論	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 大谷 杏

授業概要	国際関係論（International Relations）は、政治学、法学、経済学、社会学、歴史学などそれぞれの専門分野が扱っていた国際的な課題を専門分野を超えて学際的に扱う比較的新しい学問です。国際政治学がベースとなつており、国際機関や多国籍企業、NGOなども研究対象に含まれます。また、貧困、開発、人権、平和など、地球が抱える諸課題の解決や地域研究も国際関係論が扱う範囲です。本学の地域経営学部では、地域課題の解決に向けた学習が進められていますが、この講義ではそれらの問題を地球規模で考えます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際関係論に関する基礎的な内容を把握する。</li> <li>・時事問題を正しく理解し、自分なりの意見を持てるようになる。</li> <li>・身近な地域課題と諸外国とのつながりを考えられるようになる。</li> </ul>

授業計画	
回	授業内容
第1回	オリエンテーション 第1章 国際関係論はどのような学問なのか
第2回	第2章 20世紀の国際関係をどう理解するのか
第3回	第3章 今日の国際関係をどう読むのか
第4回	第4章 グローバリゼーションの時代をどう読むのか
第5回	第5章 現代の安全保障をどう読むのか
第6回	第6章 北東アジアの政治と国際関係をどう読むのか
第7回	第7章 國際社会における日本の位置づけをどう読むのか
第8回	第8章 國際関係理論とは何か
第9回	第9章 國際レジーム論とグローバル・ガバナンス論
第10回	第10章 リージョナリズムと歐州統合
第11回	第11章 南北問題をどう解決するのか
第12回	第12章 地球環境問題をどう解決するのか
第13回	第13章 非国家アクターの台頭をどう見るのか
第14回	第14章 市民社会は世界を動かすことができるのか
第15回	第15章 國際紛争・国内紛争をどう解決するのか 授業のまとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	予習、復習の必要はありませんが、期末テストに向けた勉強はしてください。 また、日頃から様々なメディアを通じて報じられる時事問題に关心を持ち、自分なりの意見を持てるよう努めましょう。
評価方法（割合）	授業への参加 15% (6回以上の欠席は基本認められない) 各回感想シート 30% 期末試験 55%
評価基準	
秀	出席状況、授業態度が大変良好で、感想シートへの取り組み、期末試験の成績も極めて優れている。
優	出席状況、授業態度が良好で、感想シートへの取り組み、期末試験の成績も優れている。
良	出席状況、授業態度、感想シートへの取り組み、期末試験の成績が概ね良好である。
可	出席状況、授業態度、感想シートへの取り組み、期末試験の成績が基準を満たしている。
不可	出席状況、授業態度、感想シートへの取り組み、期末試験の成績が基準を満たしていない。
放棄	出席状況が基準を満たしていない、若しくは期末試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポートに関しては、ポイントとなるコメントに下線を引くなどし、できる限り返却するようにいたします。
テキスト	【書名】国際関係論 第3版 【著者】佐渡友哲、信夫隆司、柏本英雄 【出版社】弘文堂 【出版年】2018年 【ISBNコード】978-4-335-00233-5
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	◎
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	◎
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	○
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	◎
メッセージ	地域の課題も突き詰めて考えると、外国の事情が影響していることがあります。皆さんの身近なところでは、外国人技能実習生、また諸外国の移民や難民についても、送り出し国と日本の政治、経済状況、送り出し国の日本政府との関係などが大きく関係しています。 Think globally, act locally. 地球規模で物事を考えることのできる人になってください。
教員との連絡方法	メール、若しくはCampus Planを使って連絡してください。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	行政学入門	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	なし	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 藤島 光雄

授業概要	<p>今日の社会では、行政の役割が複雑・多様化し、人々の生活に大きな影響を与えている。</p> <p>そうしたなかで、行政は社会の中でどのような役割を持っているのか、その仕組みはどのようにになっているのか、私たちの生活と行政はどのように関係しているのか、そして、私たちは主権者として行政にどのように関わっていくことが必要なのか。</p> <p>授業では、実際に社会で起きている事例などを通じて行政の役割について学ぶ。</p>
到達目標	<p>行政学に関する基礎的な知識・理解を習得することを目標とする。</p> <p>①日本の行政の仕組みや特長について説明できる。      ②行政の社会的役割について歴史も含めて説明できる。      ③市民と行政との対話を円滑に進め、市民と行政との協働を企画しその事業に参加できる。</p>

回	授業内容
第1回	ガイダンス（授業計画・概要、成績評価等）
第2回	行政学の枠組み
第3回	近現代国家と行政システムの発展
第4回	日本の行政システム
第5回	行政の仕組み 1 国と地方公共団体
第6回	行政の仕組み 2 行政組織と官僚制度
第7回	行政の仕組み 3 財政制度
第8回	これまでの小括。中間試験を実施し、その模範解答例を提示し、解説を行う。
第9回	行政の仕組み 4 公務員制度と人事行政
第10回	行政組織の管理運営
第11回	行政統制と行政責任
第12回	政策手段と政策評価
第13回	地方自治
第14回	現代行政の課題
第15回	これまでの授業の振り返りとまとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) ・事前に配布する資料及び参考資料等で該当する箇所を事前に読んでおくこと。 (毎回の授業終了後に行うべき復習) ・講義で配布された資料及び参考書等を改めて読み直し、理解を深めると共に、そのテーマについての自分の考えを整理しておくこと。
評価方法（割合）	授業への貢献度・発表等 (25%) 中間試験 (25%) 期末試験 (50%) 合計100点 (100%)
評価基準	
秀	設問について十分な理解をしており、適切に答えている。
優	設問について理解し、概ね必要な答えをしている。
良	設問について、一部答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	定期試験を受験していない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回配布する授業アンケートに記載された質問事項や疑問等については、次回の授業の冒頭で解説する。
テキスト	特になし。 毎講義でレジュメを配布する。 【書名】 【著者】 【出版社】 【出版年】 【ISBNコード】
参考書・参考資料等	曾我謙悟『行政学』（有斐閣 2013年）、真渕 勝『行政学』（有斐閣、2009年）
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input checked="" type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input type="radio"/>
地域社会の多様な主体に關心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input checked="" type="radio"/>
メッセージ	地元自治体の行事に積極的に参加しましょう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けているので、事前にメール等で予約すること。
担当教員の実務経験	自治体において、行政事務の経験を有する。
備考	講義中、私語、飲食、無断退室、携帯電話の操作等を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	地域情報学II	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 西田 豊明

授業概要	地域情報学の体系面と手法面に焦点をあてる。まず、地域情報学がデータを読み解いて統計分析を行って地域のマネジメントにつなげるという粗粒度のアプローチだけではなく、人々の日常のインタラクションの細粒度レベルから、さらにその上の活動の文脈を作り上げて共有し、発展させるという中粒度のレベルまでが統合的に関連付けられたものでなければならないことを指摘する。次に、地域経営、データサイエンスによる強化を軸とする粗粒度のアプローチを起点として、社会知デザイン、コミュニティ支援、物語、社会的インタラクション、会話へと徐々に解像度をあげつつ、地域における社会的インタラクションの理解と拡張について論じていく。最後に、ゲーム、遊びなど細粒度に潜む人間の本質を視野に入れつつ、地域情報プロジェクトの在り方について考察する。
到達目標	次の3つの目標を達成すること。 第一に、地域情報学の手法の全体像を理解できること。 第二に、地域情報学を粗粒度から細粒度に至る視点で捉え、各視点での取り組みの主要概念と枠組みを説明できる。 第三に、地域情報学による地域貢献の体系面と手法面について自分の考えをきちんと組み立てて提示できる。

回	授業内容
第1回	地域情報学の構図
第2回	地域経営と情報学
第3回	データサイエンスで捉えた地域情報学
第4回	中間討論 I
第5回	社会知デザインという観点
第6回	コミュニティ支援システム
第7回	物語として捉えた地域
第8回	社会学的な観点
第9回	会話
第10回	コモングラウンドの構築と発展
第11回	中間討論 II
第12回	ゲームの世界
第13回	遊び ホイジンガ

第14回	地域情報プロジェクト			
第15回	まとめ			
準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間		(毎回の授業前に行うべき予習) 授業で学ぶ主要な概念についてのイメージ作りと疑問点の整理。		
		(毎回の授業終了後に行うべき復習) 授業で学んだ概念を様々な具体的な課題に適用できるよう整理しておく。		
評価方法（割合）	小レポート (70%) 小論文 (30%)			
評価基準				
秀	地域情報学を構成する手法を組み合わせて課題に適用して深い論考を示せる			
優	地域情報学を構成する手法を課題に適用して論考を示せる			
良	地域情報学を構成する主要手法それぞれの骨子をきちんと説明できる			
可	地域情報学の体系をきちんと説明できる			
不可	上記に達しない			
放棄	出席回数が10回に満たない。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	原則として講義時間中あるいは講義終了後に総評を示す。			
テキスト	なし			
参考書・参考資料等	なし			
卒業認定・学位授与方針との関連				
◎特に関係性が深い、○関係性が深い				
地域経営学部				
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input type="radio"/>			
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財				
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財				
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財				
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財				
情報学部				
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ				
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	<input checked="" type="radio"/>			
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	<input type="radio"/>			
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	<input type="radio"/>			
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	<input type="radio"/>			
メッセージ	先進的な情報学が地域にいかに貢献できるか、実践面に焦点を当てて学習しよう。			
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。			
担当教員の実務経験	-			
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。			

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	情報リテラシー	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 衣川 昌宏

授業概要	情報があふれる現代では、正しく安全に情報を活用する技術が求められている。本科目では情報活用能力の基礎である情報リテラシーを身につけ、適切な情報を選択、収集、可能、発信するために考慮すべき点を理解すると共に、情報利活用を支えるコンピュータ科学の基礎も学習する。具体的には、情報を活用するための知識や道具（アプリケーションソフトウェアやインターネットサービスなど）の準備、インターネット利用の際に守るべき事柄の学習、情報処理・情報通信に関わる法律および法律でカバーできない部分に対応する情報倫理、インターネット上に公開されている情報の利活用、コンピュータ科学の応用で何が可能になるのかの概要の理解を講義を通して行う。また、BYOD端末や学内ネットワークサービス、公衆ネットワークの利用時に必要な自己防衛手法も学習する。
到達目標	情報リテラシーを理解し実践するため、次の4点を到達目標とする。 1. 情報倫理を身につけ、インターネットや情報サービスを正しく利活用することができる 2. 情報サービス上のコミュニケーションを円滑に行うための知識を身につけ実践することができる 3. インターネット上から情報を収集し、レポートを作成し、情報を発信することができる 4. コンピュータ科学の概要を理解し、学習に必要な手段を活用できる

授業計画	
回	授業内容
第1回	ガイダンス、情報倫理とは
第2回	法律と情報倫理
第3回	サイバー犯罪、自己責任と自己防衛
第4回	情報ネットワークを活用する上での情報の保護、プライバシーの重要性
第5回	情報サービス上のコミュニケーション
第6回	情報収集テクニックを身につける（図書館、新聞、インターネット上の情報活用）
第7回	情報収集の実践—地域に関連するテーマを調べる
第8回	テーマを掘り下げるための情報収集
第9回	レポートを書くための準備—レポートの構成、情報ツールの活用
第10回	レポートを作成する—レポートの作文技法
第11回	情報を発信する—Webページを用いた情報発信
第12回	コンピュータ科学入門

第13回	コンピュータ科学の応用と情報社会への活用
第14回	サイバーフィジカルシステム（CPS）の概要
第15回	情報リテラシーのまとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 事前配布するハンドアウトを読み、講義内容の概要を理解しておくこと。 理解できない事柄をノートにまとめておくこと。 関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてノートを作成すること。 (BYOD端末上のノートアプリケーション、紙のノートどちらでも良い)
	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で講じた内容をもう一度読んでおくこと。特に、講義中のメモ等は記憶が新しいうちにハンドアウトやノートへ情報を補足しておくこと。 講義で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりして複数の視点からの理解を深めておくこと。
評価方法（割合）	適宜「理解度試験」を実施（計20%） レポート（30%） 期末に試験を実施（50%） 合計（100%）

#### 評価基準

秀	設問に適切に答えている。
優	設問に答えている。
良	設問に答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	「理解度試験」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業で説明する。
テキスト	ハンドアウトを配布
参考書・参考資料等	「大学生のための メディアリテラシー・トレーニング」長谷川 一・村田麻里子 著（三省堂書店） 「入門コンピュータ科学」J. Glenn Brookshear 著・神林靖、長尾高弘 訳（KADOKAWA）

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域経営学部	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させができる人財	
情報学部	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	◎
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	オープンデータ技術	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
(◎ 田中 克己)

授業概要	オープンデータとは、公共性の高い情報を自由に編集・加工などができるようにオープンライセンスで提供されるデータである。本講義では、オープンデータの作成・検索・分析を行うための知識と取扱いについて学ぶ。具体的には、オープンデータおよびその背景について学び、オープンデータの活用手法について講述する。さらに講義に関する演習も交えて学習する。
到達目標	オープンデータに関する全般知識を体得し自ら説明できる。オープンデータを扱うソフトウェアツールおよびサービスを活用して、オープンデータコンテンツを作成することができる。

回	授業内容
第1回	ガイダンス：オープンデータとは何か
第2回	オープンデータの種類
第3回	オープンデータの表現(1)：タグ付け
第4回	オープンデータの表現(2)：データ構造の表現
第5回	オープンデータの編集
第6回	画像や映像データの表現
第7回	演習：オープンデータを扱うツール
第8回	データ間の関係：リンクトオープンデータ
第9回	RDFによるリンクトオープンデータの表現
第10回	SPARQLを用いたリンクトオープンデータの検索
第11回	オープンデータの知的財産権と利用許諾
第12回	オープンデータと個人情報保護
第13回	オープンデータの活用
第14回	演習：オープンデータを活用したコンテンツの制作
第15回	総括：全体のまとめ

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	
--------------------------	--

	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 次回の講義内容について、各自でツールやサービスの操作などについて慣れておくこと。</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 学習したツールやサービスの操作や機能について、各自でもう一度復習をして技術を習得しておくこと。 授業中に与えた課題については、提出期限までに提出もしくは発表すること。</p>
評価方法（割合）	定期試験 (60%) 平常点 (20%) 授業の演習課題レポート (20%) 平常点は、授業態度（出席状況、授業中の積極的な質問など）で評価します。
評価基準	
秀	オープンデータに関する全般知識に対して論理的かつ現実的に説明ができ、オープンデータ関連ツールおよびサービスについて高度な機能を操作できる。
優	オープンデータに関する全般知識に対して優れた説明ができ、オープンデータ関連ツールおよびサービスについて全般に渡って機能を操作できる。
良	オープンデータに関する全般知識に対して基本的な説明ができ、オープンデータ関連ツールおよびサービスについて基本的な機能を操作できる。
可	オープンデータに関する全般知識に対して最低限の理解をしており、オープンデータ関連ツールおよびサービスについて最低限の機能を操作できる。
不可	オープンデータに関する全般知識に対して最低限の理解をしておらず、オープンデータ関連ツールおよびサービスについて最低限の機能を操作できない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	コースの最後に、オープンデータを活用した制作物を作成し提出させる。この提出物と定期試験結果により、オープンデータに関する知識と技術の習得状況を確認する。
テキスト	特に指定しない。必要に応じ、講義の際にレジュメを配付する。
参考書・参考資料等	特に指定しない。必要に応じ配付する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させができる人財	
メッセージ	この授業で得た知識と技術を様々な分野で活用してほしい。
教員との連絡方法	メールやSkypeなどによるオフィスアワーを設ける。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	データマーケティング	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 郑 年皓

授業概要	ICT (Information & Communication Technology) を基軸とした情報化社会のビジネス活動において、企業のマーケティングデータの活用とその解析は欠かせない分野である。マーケティングデータの活用と解析は、情報化の進展により、増えその重要性を増しており、関連した研究分野や企業活動のみならず、行政や非営利団体においても幅広く応用されている。そこで、本授業では、主として企業のマーケティング活動において、如何に大規模なデータを活用し解析するかというデータマーケティングについて学習していく。また、具体的に大規模なデータが、企業のマーケティング活動にどのように活用されるかについて、データの種類と分析目的を理解した上で、消費者情報を含めた経営データと事例を通してその手法を学んでいく。
到達目標	データ解析の様々な分析方法がどのようにマーケティングの諸問題に応用されるかを理解する。 多様な分析方法を有機的に理解し、独自の観点で的確な分析ができる能力を身につける。 本授業で学んだ知識を、マーケティングのみならず、地域社会や社会一般に対しても拡張し応用する。

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、マーケティングの基礎概念 (4P:Product, Promotion, Price, Place) とマーケティング情報
第2回	マーケティング・データをどのように捉えるか：尺度水準、マーケティング分析の基本的な方向性
第3回	複数の商品・サービスに対する消費者の選好度を比較する：一対比較法 (paired comparison method)
第4回	ブランド特性や消費者特性を分類する (1) : クラスター分析 (cluster analysis)
第5回	ブランド特性や消費者特性を分類する (2) : クラスター分析の応用 (cluster analysis)
第6回	マーケットシェアの因果関係を分析する(1) : 計量データと回帰分析 (regression analysis)
第7回	マーケットシェアの因果関係を分析する(2) : 回帰分析の応用 (regression analysis)
第8回	消費者満足度の因果関係を分析する(1) : 非計量データと数量化理論 I 類 (quantification method I)
第9回	消費者満足度の因果関係を分析する(2) : 数量化理論 I 類の応用 (quantification method I)
第10回	プロモーション活動の効果を評価する (1) : 市場反応モデル (market response model)
第11回	プロモーション活動の効果を評価する (2) : 市場反応モデルの応用 (market response model)
第12回	商品やサービスのイメージを「見える化」する (1) : 多次元尺度構成法 (MDS:Multi-Dimensional Scaling)
第13回	商品やサービスのイメージを「見える化」する (2) : 多次元尺度構成法の応用 (MDS:Multi-Dimensional Scaling)

第14回	購買の「決め手」を分析する(1) : コンジョイント分析 (conjoint analysis)
------	--

第15回	購買の「決め手」を分析する(2) : コンジョイント分析の応用 (conjoint analysis)、総括、さらなる学習に向けて
------	---

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 図書館、新聞・雑誌の記事、インターネット等を利用し、関連した情報を調べてください。  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 数理的・統計的方法論については、必ず復習をしてください。  (その他) 授業で紹介したデータや事例のみならず、他のデータや事例を利用し、応用能力を高めてください。
評価方法（割合）	レポート課題 (2回を予定) (20%) 授業内小テスト (2回を予定) (20%) 定期試験 (60%) 合計 100%

#### 評価基準

秀	多様な基礎理論と分析方法を有機的に理解した上で、独自の発想とロジックを展開し応用することができる。
優	基礎理論と分析方法に対する理解度が高く、それを実践的・論理的に応用することができる。
良	基礎理論と分析方法の内容を概ね理解している。
可	基礎理論と分析方法に対する最低限の理解水準に達している。
不可	基礎理論と分析方法に対する最低限の理解水準に達していない。
放棄	講義に3分の2以上を出席していない。または、定期試験を受験していない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポート課題と授業内小テストに対して、学生の理解度を確認した上で、次回の授業で説明する。
テキスト	指定しない。
参考書・参考資料等	『マーケティングで使う多変量解析がわかる本』、酒井 隆著、日本能率協会、2007 『マーケティング・サイエンス入門』、古川一郎・守口剛・阿部誠著、有斐閣、2011 * その他の参考書については、適宜紹介する。

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	◎
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	◎
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	

メッセージ	情報化社会において、データ解析の基本的な能力は、社会で活躍していくための「教養」です。こうした観点で本授業のみならず、データ解析やモーデリングに関する他の授業も頑張っていただきたいです。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	情報ネットワーク	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 衣川 昌宏

授業概要	インターネットに代表される、情報社会を支えるインフラストラクチャ（基盤）技術である情報ネットワークは、人とのインターフェースであるコンピュータ端末（スマートフォンやパーソナルコンピュータ）から意識することなく利用できることが当然となっている。しかし、その空気や水と同様に当然のように利用できる裏側には、情報を正しく・高速に・途切れることなく伝える技術である情報ネットワークとそれを支える人たちが存在している。本講義では、情報ネットワークの仕組みを理解すると共に、実際にインターネットを利用するプログラムの開発を通してコンピュータから情報ネットワークを利用するための基礎知識を学習する。
到達目標	情報ネットワークの概要を理解し、情報ネットワークの設計や情報ネットワークをもちいたアプリケーションソフトウェアの設計・活用に必要な考え方方に大きな関心を持つようにするため、次の3点を到達目標とする。 1. 情報ネットワークを支える理論・技術を説明できる 2. 情報ネットワークの階層構造を説明できる 3. TCP/IPをもちいた簡単なアプリケーションソフトウェアを製作できる

回	授業内容
第1回	ガイダンス、情報ネットワークとは、受講にあたってBYOD PCの準備
第2回	インターネットを支える技術（1）：IPv4/IPv6、情報ネットワークの実践（1）：インターネットの地図作成
第3回	インターネットを支える技術（2）：ネットワーク構成機器、情報ネットワークの実践（2）：身近な機器を探そう
第4回	インターネットを支える技術（3）：LAN・WAN・ゲートウェイ、情報ネットワークの実践（3）：身近な機器を探そう（続）
第5回	インターネットを支える技術（4）：バンド幅とスループット、情報ネットワークの実践（4）：バンド幅の計測
第6回	インターネットを支える技術（5）：輻輳とルーティング、情報ネットワークの実践（5）：海外へのルーティングの調査
第7回	ネットワークセキュリティの基礎、情報ネットワークの実践（6）：Windowsのファイアウォール機能の利用
第8回	TCP/IP（1）：情報ネットワークの階層構造・OSI階層モデル、情報ネットワークの実践（7）：Wiresharkを使ったプロトコル観察
第9回	TCP/IP（2）：物理層・データリンク層、情報ネットワークの実践（8）：Wiresharkを使ったプロトコル観察（続）
第10回	TCP/IP（3）：ネットワーク層、情報ネットワークの実践（9）：Wiresharkを使ったプロトコル観察（続）
第11回	TCP/IP（4）：トランスポート層、情報ネットワークの実践（10）：Wiresharkを使ったプロトコル観察（続）
第12回	TCP/IP（5）：インターネット上のサービスとの関係、情報ネットワークの実践（11）：Wiresharkを使ったプロトコル観察（続）

第13回	情報ネットワークの実践（12）：ソケットプログラミング
第14回	情報ネットワークの実践（13）：自作ソフトウェアでWebページを閲覧する
第15回	まとめ：情報通信の未来

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 各回で学ぶ教科書の章を読み、講義内容の概要を理解しておくこと。理解できない事柄をノートにまとめておくこと。 関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてノートを作成すること。 (BYOD端末上のノートアプリケーション、紙のノートどちらでも良い)
	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で講じた内容をもう一度読んでおくこと。特に、講義中のメモ等は記憶が新しいうちに教科書やノートへ情報を補足しておくこと。 講義で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりして複数の視点からの理解を深めておくこと。
	(その他) 自分の身の回りにある情報機器についても、情報ネットワークがどのように役に立っているのか考えてみること。
評価方法（割合）	適宜「理解度試験・演習」を実施（計40 %） 期末に試験を実施 (60 %) 合計100点 (100 %)

#### 評価基準

秀	設問に適切に答えている。
優	設問に答えている。
良	設問に答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	「理解度試験・演習」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業で説明する。
テキスト	【書名】基本からわかる情報通信ネットワーク講義ノート 【著者】大塚 裕幸・小川 猛志・金井 敦・久保田 周治・馬場 健一・宮保 憲治 【出版社】オーム社 【出版年】2016年 【ISBNコード】978-4274218354
参考書・参考資料等	「ネットワークはなぜつながるのか 第2版」戸根 勤 著（日経BP社）

#### 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

情報学実践の基礎となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	<input type="radio"/>
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	<input checked="" type="radio"/>
情報学の知識や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	<input type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	<input type="radio"/>
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	<input type="radio"/>

メッセージ	普段使用しているアプリケーションソフトウェアはいつ通信しているのでしょうか。その便利さを支える縁の下の力持ち「情報ネットワーク」技術を学んで、インターネットだけでなく多種多様な通信技術を応用できる知識と技術を身につけましょう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	BYOD PCを持参すること。講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、講義に関係の無い携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	データベースシステム	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 衣川 昌宏

授業概要	AI/IoT社会を支える計算機（コンピュータ）には、高速に計算を行うだけでなく効率的に「情報=価値のあるデータ」を処理することが求められている。本講義では価値のあるデータとその扱い方について学び、さらに実世界のあらゆるデータを効率的に管理・運用できる切り札であるデータベースシステムを学ぶことで、データの収集、加工、蓄積、提供、利用手法を身につけ、付加価値を持った情報を得るための技術と手法を学ぶ。本講義では、各自のコンピュータやインターネット上のサーバをもちいて実践的な学習を行う。
到達目標	データベースシステムの概要を理解し、設計・活用に必要な考え方方に大きな関心を持つようにするため、次の4点を到達目標とする。 1. データと情報の違いを理解できる。 2. リレーションナルデータベースの概念を理解できる。 3. SQLを基本としたリレーションナルデータベースシステムの基本的な操作ができる。

回	授業内容
第1回	ガイダンス：データとは何か・データベースとは何か、受講にあたってBYOD PCの準備
第2回	データベースを活用する～データベースなしに実世界は動かない
第3回	データ（1）：データと情報の違い・データの形式と価値
第4回	データ（2）：収集する・保持する
第5回	データ（3）：バックアップ・リストア
第6回	データ（4）：データを管理する
第7回	RDB（1）：データモデル
第8回	RDB（2）：データベースを操作する
第9回	RDBM（1）：データベース管理システムの概要
第10回	RDBM（2）：データベース管理システムの機能
第11回	RDBM（3）：問い合わせ・トランザクション
第12回	RDBMを使ってみる（1）：SQL入門
第13回	RDBMを使ってみる（2）：システムの導入と制御
第14回	発展：データベースの設計～分散型データベース管理

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>(毎回の授業前に行うべき予習) 各回で学ぶ教科書の章を読み、講義内容の概要を理解しておくこと。理解できない事柄をノートにまとめておくこと。 関連資料を読んだり、関連情報を調べたりしてノートを作成すること。 (BYOD端末上のノートアプリケーション、紙のノートどちらでも良い)</p> <p>(毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義で講じた内容をもう一度読んでおくこと。特に、講義中のメモ等は記憶が新しいうちに教科書やノートへ情報を補足しておくこと。 講義で学んだことや考えたことに関する資料を調べたり、人と話したりして複数の視点からの理解を深めておくこと。</p> <p>(その他) 自分の身の回りにある情報機器・情報処理についても、データベースシステムがどのように役に立っているのか考えてみること。</p>
評価方法（割合）	<p>適宜「理解度試験」を実施（計40 %） 期末に試験を実施（60 %） 合計100点（100 %）</p>

## 評価基準

秀	設問に適切に答えている。
優	設問に答えている。
良	設問に答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	「理解度試験」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業で説明する。
テキスト	<p>【書名】リレーショナルデータベース入門[第3版]            【著者】増永良文            【出版社】サイエンス社            【出版年】2017            【ISBNコード】978-4781913902</p>
参考書・参考資料等	「[改訂第4版]SQLポケットリファレンス」朝井淳 著（技術評論社）

## 卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	○
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	◎
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	
メッセージ	データベースシステムは世の中のデータに付加価値を与え、情報として利用するための考え方、道具です。情報を活用する身近な手段として活用できるようになります。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	BYOD PCを持参すること。講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、講義に関係の無い携帯電話の操作を慎むこと。

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	オペレーティングシステム	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 藤井 叙人

授業概要	オペレーティングシステム（OS）は、計算機のハードウェアとアプリケーションプログラムの中間に位置し、ユーザに代わって計算機の資源を効率よく管理し、ユーザに対して使いやすい環境を提供する。OSの基礎的概念は、その誕生から現在に至るまで、また、すべてのOSにおいて共通しており、計算機の核となるシステムといえる。本講義では、ソフトウェアとハードウェアの関係性からOSの機能と意義を学ぶ。また、OSを実現する機構として、タイムシェアリング処理、割込みと入出力、記憶管理、ファイルシステムについて説明する。
到達目標	OSの構成要素や技法について理解し、説明できる。 ・OSの役割、組み込まれている機能を理解し、説明できる。 ・OSのプロセス管理について理解し、説明できる。 ・OSの記憶管理について理解し、説明できる。

回	授業内容
第1回	導入：ハードとソフトの仲立ち
第2回	基本ソフトと応用ソフト（OSとアプリケーション）
第3回	ファームウェア・デバイスドライバ
第4回	OSの機能（1）：記憶領域の管理
第5回	OSの機能（2）：標準入出力
第6回	OSの機能（3）：アプリケーションの駆動
第7回	OSの機能（4）：ヒューマンインタフェースデバイス（HID）
第8回	OSの機能（5）：デバイスの違いに対処する
第9回	タイムシェアリング処理の考え方
第10回	割り込みと入出力の関係
第11回	OSの動作（1）：ファイルシステム
第12回	OSの動作（2）仮想記憶の考え方
第13回	発展（1）：プロセス管理とスレッディング
第14回	発展（2）：プロセス間通信と同期
第15回	まとめ：OSの今後

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 事前に公開（配布）する講義資料を予習。教科書の該当箇所の予習。
	(毎回の授業終了後に行うべき復習) 講義資料の復習、課題及び小レポートの作成。教科書の該当箇所の復習。
	(その他) 「計算機アーキテクチャ」との同時受講、あるいは、同授業で学習する知識が習得済みであることを推奨する。

評価方法（割合）

各授業における課題及び小レポート（40%）  
期末試験（60%）

評価基準

秀	適切に問題点を指摘し、独自性のある現実的な解決策を論理的に提示できている。
優	指摘した問題点に対し、すぐれた解決策を論理的に提示できている。
良	指摘した問題点に対し、一応の解決策を提示できている。
可	問題点の指摘と解決策の提示が、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	問題点の指摘や解決策の提示ができていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法  
課題やレポートの評価は適宜公開可とし、最終成績に反映する。期末試験は採点終了後に公開可とする。

テキスト	【書名】基礎オペレーティングシステム-その概念と仕組み 【著者】毛利公一 【出版社】数理工学社 【出版年】2016 【ISBNコード】978-4864810395
参考書・参考資料等	講義資料をWebに公開。参考書が必要な場合は配布する講義資料で指示する。

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い

地域実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ人財	<input type="radio"/>
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価のできる人財	<input checked="" type="radio"/>
地域社会の多様な主体に关心をもち、企業活動の活性化、地域社会の再生・活性化等を目指して、多様な地域の継続的事業体の基本を学び、これを活用できる人財	<input type="radio"/>
診療情報管理士等の資格取得を目指しつつ、医療機関・福祉施設と企業経営との経営の共通性と相違性等を学び、将来はその経営に参画できる人財、医療福祉を通じて地域貢献できる人財	<input type="radio"/>
地域経営の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災、まちづくり等を発展させることができる人財	<input type="radio"/>

メッセージ	
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。授業計画の順序や学習内容の配分は変更の可能性がある。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	IoT	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 嶋中 理英

授業概要	身の回りのさまざまなモノやデバイスに接続されたセンサから取得できるデータをインターネットを介して収集し、これらを分析することで、事象の効率化や新たな価値やサービスの提供を可能とする IoT (Internet of Things、モノのインターネット) が注目を集めている。本講義では、IoT の構成、産業界や各家庭などさまざまな分野で活用される IoT について概説し、さらにセンサ、アクチュエータや通信方式など IoT を構成する要素技術やその課題について学習することで、IoT の設計、活用に必要となる基礎知識の理解を目的とする。
到達目標	今後の社会において重要な役割を担う IoT の設計や効率的な利用が可能となるために、以下の 4 点を到達目標とする。 (1) IoT の構成についての理解、説明ができる。 (2) IoT の活用事例についての理解、説明ができる。 (3) IoT に必要な要素技術についての理解、説明ができる。 (4) IoT の課題や解決策について議論できる。

回	授業内容
第1回	ガイダンスと IoT の歴史・概要
第2回	IoT の仕組み - デバイスとインターネット -
第3回	IoT 関連技術の標準化動向
第4回	IoT の応用例 (1) - 遠隔監視、製品のバリューチェーンのモニタリング、生産の知能化など産業界での活用 -
第5回	IoT の応用例 (2) - スマートシティ、コネクティッドカー、医療や介護の遠隔サポートなど個人の生活への影響 -
第6回	IoT プラットフォーム
第7回	IoT の構成要素 (1) - センサで情報を集める -
第8回	IoT の構成要素 (2) - ネットワークで情報を送る -
第9回	IoT の構成要素 (3) - サーバで情報を処理する -
第10回	IoT の構成要素 (4) - アクチュエータで物を動かす -
第11回	IoT とビッグデータ
第12回	IoT セキュリティ
第13回	IoT システム開発フロー
第14回	身の回りのモノの IoT 化

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 関連情報を調べてきてください。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） 講義で配布したレジュメにもう一度目を通して下さい。 レジュメで指示する関連資料を調べてください。</p> <p>（その他） 設計者になったつもりで、何か一つ身の回りにあるものの IoT 化計画（デバイス選定など）を立ててみてください。</p>
評価方法（割合）	理解度テスト（30%） 期末テスト（70%）
評価基準	
秀	設問に適切に答えている。
優	設問に答えている。
良	設問に答えていない箇所がある。
可	設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。
不可	設問に答えていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	「理解度テスト」を踏まえ、学生の理解度を確認しつつ、還元すべき事項について次回授業のなかで説明する。
テキスト	特になし。毎講義でレジュメを配付する。
参考書・参考資料等	講義で配付するレジュメで指示する。
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	○
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	◎
メッセージ	本講義で得られた知見を応用して地域社会の発展を目指しましょう。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	メディア情報学	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	科目等履修・聴講	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 橋田 光代

授業概要	メディアとは、情報の記録・保管あるいは伝達のための手段や方法のことである。たとえば情報を記録・保管するためのメディアには磁気ディスクや磁気テープ等がある。情報の伝達のためのメディアとしては、マスメディアやソーシャルメディア等がある。一方、これらのメディアで保管されたり伝達されたりする内容に着目すると、それらの表現手段として、言語、音、画像、映像等が使われており、これらもまたメディアである。本講義ではこれら表現手段としてのメディアに注目し、人間の知覚との関わりの中で、これらの特性や関連技術の概要について学ぶ。
到達目標	(1) 情報を記録・伝達・表現する一連の手段としてのメディアの位置付けを理解する。 (2) メディア技術を通じて、知識や情報がどのように伝達・変遷していくかを理解する。 (3) 映像・音・言語各メディアの生成技術の概要について理解し、説明ができる。

回	授業内容
第1回	世の中で、身の回りで、「メディアコンテンツ」と呼べそうなもの
第2回	体験ワークから探る情報伝達と表現（1）自然環境、場の探査
第3回	体験ワークから探る情報伝達と表現（2）集合体・コミュニティとしての意思形成
第4回	体験ワークから探る情報伝達と表現（3）五感・身体感覚との関わりと活用
第5回	体験ワークから探る情報伝達と表現（4）言語を介したコミュニケーション
第6回	知識や情報の「記録」と「再現」：記録メディアの歴史
第7回	知識や情報の「参照」と「応用」：コピーとアレンジ
第8回	知識や情報の「変換」と「融合」：マルチメディア化、メディアミックス、総合芸術
第9回	知識や情報の「維持」と「発展」：時代変遷、保存技術、意味の変容、風化・劣化
第10回	メディアコンテンツの事例学習（1）光、画像、映像
第11回	メディアコンテンツの事例学習（2）音、音楽、効果音
第12回	メディアコンテンツの事例学習（3）文字、言語、ソーシャルネットワーク
第13回	情報伝達とメディア表現の実践（1）コミュニケーションゲームの企画と立案
第14回	情報伝達とメディア表現の実践（2）コミュニケーションゲームの試行・深化

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	<p>（毎回の授業前に行うべき予習） 次の授業テーマに関連してどのような事例があるかを調べ、それらに関する疑問点を整理しておく。</p> <p>（毎回の授業終了後に行うべき復習） わからなかった点や疑問点が解消されたか、確認をする。解決していない点は仲間同士で話し合ったり、オフィスアワーを使って質問をする。</p> <p>（その他） 授業で取り上げた内容が、自分の身の回りでどのように使われているかについて考えてみる。</p>
評価方法（割合）	課題 (20%) 期末試験 (80%)
評価基準	
秀	講義で扱った話題について内容を理解し、自分の言葉で説明できる。
優	講義で扱った話題について内容を理解し、一般的な説明ができる。
良	講義で扱った話題について、一部不正確だが大まかな説明ができる。
可	講義で扱った話題の一部について、最低限の説明ができる。
不可	講義で扱った話題について、説明ができない。
放棄	出席回数が10回に満たない。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業時間内の課題については次の授業の冒頭でポイントと考え方を説明する。
テキスト	配付資料による
参考書・参考資料等	適宜授業時間内に提示
卒業認定・学位授与方針との関連	
◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	◎
メッセージ	コンピュータを使ったメディアの処理は日常的なものになっています。それらを体系立てて理解するようにしましょう。なお、これらのメディアに関する技術の詳細や理論的根拠については「画像情報処理」「音情報処理」「自然言語処理」といった理論系専門科目で学びます。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。

ページの先頭へ

**シラバス確認**

シラバス入力 &gt; シラバス確認

講義名	ゲーム情報学	
講義開講時期	後期	講義区分
基準単位数	2	
受講定員の有無	無	
授業公開	無	
履修年次	1・2年次	

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 藤井 叙人

授業概要	ゲーム情報学は、チェス・将棋・デジタルゲームといったゲーム全般を科学的に捉え、コンピュータでどのように扱うか、新しい技術をどう応用していくかを考える、情報学の研究分野である。ゲームとはなにかというゲームの定義から始め、多種多様なゲームの情報学的な分類方法、ゲーム内の問題を解決するための手法、ゲームAIを構築するためのフレームワーク、認知科学に基づくゲームAIの評価、ゲームをプレイする人間の思考の分析、コンピュータ上で思考するゲームAI実現のためのアルゴリズム、などを講義、課題、レポート、議論を交えて学んでいく。
到達目標	ゲーム全般を科学的視点から捉え、情報学として扱うための知識全般が習得できる。また、習得した知識を工学的にどう応用していくかを考える能力が身につく。 (1) ゲーム情報学の歴史、および、最先端の研究事例を知ることができる。 (2) ボードゲームやデジタルゲームを題材に、思考ゲームの基礎的な問題と、その解決手法を理解できる。 (3) ゲームをプレイする人間プレイヤーやゲームAIの思考過程を、論理的・客観的に考察できる。

回	授業内容
第1回	イントロダクション、ゲーム情報学の最先端
第2回	ゲームとは何か？（1）：定義、ゲーム情報学の歴史
第3回	ゲームとは何か？（2）：情報学的な分類
第4回	ゲームとは何か？（3）：問題解決手法としてのゲーム
第5回	ゲームAI（1）：枠組み（フレームワーク）
第6回	ゲームAI（2）：知識表現と意思決定の考え方
第7回	ゲームAI（3）：動作のしくみ（アルゴリズム）
第8回	ゲームAI（4）：良いゲームAIとは何か？～評価と認知科学的アプローチ
第9回	事例紹介：最短経路探索アルゴリズム
第10回	ゲームAIの実現（1）：ゲーム理論とは何か？
第11回	ゲームAIの実現（2）：ゲーム木とその探索手法
第12回	ゲームAIの実現（3）：知識を取り扱う方法
第13回	ゲームAIの実現（4）：確率で記述する（モンテカルロアルゴリズム）

第14回	ゲームAIの実現（5）：機械学習を応用する
第15回	最終課題または最終レポートの内容と準備

準備学習（予習・復習等）の内容とそれに必要な時間	(毎回の授業前に行うべき予習) 教科書の該当箇所の予習。  (毎回の授業終了後に行うべき復習) 教科書の該当箇所の復習、授業内で配布するレジュメの復習、課題及び小レポートの作成。  (その他) 「コンピュータプログラミングⅠ」および「人工知能」で学習する知識が習得済みであることを推奨する。
評価方法（割合）	各授業における課題及び小レポート (60%) 最終レポート (40%)

評価基準

秀	適切に問題点を指摘し、独自性のある現実的な解決策を論理的に提示できている。
優	指摘した問題点に対し、すぐれた解決策を論理的に提示できている。
良	指摘した問題点に対し、一応の解決策を提示できている。
可	問題点の指摘と解決策の提示が、いずれも最低限の水準を満たしている。
不可	問題点の指摘や解決策の提示ができていない。
放棄	出席回数が10回に満たない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	特筆すべきものについては一部、授業内で紹介する。課題やレポートの評価は適宜公開可とし、最終成績に反映する。
テキスト	【書名】ゲーム情報学概論－ゲームを切り拓く人工知能－ 【著者】伊藤毅志、保木邦仁、三宅陽一郎 【出版社】コロナ社 【出版年】2018 【ISBNコード】978-4339028850
参考書・参考資料等	必要な場合は講義で配付するレジュメで指示する。

卒業認定・学位授与方針との関連

◎特に関係性が深い、○関係性が深い	
情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	
情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	
情報学の知識や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる	○
地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	
人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	◎

メッセージ	ゲームコンテンツを制作する手法に関する授業ではありません。ゲームを科学的・工学的に捉え、コンピュータでどのように扱うかを学ぶ学問です。毎回、課題や小レポート、グループでの議論や発表などを交えつつ、学習を進めます。
教員との連絡方法	オフィスアワーを設けています。研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡もしくは在室時に直接面談に来てください。
担当教員の実務経験	-
備考	講義中、特段の理由がない限り私語、飲食、着帽、無断退室、携帯電話の操作を慎むこと。授業計画の順序や学習内容の配分は変更の可能性がある。

ページの先頭へ